

基本目標・重点目標・施策の基本的方向別事業概要

目 次

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり	2
基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり	58
基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり	86

基本目標・重点目標・施策の基本的方向別事業概要

※(再)は再掲事業・取組

※個別に予算を計上していないが実施している事業や取組は、当初予算額を「0」と記載

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり			
重点目標Ⅰ 男女平等意識の浸透			
(Ⅰ) 男女平等社会の形成についての理解を深めるための広報・啓発活動を推進します			
1 啓発資料の作成・配布	性別による固定的な役割分担意識の解消を図り、男女平等への理解を深めるため、啓発用パンフレットを県民各層に幅広く配布する。 ・配布対象 当課事業等の参加者、市町村等	0	○市町村研修会、企業交流会議等の開催時、パンフレットやリーフレットを参加者等に配布 ○「ふれ愛ほっとらいん」を作成し、ホームページに掲載するほかハッピー・パートナー企業や関係団体等に送付
2 男女共同参画週間(6/23～29)	国の取組に連動し、男女共同参画社会基本法の目的及び理念に対する県民の理解を深めるため、各層・各界で男女共同参画社会の実現に向けた様々な取組が行われるよう気運の醸成を図ることを目的に啓発活動を実施する。	0	男女共同参画週間に併せ、男女共同参画社会についての意識啓発を行う。 ・男女共同参画週間の広報 ・「ふれ愛ほっとらいん」への掲載 ・新潟ユニゾンプラザでのパネル展示 ・フェスティバルの開催(講演会、ワークショップ)
3 男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」の発行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知を図るとともに、男女平等に関するデータの紹介などにより、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図ることを目的として情報紙を発行する。 (発行開始 平成8年9月)	0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回/年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4～6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等を紹介する。
4 男女平等社会の形成推進事業	平成13年度に制定した「男女平等社会の形成の推進に関する条例」について県民への周知・浸透を図り、男女平等をめざし、共に参画できる社会づくりの実現を図る。	464	○「男女共同参画計画(男女平等推進プラン)推進状況」(年次報告書)の作成・公表 ○地域における男女共同参画推進体制づくりの支援 ○県民向けの啓発冊子等の配布 ○「第4次新潟県男女共同参画計画」(R4～R8)の周知・啓発 ○男女共同参画週間に併せたパネル展示等、男女共同参画社会についての意識啓発

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり

重点目標1 男女平等意識の浸透

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	市町村研修会や県政出前講座等において啓発冊子を配付し、男女平等推進に関する啓発に努めた。 また、年4回「ふれ愛ほっとらいん」を発行し、県の施策や国、市町村の関連情報、新潟県女性財団の講座情報等を周知した。	啓発冊子や「ふれ愛ほっとらいん」の発行を通じて男女平等社会の形成促進を図っていく。	政策企画課
0	○男女共同参画週間に併せ、男女共同参画社会についての意識啓発を行った。 ・「ふれ愛ほっとらいん」への掲載 ・新潟ユニゾンプラザでのパネル展示 等 ○男女共同参画週間のキャッチフレーズの周知や広報により、男女が共に取り組むべき課題であることの認知度を高めた。	男女共同参画週間に関連した広報・啓発を継続し、男女共同参画社会の実現に向けた気運の醸成を図っていく。	政策企画課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等の紹介。 ○掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点から望ましいものとした。 ○掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優先した。	庁内の関係課や市町村の事業等の情報収集を密に行い、掲載情報の充実を図る。	政策企画課
191	○第4次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)の策定・公表を行った。 ○「第3次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)進捗状況(年次報告書)」を作成し、公表した。 ○男女共同参画社会について広く県民から理解してもらうため、啓発冊子の配付やパネル・横断幕等の展示を行った。	・累次の「新潟県男女共同参画計画」に基づき、県の男女平等社会の形成に係る現状や課題を適切に捉え、今後の取組推進へとつながるような年次報告書の作成を行う。 ・啓発冊子配布、啓発パネルやフォトコンテスト作品展示等を通して、引き続き、男女共同参画の実現について県民から広く理解してもらえよう努める。	政策企画課

基本目標・重点目標・施策の基本的方向別事業概要

※(再)は再掲事業・取組

※個別に予算を計上していないが実施している事業や取組は、当初予算額を「0」と記載

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
5	人権啓発費	人権尊重の理念に関する県民相互の理解を深め、人権意識を全県的に浸透させることを目的とした事業を実施する。	24,298	1 人権啓発活動市町村委託 16市町村 2 媒体を利用した広報活動 テレビ放映、新聞広告、ラジオ放送、WEB広告 3 一般啓発 行政職員研修会、人権啓発講演会、映画上映会、人権教育指導者養成研修会、街頭啓発活動など 4 じんけんフェスティバル 人権啓発の総合的なイベントを開催 5 企業講演会 企業を対象とした人権講演会を開催
6	DV防止法の周知	配偶者からの暴力の防止と被害者の保護をするための施策について周知する。	409	配偶者からの暴力が犯罪ともなる重大な人権侵害であることを周知し、女性に対する暴力の根絶に向けた意識啓発と予防のための環境づくりを推進する。
7	ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標1 男女平等意識の浸透

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
24,310	○人権啓発活動市町村委託 17市町村 ○媒体を利用した広報活動 人権週間(12月4日～10日)に合わせテレビCM、WEB広告を展開、アルビレックスと連携した啓発動画を制作・配信 ○一般啓発 行政職員研修会1回、人権啓発講演会2回、街頭啓発活動(横断幕の掲示)など ○じんけんフェスティバル (新型コロナウイルス感染症の影響で中止) ○企業講演会 企業を対象とした人権講演会1回 ○「多様性を認め合う社会(性別や年齢等の固定観念にとらわれない社会)の実現」というテーマで、アルビレックスと連携した啓発動画制作・配信した。 ○「LGBTの理解促進とハラスメント対策」というテーマで企業向け講演会を開催した。	法務局・新潟市・新潟県人権擁護員連合会と県で構成する新潟県人権啓発活動ネットワーク協議会を中心としながら、講演会の開催や、スポーツ団体と連携した啓発試合の実施、戦略性を持った情報発信など、様々な手法を用いながら、一層の啓発に取り組む。 単発の情報発信ではなく、人権課題やターゲットにあわせ、新聞・テレビ・ラジオ・WEB広告など、様々な媒体を組み合わせながら効果的な情報発信を行う。	福祉保健総務課
457	○「配偶者暴力防止連絡会議」を書面開催。 構成機関34機関 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「配偶者暴力防止実務担当者会議」及び「DV防止セミナー」をオンライン同時開催。 ○配偶者暴力関係機関が出席する会議を開催し、課題の共有や情報交換につながった。	より多くの人に理解してもらえるように、引き続き、DV防止法の内容を周知していく。	子ども家庭課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課

基本目標・重点目標・施策の基本的方向別事業概要

※(再)は再掲事業・取組

※個別に予算を計上していないが実施している事業や取組は、当初予算額を「0」と記載

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 各種団体等と連携し、広報・啓発活動を推進します			
8 (公財)新潟県女性財団事業費補助事業	(公財)新潟県女性財団が実施する事業に要する費用を補助し、男女平等社会の形成のために、官民の協働を進めていく。	27,973	○情報事業 財団のホームページや機関紙による情報提供、啓発誌の発行など多様な情報発信により、男女共同参画社会実現に向けた有益な情報を県民に提供する。 ○研修事業 男女共同参画推進のための県民の理解や取組を促進するとともに、人材を育成する学習機会を提供する。 ○支援・交流事業 企業・団体、自治体や女性団体における男女共同参画の推進に向けた取組を支援するため、交流や情報の収集・発信の場を提供する。
(3) メディアを活用し、県民に対する啓発活動を推進します			
9 広報活動費	県政の執行にあたり、県民の理解と協力を得るため、県の重点施策の広報を中心に各種広報媒体を活用して広報活動を行う。	112,233	・「第4次新潟県男女共同参画計画」関連事業の取組を周知する。 ・各種広報における表現や挿絵等に配慮する。
10 (再) 啓発資料の作成・配布	性別による固定的な役割分担意識の解消を図り、男女平等への理解を深めるため、啓発用パンフレットを県民各層に幅広く配布する。 ・配布対象 当課事業等の参加者、市町村等	0	○市町村研修会、企業交流会議等の開催時、パンフレットやリーフレットを参加者等に配布 ○「ふれ愛ほっとらいん」を作成し、ホームページに掲載するほかハッピー・パートナー企業や関係団体等に送付
11 インターネットによる情報発信	ホームページ等を活用し、男女平等社会の形成に向け、広く県民等に対して各種情報の発信や啓発活動を行う。	0	○掲載内容 ・男女共同参画計画(男女平等推進プラン)の推進状況 ・政策企画課男女平等・共同参画推進室の事業概要 ・県男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」 ・ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の取組紹介 ・女性のチャレンジ・サイト ・男女平等推進相談室関連情報 ・県の審議会等への女性委員の登用状況 ・県男女平等社会推進審議会議事録 ・関係機関へのリンク 等

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり

重点目標1 男女平等意識の浸透

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
26,297	○情報事業 ・インターネット、機関紙による情報の提供。啓発誌「ぶっくらんす」の発行 ○研修事業 ・人材育成セミナー ・女性センター講座 ・共同参画ファシリテーター養成事業 ・男性向け講座 ・地域セミナー ○支援・交流事業 ・にいがた女と男フェスティバル開催事業 ・企業等における女性の活躍取組支援 ・各種団体等との連携・協働 ・行政職員交流支援事業 ○女性財団が実施した各種事業を通して、男女共同参画社会の形成に向けた県民の理解や取組の進捗が図られた。	・新潟県女性財団による人材育成事業、市町村や民間団体と連携した交流促進事業及び情報発信事業への事業費補助を行っており、実践的な活動により男女共同参画社会の形成の促進が図られている。 ・引き続き、財団における各種事業が効率的・効果的に行われるよう支援を行っていく。	政策企画課
112,233	○各種広報媒体で関連事業等の周知を行った。	今後も男女平等・共同参画の視点に配慮して継続していく。	広報広聴課
0	市町村研修会や県政出前講座等において啓発冊子を配付し、男女平等推進に関する啓発に努めた。 また、年4回「ふれ愛ほっとらいん」を発行し、県の施策や国、市町村の関連情報、新潟県女性財団の講座情報等を周知した。	啓発冊子や「ふれ愛ほっとらいん」の発行を通じて男女平等社会の形成促進を図っていく。	政策企画課
0	下記の掲載内容について随時更新した。 ○掲載内容 ・男女共同参画計画(男女平等推進プラン)の推進状況 ・男女平等社会推進課の事業概要 ・県男女平等社会推進課だより「ふれ愛ほっとらいん」 ・ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の取組紹介 ・女性のチャレンジ・サイト ・男女平等推進相談室関連情報 ・県の審議会等への女性委員の登用状況 ・県男女平等社会推進審議会議事録 ・関係機関へのリンク 等	課のホームページ等を活用し、男女平等社会の形成に向けた情報発信を行っている。今後も掲載情報の更新や増補を行い、広く県民から活用してもらえる情報発信に努める。	政策企画課

基本目標・重点目標・施策の基本的方向別事業概要

※(再)は再掲事業・取組

※個別に予算を計上していないが実施している事業や取組は、当初予算額を「0」と記載

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
	(4) メディアを通じて流れる様々な情報を主体的に収集、判断する能力、また適切に発信する能力を育成します			
12 (再)	広報活動費	県政の執行にあたり、県民の理解と協力を得るため、県の重点施策の広報を中心に各種広報媒体を活用して広報活動を行う。	112,233	・「第4次新潟県男女共同参画計画」関連事業の取組を周知する。 ・各種広報における表現や挿絵等に配慮する。
13	広報広聴委員会	県が行う広報広聴活動の基本方針及び県の重点施策に関する広報広聴の企画について審議し、並びに県の広報広聴に関する連絡調整を行う。	0	・引き続き、庁内で連携して実施すべき重要事業を「戦略的広報事業」として選定し、全庁的な情報共有を行うとともに、部局横断的な連携手法等を検討・調整を行う。
14 (再)	男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」の発行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知を図るとともに、男女平等に関するデータの紹介などにより、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図ることを目的として情報紙を発行する。 (発行開始 平成8年9月)	0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回/年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4～6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等を紹介する。
15	市町村男女平等推進担当者研修会	男女平等社会の形成を推進するためには、住民と最も身近な市町村の取組が重要であることから、市町村男女平等推進担当者を対象に取組状況に応じた研修を開催する。	0	○行政職員基礎研修会 ・((公財)新潟県女性財団「行政職員交流支援事業」と共催) ・令和4年6月7日 オンライン開催 ・講義、グループワーク(講師:西原亜矢子 長岡技術科学大学 男女共同参画推進室 特任講師) ○男女共同参画推進体制づくり研修会 ・((公財)新潟県女性財団「行政職員交流支援事業」と共催) ・令和5年1月開催予定
16	男女共同参画推進員の設置	男女共同参画を推進するため、職員への意識啓発、施策への男女平等の視点の導入を図るため、庁内各所属に男女共同参画推進員を置くもの。	0	○男女共同参画への取組促進に向けた情報の提供 ※ 研修会等の開催は未定(新型コロナウイルスの流行状況により検討)

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり

重点目標1 男女平等意識の浸透

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
112,233	○各種広報媒体で関連事業等の周知を行った。	今後も男女平等・共同参画の視 点に配慮して継続していく。	広報広聴課
0	○広報広聴委員会の開催 ○男女平等推進事業の周知に係る事前把握	今後も男女平等・共同参画の視 点に配慮して継続していく。	広報広聴課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組 や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県 民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平 等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企 業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女 平等社会の形成に関する情報等の紹介。 ○掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点 から望ましいものとした。 ○掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優 先した。	庁内の関係課や市町村の事業等 の情報収集を密に行い、掲載情報 の充実を図る。	政策企画課
0	○行政職員基礎研修会 ・((公財)新潟県女性財団「行政職員交流支援事 業」と共催) ・令和2年5月25日 オンライン開催 ・講義、グループワーク(講師:渡邊洋子 新潟大学 創生学部教授) ○男女共同参画推進体制づくり研修会 ・((公財)新潟県女性財団「行政職員交流支援事 業」と共催) ・令和4年1月11日 オンライン開催 ・講義(講師:池田恵子 減災と男女共同参画研修 センター共働代表静岡大学教育学部 同大学防災総 合センター教授)	引き続き、市町村の男女平等推 進を担当する職員に対し、取組状 況に応じた研修を実施する。	政策企画課
0	○新型コロナウイルス感染拡大により研修会の開催 を見送り	男女共同参画の視点を踏まえた 全庁的な施策展開を図るため、引 き続き、各所属における取組を推進 する職員を対象にした研修を実施 する。	政策企画課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり			
重点目標Ⅱ 男女平等の視点に立った社会制度・慣行等の見直し			
(1) 社会制度、慣行等を男女平等の視点で点検し、実態把握に努めます			
17 (再) 男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」の発行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知を図るとともに、男女平等に関するデータの紹介などにより、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図ることを目的として情報紙を発行する。 (発行開始 平成8年9月)	0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回/年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4～6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等を紹介する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり 重点目標2 男女平等の視点に立った社会制度・慣行等の見直し

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等の紹介。 ○掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点から望ましいものとした。 ○掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優先した。	庁内の関係課や市町村の事業等の情報収集を密に行い、掲載情報の充実を図る。	政策企画課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 男女共同参画に関する調査や情報収集を行い、課題を整理し、提供します				
18 (再)	広報活動費	県政の執行にあたり、県民の理解と協力を得るため、県の重点施策の広報を中心に各種広報媒体を活用して広報活動を行う。	112,233	・「第4次新潟県男女共同参画計画」関連事業の取組を周知する。 ・各種広報における表現や挿絵等に配慮する。
19	広聴活動事業費	1 県民相談運営(県民相談室、知事へのたより、県庁舎案内) 2 調査広聴事業(県民アンケート調査) 3 地域別懇談会(知事と一緒に車座トーク)	17,356	今後も男女双方の視点から意見が伺えるよう、参加者の選定に配慮する。
20 (再)	啓発資料の作成・配布	性別による固定的な役割分担意識の解消を図り、男女平等への理解を深めるため、啓発用パンフレットを県民各層に幅広く配布する。 ・配布対象 当課事業等の参加者、市町村等	0	○市町村研修会、企業交流会議等の開催時、パンフレットやリーフレットを参加者等に配布 ○「ふれ愛ほっとらいん」を作成し、ホームページに掲載するほかハッピー・パートナー企業や関係団体等に送付
21 (再)	男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」の発行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知を図るとともに、男女平等に関するデータの紹介などにより、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図ることを目的として情報紙を発行する。 (発行開始 平成8年9月)	0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回/年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4～6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等を紹介する。
22 (再)	インターネットによる情報発信	ホームページ等を活用し、男女平等社会の形成に向け、広く県民等に対して各種情報の発信や啓発活動を行う。	0	○掲載内容 ・男女共同参画計画(男女平等推進プラン)の推進状況 ・政策企画課男女平等・共同参画推進室の事業概要 ・県男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」 ・ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の取組紹介 ・女性のチャレンジ・サイト ・男女平等推進相談室関連情報 ・県の審議会等への女性委員の登用状況 ・県男女平等社会推進審議会議事録 ・関係機関へのリンク 等

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標2 男女平等の視点に立った社会制度・慣行等の見直し

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
112,233	○各種広報媒体で関連事業等の周知を行った。	今後も男女平等・共同参画の視 点に配慮して継続していく。	広報広聴課
17,675	○知事と一緒に車座トーク 女性の参加が1名以上となるよう配慮、男女双方 の視点から意見を伺うことができた。 ・年3回実施 女性参加者 4名/14名	今後も男女双方の視点から意見 が伺えるよう、テーマ、出席者の選 定に配慮する。	広報広聴課
0	市町村研修会や県政出前講座等において啓発冊子 を配付し、男女平等推進に関する啓発に努めた。 また、年4回「ふれ愛ほっとらいん」を発行し、県の 施策や国、市町村の関連情報、新潟県女性財団の講 座情報等を周知した。	啓発冊子や「ふれ愛ほっとらいん」 の発行を通じて男女平等社会の形 成促進を図っていく。	政策企画課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組 や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県 民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平 等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企 業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女 平等社会の形成に関する情報等の紹介。 ○掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点 から望ましいものとした。 ○掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優 先した。	庁内の関係課や市町村の事業等 の情報収集を密に行い、掲載情報 の充実を図る。	政策企画課
0	下記の掲載内容について随時更新した。 ○掲載内容 ・男女共同参画計画(男女平等推進プラン)の推進 状況 ・男女平等社会推進課の事業概要 ・県男女平等社会推進課だより「ふれ愛ほっとらい ん」 ・ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推 進企業)の取組紹介 ・女性のチャレンジ・サイト ・男女平等推進相談室関連情報 ・県の審議会等への女性委員の登用状況 ・県男女平等社会推進審議会議事録 ・関係機関へのリンク 等	課のホームページ等を活用し、男 女平等社会の形成に向けた情報発 信を行っている。今後も掲載情報の 更新や増補を行い、広く県民から活 用してもらえる情報発信に努める。	政策企画課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
23	男女平等社会推進 審議会の運営	・男女平等社会の形成に向けて、総合的な 施策の推進を図るため、各方面からの意見 聴取を行い、県の施策に反映させる。 ・「新潟県男女平等社会の形成の推進に関 する条例」に規定される相談又は施策に関 する苦情について知事(県)に諮問された場 合に答申する。	251	「第3次新潟県男女共同参画計画(男女平等推 進プラン)」の推進状況について1回開催予定
24	男女平等社会推進 連絡調整費	国、県、市町村の関係機関及び関係団体 と連絡調整を図り、男女平等社会の形成に 向けた取組の推進を図るため、各種会議へ の参加、開催及び調査等の実施並びに調 整を行う。	0	○都道府県主管課長会議及び16都道府県男女 共同参画行政主管課長会議での意見交換 ○国、他都道府県からの各種調査への対応及び 情報の提供
25	図書情報ルームの充 実	新潟ユニゾンプラザ2階にある図書情報 ルームにおいて、男女平等推進関連の出 版物やビデオ等の購入により情報の充実を 図る。	232	新潟ユニゾンプラザ図書情報ルームの図書等 の購入について、所管している福祉保健総務課 へ必要な図書等の整備を要望し、男女平等関連 図書の一層の充実に努める。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標2 男女平等の視点に立った社会制度・慣行等の見直し

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
882	○第1回 令和3年7月13日開催 「第4次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)」の重点目標及び施策の基本的方向案について ○第2回 令和3年9月16日開催 「第4次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)」の素案について ○第3回 令和3年11月8日開催 「第3次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)」の進捗状況<令和3年度版>(案)について 「第4次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)」の修正後素案について ○第4回 令和4年2月15日開催 「第4次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)」の答申案について	・総合的な施策の推進を図るため、毎年度開催する。 ・また委員委嘱にあたっては、男女の均衡に努める。	政策企画課
54	○都道府県主管課長会議に出席し、国及び他県等の情報収集を行った。(オンライン開催) ○16都道府県男女共同参画行政主管課長会議の意見照会等を通じて情報交換を行った。(書面開催) ○国、他都道府県からの各種調査への対応及び情報提供を行った。	国主催の会議等へは、引き続き参加し、職員の資質向上を図るとともに、他県等との連携を図る。	政策企画課
244	○令和3年度は、社協に要望し、32冊の男女共同参画関係図書を配架した。 ○男女共同参画に関する図書を置くことで、情報量の充実を図った。	引き続き、様々な分野にわたる男女共同参画に関する図書等の充実に努める。	政策企画課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり			
重点目標3 学校等における男女平等教育の深化			
(1) 学校等における男女平等を推進する教育・学習を充実します			
26 性別による固定的役割分担意識が育つことのないように配慮すること(保育)	保育等において性別による固定的役割分担意識が育つことのないように配慮する。	0	特別な事業は実施していないが、市町村及び保育関係団体の求めに応じ、会議や研修の企画時に、適当な講師の紹介や企画への助言などを随時行う。
27 幼稚園教育における男女平等教育の充実	幼稚園教育において男女平等教育の充実を図る。	0	幼稚園教育要領に基づいた教育を推進し、男女平等に配慮した教育活動の充実に努める。
28 学習指導要領に基づき、社会科・家庭科等における男女平等教育の充実	各教科等において、男女平等教育の充実を図る。	0	○学習指導要領に基づき、社会科、家庭科等の教科学習において、人権の尊重、男女の平等の教育の充実に努める。 ○義務教育においては男女共通履修・共学を実施しており、男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性について認識を深めるよう努める。
29 学習指導要領に基づき、道徳・特別活動等における男女平等教育の充実	道徳教育や特別活動等、教育活動全体を通じて、男女平等教育の充実を図る。	0	学習指導要領に基づき、道徳教育や特別活動等の領域において、人権の尊重、男女の平等等の教育の充実に努める。
30 性別による固定的な役割分担意識にとらわれることのない進路指導(教育・義務教育)	性別による固定的な役割分担意識にとらわれることのない進路指導を推進する。	0	職場体験等の学習において、性別による固定的な役割分担意識にとらわれることのない進路指導を行う。
31 性別による固定的な役割分担意識に基づいて学校運営が行われないよう努めること(教育・義務教育)	性別による固定的な役割分担意識にとらわれることのない学校運営を推進する。	0	教職員の特性を生かし、性別による固定的な役割分担意識にとらわれることのない学校運営を行う。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標3 学校等における男女平等教育の深化

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○各保育所が、「保育所保育指針」に基づき、人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切に する心を育てることを目標の一つとして保育を行う よう配慮した。 ○児童福祉施設においては、新潟県児童福祉施設 の設備及び運営に関する基準を定める条例に基づき 入所している者に対して性別を問わず平等な扱いと なるよう配慮した。	今後も保育所においては「保育所 保育指針」に基づく保育を、児童福祉 施設においては、新潟県児童福祉 施設の設備及び運営に関する基準 を定める条例に基づき入所者に対 応していく。	子ども家庭課
0	○男女平等教育の方針説明と教員の意識啓発 新任幼稚園教諭研修会、6年次研修、中堅教諭等 資質向上研修(幼稚園)、幼稚園新任園長・教頭研修 において、男女平等教育及び男女共同参画の基本的 な考え方の指導や個々の意識啓発を行った。	・計画的な研修を実施した結果、男 女平等教育についての基本的理解 が図られてきており、今後も効果的 な研修に努めることとする。 ・実際に園児とかかわる場面を想定 するなど、更に研修の工夫・改善を 図る。	義務教育課
0	○授業等における取組 ・社会科、家庭科等において、人権の尊重、男女の 平等など、学習指導要領に示されている男女平等教 育に関わる内容を指導した。 【社会科】 小学校「わたしたちのくらしと日本国憲法」 中学校「人権と共生社会」等 【家庭、技術・家庭科】 小学校「家庭生活と家族」 中学校「家族と家庭と子どもの成長」等	・学習指導要領の趣旨を踏まえた 教育活動が定着するよう各種研修 で取り上げ、支援する。今後、女性 活躍推進法の視点に立った教育活 動の実施について周知していく。 ・全教職員で取組を推進するため、 年間指導計画等の改善と指導体制 の整備を進め、その内容を共有で きる仕組みを整える。	義務教育課
0	○特別の教科 道徳、特別活動等をはじめ、教育活 動全体を通じて、人権の尊重、男女の平等など、学習 指導要領に示されている男女平等教育に関わる内容 を指導した。 【特別の教科 道徳】 小学校「信頼友情・男女協力」 中学校「異性の理解」 【特別活動】 中学校「男女相互の理解と協力」	新学習指導要領の趣旨・内容を 反映した教育活動が定着するよう 支援する。	義務教育課
0	○学校への指導 各種研修会において、性別による固定的な役割分 担の意識にとらわれずに、適切な相談・助言を行う進 路指導の推進を指導した。 ○学校における指導 職場体験等の学習において、固定的性別役割分 担意識にとらわれることのない進路指導を行った。	職場体験の在り方を工夫するな ど、性別による固定的な役割分担 意識にとらわれず、個を生かす進 路指導の充実を目指し、周知を 図っていく。	義務教育課
0	○管理職を対象とした研修の実施 ・新任校長研修や新任教頭研修において、固定的性 別役割分担意識にとらわれることのない学校運営が 行われるよう指導した。併せて、学校運営のチェックと 見直しを行うよう指導した。 ・管理職研修において、日常の校務で、職場の教職 員に対して、新潟県の「男女共同参画計画」(男女平 等推進プラン)等を踏まえ、職場環境の点検や改善を 図るよう働きかけを行った。	・計画的な研修を実施した結果、基 本的理解は図られてきている。 ・国立女性教育会館の「学校におけ る男女共同参画研修」により、教職 員の働き方やキャリア形成に男女 共同参画の基本理念を周知する。 ・ワーク・ライフ・バランスの実現等、 女性活躍推進法の視点に立った校 内研修の実施等について、一層周 知していく。	義務教育課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
32	学習指導要領に基づき、家庭、公民科等各教科における男女平等教育を充実すること	各教科において男女平等教育の充実を図る。	0	家庭科、公民科等の授業をととして、女性の社会参画の意義、男女が協力して家庭を築くことの重要性、ワーク・ライフ・バランス、ジェンダー等について認識させるよう努める。
33	学習指導要領に基づきホームルームをはじめ、特別活動等における男女平等教育を充実すること	ホームルーム、特別活動等において男女平等教育の充実を図る。	0	ホームルーム、特別活動をととして、人権尊重の精神を涵養し、社会や家庭等の様々な場面において、男女共同参画の視点から互いの個性を尊重し合う態度を養う。
34	性別による固定的な役割分担意識にとらわれることのない進路指導(教育・高等学校教育)	性別による固定的な役割分担意識にとらわれない進路指導を行う。	0	進学・就職にかかわらず、性別による固定的な役割分担意識にとらわれることなく、社会貢献の重要性と卒業後の進路を考えさせるような指導を行う。
35	性別による固定的な役割分担意識に基づいて学校運営が行われないよう努めること(教育・高等学校教育)	性別による固定的な役割分担意識にとらわれない学校運営を推進する。	0	・教職員の男女差別やセクシャルハラスメントを予防するよう校長を指導し、健全な職場環境を維持する。 ・男女の別なく、適材適所の分掌配置を行うよう校長を通じて指導する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標3 学校等における男女平等教育の深化

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○男女が協力して家事や子育て、家族の介護等にかかわるために必要な知識と技術を習得させるとともに、家庭生活の充実向上を図る実践的態度を育てるよう努めた。 ○家庭科、公民科等の授業で、男女平等教育を取り扱い、男女共同参画の意義やワークライフバランス等について生徒の理解を深めることができた。	各校においては、家庭科等の中で着実に取組が進められている。 今後とも継続した取組を行うとともに、男女平等教育に関する教材等を活用していく。	高等学校教育課
0	○外部講師による生徒対象の講演会を実施するなど、ホームルーム等において、男女共同参画の視点にたった社会づくりの意義や家族・家庭の在り方等について指導した。 ○学校生活における様々な集団活動の場面で、男女共同参画の視点に立った男女平等の意識が高まった。	男女平等の視点に立った授業が行われているが、ホームルームをはじめ特別活動等で、男女平等教育を一層推進する。	高等学校教育課
0	○性別にとらわれない進路指導が各校で行われているか点検を行った。	性別による固定的な役割分担意識にとらわれない進路指導に一層努める。	高等学校教育課
0	○概ね月1回行われる校長研修会と副校長・教頭研修会において、セクシャルハラスメント、わいせつ行為や男女差別の防止について管理職を指導し、学校現場の健全な職場環境の維持に取り組んだ。 ○適材適所の校内人事を行うよう、管理職を指導した。	・「ハラスメントの防止及び対応に関する指針」の周知と合わせて、男女平等社会の実現に向け指導を継続していく。 ・男女の差別なく、適材適所の人事配置を続けるよう、管理職への指導を継続する。	高等学校教育課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 教職員等の研修を充実します			
36 保育研修事業等補助金	保育士等の保育事業従事者の資質向上のため、保育関係団体が実施する研修・研究事業に要する経費に対し、助成する。	219	男女平等社会推進をテーマにした研修・研究に限定してはでないが、令和4年度は新潟県保育連盟に補助を実施する予定。
37 教育関係者等への研修・情報提供(教育・義務教育)	男女平等教育にかかわる研修の機会の確保や各種研修会で適切な情報提供を行う。	0	男女平等教育にかかわる研修の機会の確保や各種研修会で適切な情報提供を行う。
38 教職員等の研修の充実(教育・義務教育)	教職員の資質向上のため、研修を実施する。	0	研修に、人権教育をとした男女平等教育を計画的に位置づけ、教職員の意識を高め、男女平等を推進する。 (1) 初任者研修(小中学校対象) (2) 幼稚園等新規採用教育研修 (3) 教職6年次研修、中堅教諭等資質向上研修 (4) 管理職の研修(教育施策等方針説明会、小・中・特別支援教育諸学校新任校長、幼稚園長研修、幼・小・中・特別支援教育諸学校新任教頭研修) (5) 人権教育、同和教育主任等研修
39 教育関係者等への研修・情報提供(教育・高等学校教育)	研修の機会を確保するとともに適切な情報提供を行う。	0	研修の機会を確保するとともに適切な情報提供を行う。
40 教職員等の研修の充実(教育・高等学校教育)	教職員の資質向上のため研修を実施する。	0	各種研修会に男女平等教育を位置付け指導する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標3 学校等における男女平等教育の深化

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
219	保育士等の保育事業従事者の資質向上のため、保育関係団体が実施する研修・研究事業に要する経費に対し、補助した。	多様な保育ニーズや現場の保育士からの要望を反映した研修内容としていく。	子ども家庭課
0	○男女平等教育にかかわる研修の設定や国の第4次男女共同参画基本計画や第3次新潟県男女共同参画計画の趣旨について説明するなど、適切な情報提供を行った。	今後、第4次新潟県男女共同参画計画の概要、国の第5次男女共同参画基本計画、女性活躍推進法の着実な施行等について適切な情報提供を行うとともに、中央研修等、今後指導的な役割を担う指導者の養成に係る研修に女性の参加を促していく。	義務教育課
0	○各種研修会の中に男女平等教育を位置づけ、研修対象の立場や経験に応じた内容を指導した。 ・初任者研修 ・教職6年次研修、中堅教諭等資質向上研修 ・管理職研修(新任教頭 新任校長) ・人権教育、同和教育主任等研修会 等 ○「新潟県人権教育基本方針」に基づき、人権教育に関する校内研修の活性化と内容の工夫を図った。	・研修内容が、確実に各校内で共有され、計画的・組織的な取組となるよう、指導を丁寧に行う。 ・性別に関わらず多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓くことができる子どもを育成するため、国立女性教育会館の「学校における男女共同参画研修」を周知するなど、教職員の研修の機会を充実させる。	義務教育課
0	○すべての県立高校で「男女平等教育推進委員会」を設置し、委員会を中心に教職員に対する男女平等教育に関する啓発と研修の充実を図っている。	男女平等教育推進委員会の活動を中心に、男女平等教育に関する啓発と研修の充実を図る。	高等学校教育課
0	○各種研修における講義の中で、人権の尊重や男女平等に関する情報提供に努めた。 ○男女共同参画の視点を踏まえた研修を行うよう各学校を指導した。 ○研修の計画等に当たっては、各学校で男女平等教育推進員が中心となって進めるよう配慮した。	男女がそれぞれの特性や違いを受け止め、互いに理解し合う心や実践的態度を育成するため、各学校での取組の支援に努める。	高等学校教育課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
41	教育関係者等への 研修・情報提供(教 育・生涯学習)	生涯学習・社会教育担当者への学習機会 や学習情報の提供を充実する。 ラ・ラ・ネット(生涯学習情報提供システ ム)は、インターネットを通じて、学習機会、 施設、ボランティア、団体・グループ、ふるさと 情報(国・県・市町村指定の文化財)、指導 者等の情報を提供している。	5,618	○昨年度と同様にコロナ禍のため、ハイブリッド 型研修を活用し、学びを継続する取組を行う。 ○男女平等社会の推進や男女平等意識・人権感 覚を高めるための学習機会・学習情報の提供に 努める。 ○男女平等意識の啓発、男女共同参画社会の 形成に資する学習講座及び指導者等、関連する 情報の収集・提供に努める。 ○ラ・ラ・ネット上のマイページ(登録団体用ホー ムページ)を活用した県内の生涯学習関連施設・ 団体等の情報発信の支援を進める
42	国立女性教育会館 等の研修事業への 参加促進	独立行政法人国立女性教育会館(ヌエッ ク)で行われる研修事業への参加を促進 し、男女共同参画社会に関する理解を深 め、生涯学習・社会教育における指導の充 実を図る。	0	国立女性教育会館等の研修について市町村教 育委員会、関係機関・団体に通知し、参加を促 す。
43	PTA指導者研修会	小・中・特別支援学校PTA指導者研修会 ・児童生徒の健全育成に向けたPTA活動 の活性化を図るため、PTAの役員等を対象 にPTA活動に関する研修を行う。	279	○小・中・特別支援学校等PTA指導者研修会 ・会場 4会場(上越・中越2・下越地区) ・対象 小・中・義務教育・中等教育・特別支援 学校PTA役員、教員等 ・テーマ「学校と家庭、地域をつなぐPTA活動の 工夫」 ※性別に基づく固定的な役割分担意識にとらわ れず、個性と能力が発揮され、主体的に参画する ことのできる学校教育や家庭教育、地域活動を 支援するPTA活動につながる研修会とする。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標3 学校等における男女平等教育の深化

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
5,620	○家庭教育支援基本研修会 126名参加 ○市町村等で生涯学習講座等を企画・運営する職員や指導者向けの研修会で、男女平等社会の推進や人権教育の大切さに触れ、関連する学習機会や学習情報を住民に提供することの大切さを伝えた。 ○講座等の企画・運営を支援するため、ラ・ラ・ネットの指導者情報データベースで関連する分野の講師の登録を進めた。R4.3現在602件。 ○また、ラ・ラ・ネット上のマイページを活用して県内にある関係団体等の情報発信を支援する取組を推進した。R3年度末時点で333団体が登録している。 ○男女平等意識の向上、男女共同参画社会の形成に資する学習講座やグループ・団体・指導者の登録を推進している。 ○より多くの県民に男女共同参画関連事業について周知できるよう、研修では担当職員の理解と講座の企画力を高める内容を取り入れる。 ○ラ・ラ・ネットを使った「いきいき県民カレッジ」の講座紹介や登録数の拡大など、男女平等社会の推進や男女平等意識・人権感覚の向上に関わる学習機会・学習情報の提供に努めた。	・男女共同参画や男女平等など、望ましい人権感覚を醸成する学習機会の充実に向けて、社会教育担当職員等の理解と意識を高める研修会を充実させていく。 ・市町村や教育機関へ、関連する講座や講演会の情報を提供するとともに、学習会や研修会を企画・運営する際の支援を進めていきたい。 ・ラ・ラ・ネット上のマイページには、男女共同参画を推進する団体としては、「刈羽村女性ネットワークの会」等の団体登録がある。今後もこの分野の指導者・登録者を増やしていく。	生涯学習推進課
0	独立行政法人国立女性教育会館で行われる研修事業について、関係機関への情報提供に努めた。	今後も継続していく。	生涯学習推進課
318	○小・中・特別支援学校等PTA指導者研修会 ・新型コロナウイルスのため、オンラインによる動画配信及び新潟県生涯学習情報提供システム(ラ・ラ・ネット)内の録画配信により実施した。 ・参加者 511名、アンケート回答数307名 ・事業実施後のアンケートからは、研修会への満足度が93%であった。	・役員は数年で交代することから、研修のニーズは高い。 ・今後は、学校・家庭・地域が連携した地域学校協働活動の視点が求められる。	生涯学習推進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり 重点目標4 男女平等に関する学習機会の確保			
(1) 男女平等意識を高めるための学習機会を提供します			
44 (再) (公財)新潟県女性財団事業費補助事業	(公財)新潟県女性財団が実施する事業に要する費用を補助し、男女平等社会の形成のために、官民の協働を進めていく。	27,973	○情報事業 財団のホームページや機関紙による情報提供、啓発誌の発行など多様な情報発信により、男女共同参画社会実現に向けた有益な情報を県民に提供する。 ○研修事業 男女共同参画推進のための県民の理解や取組を促進するとともに、人材を育成する学習機会を提供する。 ○支援・交流事業 企業・団体、自治体や女性団体における男女共同参画の推進に向けた取組を支援するため、交流や情報の収集・発信の場を提供する。
45 (再) 人権啓発費	人権尊重の理念に関する県民相互の理解を深め、人権意識を全県的に浸透させることを目的とした事業を実施する。	24,298	1 人権啓発活動市町村委託 16市町村 2 媒体を利用した広報活動 テレビ放映、新聞広告、ラジオ放送、WEB広告 3 一般啓発 行政職員研修会、人権啓発講演会、映画上映会、人権教育指導者養成研修会、街頭啓発活動など 4 じんけんフェスティバル 人権啓発の総合的なイベントを開催 5 企業講演会 企業を対象とした人権講演会を開催
46 いきいき県民カレッジ充実費	県・市町村・高等教育機関等の生涯学習事業を体系化し、県民に多様な学習機会を提供する。	1,376	○いきいき県民カレッジ ・短期コース、長期コース ・9分野 ・単位認定制 ・「講座一覧」冊子を年2回発行 ※女性も男性も個性と能力を発揮し、多様な生き方を選択し、社会のあらゆる分野に参画するための多様な学習機会を提供する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標4 男女平等に関する学習機会の確保

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
26,297	○情報事業 ・インターネット、機関紙による情報の提供。啓発誌「ぶっくばらんず」の発行 ○研修事業 ・人材育成セミナー ・女性センター講座 ・共同参画ファシリテーター養成事業 ・男性向け講座 ・地域セミナー ○支援・交流事業 ・にいがた女と男フェスティバル開催事業 ・企業等における女性の活躍取組支援 ・各種団体等との連携・協働 ・行政職員交流支援事業 ○女性財団が実施した各種事業を通して、男女共同参画社会の形成に向けた県民の理解や取組の進捗が図られた。	・新潟県女性財団による人材育成事業、市町村や民間団体と連携した交流促進事業及び情報発信事業への事業費補助を行っており、実践的な活動により男女共同参画社会の形成の促進が図られている。 ・引き続き、財団における各種事業が効率的・効果的に行われるよう支援を行っていく。	政策企画課
24,310	○人権啓発活動市町村委託 17市町村 ○媒体を利用した広報活動 人権週間(12月4日～10日)に合わせテレビCM、WEB広告を展開、アルビレックスと連携した啓発動画を制作・配信 ○一般啓発 行政職員研修会1回、人権啓発講演会2回、街頭啓発活動(横断幕の掲示)など ○じんけんフェスティバル (新型コロナウイルス感染症の影響で中止) ○企業講演会 企業を対象とした人権講演会1回 ○「多様性を認め合う社会(性別や年齢等の固定観念にとらわれない社会)の実現」というテーマで、アルビレックスと連携した啓発動画制作・配信した。 ○「LGBTの理解促進とハラスメント対策」というテーマで企業向け講演会を開催した。	法務局・新潟市・新潟県人権擁護員連合会と県で構成する新潟県人権啓発活動ネットワーク協議会を中心としながら、講演会の開催や、スポーツ団体と連携した啓発試合の実施、戦略性を持った情報発信など、様々な手法を用いながら、一層の啓発に取り組む。 単発の情報発信ではなく、人権課題やターゲットにあわせ、新聞・テレビ・ラジオ・WEB広告など、様々な媒体を組み合わせながら効果的な情報発信を行う。	福祉保健総務課
1,538	○いきいき県民カレッジ ・県民を対象に9分野で講座を実施した。 - 登録講座数:2,028講座 - 受講者数:75,068名 ・「講座一覧」冊子を年2回発行して情報提供に努めた。 ・いきいき県民カレッジの奨励証(学長賞)の表彰式を行い、受講者の学習意欲の向上を図った。 ・男女平等の視点を含む多様な学習情報を冊子やラ・ラ・ネットで提供している。	・昨年度よりも講座数や受講者数が増加した。 ・参加状況に男女の大きな偏りは見られない。 ・今後も男女共同参画の視点を取り入れた講座の開設と幅広い情報の提供ができるように努めていく。 ・今後も働く女性や男性が参加しやすい講座の開設に向けて、オンライン等も含めた工夫を市町村に働き掛けていく。	生涯学習推進課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
47	にいがた連携公開講座開催費	県民の学習ニーズの多様化・高度化に対応するため、県及び県内大学等高等教育機関と市町村が連携して多様で高度な学習機会を提供する。	124	○にいがた連携公開講座2021 にいがた連携公開講座は、事業の見直しを図り令和3年度で終了した。 令和4年度は、県民に生涯学び活躍できる循環型生涯学習社会の実現に向けた意識啓発を図るため、県内で活躍している著名人の講演会と社会教育関係団体による啓発活動を行う。
48	人権教育指導者養成事業	人権教育にかかわる行政担当者等の指導力の向上を目指す。 ・人権教育指導者研修会 ・人権教育行政担当者研究協議会	601	○人権教育指導者研修会 ○人権教育行政担当者研究協議会 ※生涯を通じて個人の尊厳と男女平等意識を高めるために、研修会に、より実践的な手法を取り入れるなどし、人権教育にかかわる行政担当者・社会教育関係者の指導力の向上を目指す。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標4 男女平等に関する学習機会の確保

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
350	○にいがた連携公開講座2021 ・対象者 一般県民 ・講座内容 現代的課題及び知的好奇心を満たす講座(郷土の歴史、健康、歴史文化、虐待防止など)を6講座実施した。 ・会場は参加者の利便性に配慮して県内6会場で開催した。 ・受講者463名、アンケート回答数324名 ・事業実施後のアンケートからは、「成果があった」という回答が91%であった。	・受講者数は昨年度よりも増加した。県民を対象としていることや、オンラインを併用することで市外からも多く参加いただいている。 ・本事業は終了したが、男女平等の視点を含めた人権問題を取り入れた講座等を検討する。	生涯学習推進課
601	○人権教育指導者研修会 対象者 社会教育委員、民生・児童委員、PTA役員、自治会役員、行政職員、学校教職員、企業の人権教育担当者等 実施回数 1回 参加者 58名 ・男女平等の視点を含む人権教育につながる情報を資料や講演の中で提供 ○人権教育行政担当者研究協議会 対象者 市町村生涯学習・社会教育主管課人権教育担当者 実施回数 1回 参加者 26名 ・新潟県人権教育基本方針改定の趣旨を周知するとともに、人権に配慮した社会教育行政の推進の重要性及び男女平等意識の視点を含む人権意識の向上につながる講演や資料を提供	人権教育基本方針改定の趣旨を伝えるとともに、人権尊重を基盤にした研修会を今後も継続する。	生涯学習推進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2)性別による固定的な役割分担意識にとらわれず、個性と能力を十分に発揮した生き方を選択できるよう、学習機会の充実や学習情報の提供に努めます			
49 (再) いきいき県民カレッジ 充実費	県・市町村・高等教育機関等の生涯学習事業を体系化し、県民に多様な学習機会を提供する。	1,376	○いきいき県民カレッジ ・短期コース、長期コース ・9分野 ・単位認定制 ・「講座一覧」冊子を年2回発行 ※女性も男性も個性と能力を発揮し、多様な生き方を選択し、社会のあらゆる分野に参画するための多様な学習機会を提供する。
50 (再) にいがた連携公開講座開催費	県民の学習ニーズの多様化・高度化に対応するため、県及び県内大学等高等教育機関と市町村が連携して多様で高度な学習機会を提供する。	124	○にいがた連携公開講座2021 にいがた連携公開講座は、事業の見直しを図り令和3年度で終了した。 令和4年度は、県民に生涯学び活躍できる循環型生涯学習社会の実現に向けた意識啓発を図るため、県内で活躍している著名人の講演会と社会教育関係団体による啓発活動を行う。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標4 男女平等に関する学習機会の確保

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
1,538	○いきいき県民カレッジ ・県民を対象に9分野で講座を実施した。 - 登録講座数:2,028講座 - 受講者数:75,068名 ・「講座一覧」冊子を年2回発行して情報提供に努めた。 ・いきいき県民カレッジの奨励証(学長賞)の表彰式を行い、受講者の学習意欲の向上を図った。 ・男女平等の視点を含む多様な学習情報を冊子やラ・ラ・ネットで提供している。	・昨年度よりも講座数や受講者数が増加した。 ・参加状況に男女の大きな偏りは見られない。 ・今後も男女共同参画の視点を取り入れた講座の開設と幅広い情報の提供ができるように努めていく。 ・今後も働く女性や男性が参加しやすい講座の開設に向けて、オンライン等も含めた工夫を市町村に働き掛けていく。	生涯学習推進課
350	○にいがた連携公開講座2021 ・対象者 一般県民 ・講座内容 現代的課題及び知的好奇心を満たす講座(郷土の歴史、健康、歴史文化、虐待防止など)を6講座実施した。 ・会場は参加者の利便性に配慮して県内6会場で開催した。 ・受講者463名、アンケート回答数324名 ・事業実施後のアンケートからは、「成果があった」という回答が91%であった。	・受講者数は昨年度よりも増加した。県民を対象としていることや、オンラインを併用することで市外からも多く参加いただいている。 ・本事業は終了したが、男女平等の視点を含めた人権問題を取り入れた講座等を検討する。	生涯学習推進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(3) 学習活動を支援する指導者等の人材の養成に努めます			
51 (再) 国立女性教育会館等の研修事業への参加促進	独立行政法人国立女性教育会館(ヌエック)で行われる研修事業への参加を促進し、男女共同参画社会に関する理解を深め、生涯学習・社会教育における指導の充実を図る。	0	国立女性教育会館等の研修について市町村教育委員会、関係機関・団体に通知し、参加を促す。
52 (再) 人権教育指導者養成事業	人権教育にかかわる行政担当者等の指導力の向上を目指す。 ・人権教育指導者研修会 ・人権教育行政担当者研究協議会	601	○人権教育指導者研修会 ○人権教育行政担当者研究協議会 ※生涯を通じて個人の尊厳と男女平等意識を高めるために、研修会に、より実践的な手法を取り入れるなどし、人権教育にかかわる行政担当者・社会教育関係者の指導力の向上を目指す。
53 生涯学習指導者研修費	生涯学習・社会教育関係職員等の資質向上を図るため、必要な基礎的・基本的事項や業務遂行に必要な企画力・運営力を高める。	521	○生涯学習推進職員研修会 ・社会教育主事講習B ・基礎研修会 ○地域連携実践研修会 ・地域連携コーディネーター等研修会 ・地域連携研修会 ・地域とともにある学校づくり研修会 ○家庭教育サポーター養成研修会 ・市町村家庭教育担当職員研修会 ・家庭教育支援基本研修会 ・家庭教育支援者養成研修会 ・家庭教育支援実践研修会
(4) 男女平等意識を育む家庭教育を推進します			
54 家庭教育支援ガイドブックの活用	親子の会話など家庭で大切にしてほしい15のテーマについて、保護者向けの情報を掲載した「家庭教育支援ガイドブック」の活用と普及啓発を図る。	252	○「家庭教育支援ガイドブック活用リーフレット」を小学校入学予定児童の保護者に配布するとともに、幼稚園・保育所等にも配布する。 ○広報紙で「家庭教育支援ガイドブック」の周知を行う。 ○会議、研修会で「家庭教育支援ガイドブック」や「家庭教育支援ガイドブック活用リーフレット」を配布する。 ○時代や環境の変化に合わせてガイドブックを改訂する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標4 男女平等に関する学習機会の確保

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	独立行政法人国立女性教育会館で行われる研修 事業について、関係機関への情報提供に努めた。	今後も継続していく。	生涯学習推進課
601	○人権教育指導者研修会 対象者 社会教育委員、民生・児童委員、PTA役員、 自治会役員、行政職員、学校教職員、企業の人権教 育担当者等 実施回数 1回 参加者 58名 ・男女平等の視点を含む人権教育につながる情報を 資料や講演の中で提供 ○人権教育行政担当者研究協議会 対象者 市町村生涯学習・社会教育主管課人権教育 担当者 実施回数 1回 参加者 26名 ・新潟県人権教育基本方針改定の趣旨を周知すると ともに、人権に配慮した社会教育行政の推進の重要 性及び男女平等意識の視点を含む人権意識の向上 につながる講演や資料を提供	人権教育基本方針改定の趣旨を 伝えるとともに、人権尊重を基盤に した研修会を今後も継続する。	生涯学習推進課
663	○生涯学習職員研修会 ・社会教育主事講習[B]参加13人 ・基礎研修会 実施4回 参加延べ193人 ・コミュニティリーダー研修会 参加92人 ・市町村家庭教育担当職員研修会 参加126人 ○生涯学習実践研修会 ・家庭教育支援者養成研修会 1会場3回実施 参加延べ100人 ・家庭教育支援実践研修会 1回中止、1回開催 参加13人 ・地域連携コーディネーター養成スクール 2会場で、3回実施と2回実施 参加延べ543人 ・地域連携担当教員研修会(担当教員対象) 2会場で実施 参加53人 ・地域連携担当教員研修会(管理職対象) センター及び 参加166人 ○研修内容は、できるだけ男女平等の視点を意識し て計画することができた。	・受講者それぞれの職務に必要な 研修会を実施する中で、男女共同 参画や男女平等の大切さにも触れ た内容で行っている。コロナ禍によ り中止、延期等の講座があったが、 実施した事業の参加者数はオンラ インを取り入れたため、参加者が増 加した。そして参加者の満足度も高 い。 ・これからも、男女平等の視点を大 切にした研修会を計画・実施して、 男女共同参画に対する意識が高ま るようにしていくことが必要である。	生涯学習推進課
217	○「家庭教育支援ガイドブック」の周知・利用促進を図 るための「家庭教育支援ガイドブック活用リーフレ ット」を、小学校の新1年生の全保護者及び幼稚園・保 育所等に配布 ○広報紙で「家庭教育支援ガイドブック」及び「活用 リーフレット」について周知 ○会議、研修会で「家庭教育支援ガイドブック」や「活 用リーフレット」を配布	家庭教育に関心の薄い保護者や 家庭教育に関する情報が届きにく い保護者も含め、広く保護者に家 庭教育の啓発が図れるよう、引き続き 小学校の新1年生の保護者へ啓発 リーフレットを配布するとともに、幼 稚園・保育所にも配布する。	生涯学習推進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり 重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶			
(1)ドメスティック・バイオレンスや性暴力など女性に対する暴力の根絶に向けた意識啓発と防止のための環境づくりを推進します			
55 DVIに関する啓発	県民のDVIに関する理解促進や身近な関係機関の周知のため、関係機関と連携しながら啓発を行う。	0	○関係機関との連携による啓発媒体での周知等 ○広報紙「ふれ愛ほっとらいん」への掲載等
56 女性に対する暴力をなくす運動(11/12～25)	夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題である。 本来、暴力は、その対象の性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決して許されるものではないが、暴力の現状や男女の置かれている我が国の社会構造の実態を直視するとき、特に女性に対する暴力について早急に対応する必要がある。 この運動を一つの機会ととらえ、国、市町村、女性団体その他の関係団体との連携、協力の下、社会の意識啓発など、女性に対する暴力の問題に関する取組を一層強化することとする。 また、女性に対する暴力の根底には、女性の人権の軽視があることから、女性の人権の尊重のための意識啓発や教育の充実を図ることとする。	0	○「女性に対する暴力をなくす運動」の広報の実施。 ・女性に対する暴力をなくす運動の広報 県からのお知らせ(ラジオ予定) ・啓発用のポスター配布 (市町村、庁内関係課、掲示板など) ・広報紙「ふれ愛ほっとらいん」への掲載 ・庁内放送
57 子ども・女性電話相談事業	家庭及び地域における児童の養育機能の低下に伴い、児童虐待等の問題が多発している。 また、夫から妻や子どもへの暴力等の家庭内の見えにくい問題への対応が急務になっている。 これらの問題解決や支援の一環として、児童相談所と女性福祉相談所を併せ持つ、県中央福祉相談センターに電話相談を設け、全県からの電話相談に応じる。 電話によるカウンセリングのほか、直接の支援が必要な事例については、各地域の児童相談所につなぐ等の総合的な援助体制を図る。	0	令和4年3月で事業終了
58 配偶者暴力被害者支援体制強化事業(関係者資質向上事業)	「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」に基づき、より適切に被害者を保護・支援するための体制を整備する。	514	○「配偶者暴力防止連絡会議」の開催 ○研修事業 ○実務担当者会議の開催 ○「新潟県配偶者暴力防止・被害者支援基本計画」の進行管理

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○関係機関との連携による啓発媒体での周知等 ○広報紙「ふれ愛ほっとらいん」への掲載等	今後も、様々な媒体を利用して身近な相談機関を周知する等、DVIに関する理解促進を図る。	政策企画課
0	○女性に対する暴力をなくす運動(期間:11月12日～25日)の広報を行った。 ・県からのお知らせ(ラジオ) ・啓発用のポスター配布(市町村、庁内関係課、掲示板など) ・広報紙「ふれ愛ほっとらいん」への掲載	今後も、身近な相談機関を周知する等「女性に対する暴力をなくす運動」に関する理解促進を図る。	政策企画課
7,209	○子ども・女性電話相談(相談件数3,094件) ○DV・児童虐待相談フリーダイヤル(相談件数195件) (数値は速報値) ○匿名性の高い電話相談窓口を設置することで、誰でも相談しやすい体制を整備した。 ○毎日9時から22時まで(土日を含む)の実施により、相談しやすい時間を設定して実施した。 ○夜間や休日の相談にも対応しており、相談者にとって利用しやすい相談窓口とした。	相談窓口を周知し、さらに相談しやすい体制を強化する。	子ども家庭課
562	○「配偶者暴力防止連絡会議」を書面開催。 構成機関34機関 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「配偶者暴力防止実務担当者会議」及び「DV防止セミナー」をオンライン同時開催。 ○配偶者暴力関係機関が出席する会議を開催し、課題の共有や情報交換につながった。	より多くの方に理解してもらえるよう県基本計画に基づき、DV防止法の内容を周知していく。	子ども家庭課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
59	婦人保護事業	多様な問題を抱え保護を要する女性に広く相談に応じ、保護更生を図る。 個人の尊厳と男女平等を図るため、配偶者等からの暴力を防止し、被害者の保護、相談、自立支援を図る。	18,048	○婦人保護事業 保護を要する女子の転落防止と保護更生を図るため、女性福祉相談所が相談、調査、判定、指導等を行う。(売春防止法) また、女性福祉相談所で一時保護、あかしや寮で保護を行う。 ○配偶者暴力相談支援センターにおいて、被害者の相談、指導、一時保護、保護命令制度の活用、情報提供等を行う。(平成13年10月13日以降) (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律) 費用負担割合 国1/2 県1/2
60	ネットワーク会員の充実と拡大	県被害者支援連絡協議会等のネットワークの充実とその活用を図る。	5,954の一部	○被害者支援連絡協議会及び被害者支援地域ネットワークにおける連携の推進 ○各種講演会の開催と女性講師の多用 ○「にいがた被害者支援センター」との連携・協力の強化
61	性犯罪等の未然防止対策の推進	性犯罪等各種犯罪の発生状況、防犯対策等に関する安全情報、啓発資料を市町村、関係団体等に提供する。	792	地域社会と共同し、女性を性犯罪から守る環境づくりや女性の被害防止の啓発に努める。
62	防犯活動の展開	防犯ボランティア活動への女性の積極的参画を促進し、防犯活動を展開する。	0	地域住民による防犯ボランティア活動の継続化と若い世代等の後継者育成を図り、女性ボランティア参加による防犯活動を展開する(随時)。
63	広報啓発活動	あらゆる機会を通じて性犯罪や福祉犯罪に関する実態等を広報するとともに、被害防止のための啓発を図る広報資料「少年非行等の概況」などを作成する。	254	○学校等関係機関と緊密に連携して、児童・生徒等に係る福祉犯等各種犯罪被害の防止のための広報啓発及び指導活動を強化する。 ○少年の非行及び犯罪被害実態の県民への周知のため、男女別の統計を含む「少年非行等の概況」などの広報啓発資料を作成する。 ○サイバーパトロールを強化し、SNSに起因する児童の性被害防止の広報啓発活動を推進する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
17,011	○女性福祉相談所相談件数（691件） ○女性福祉相談所一時保護所一時保護実績（45名） ○被害者の相談、指導、一時保護、保護命令制度の活用、情報提供等を実施。 ○多様な問題を抱える女性の相談に広く応じ、保護を要する女性の更生を図った。また、個人の尊厳と男女平等を図るため、DVを防止し、被害者の相談、保護、自立支援を図る取組を実施した。	一時保護後の生活に向けて関係機関の支援体制を強化する。	子ども家庭課
5,863の一部	○にいがた被害者支援センターに対し、相談業務や広報啓発活動等の各種業務委託の実施 ○「命の大切さを学ぶ教室」において、被害者遺族（女性）による講演を6回実施	より一層ネットワークの充実とその活用を図るため、各被害者支援連絡協議会の活性化、各種会議、研修会、講演会における女性講師による講演の一層の推進に取り組む。	警察本部警務部警務課
687	○防犯広報冊子「地域の安全」の発行 性犯罪等の犯罪発生状況、防犯状況等についての啓発資料10,000部を作成し、市町村及び関係団体に提供した。 ○安全・安心メールの発信 子どもや女性対象のつきまとい、声掛け、痴漢の性犯罪等にかかる安心メールを40件発信し、注意喚起を行った。 ○防犯広報する際、プライバシー等への配慮、男女平等の視点両面において望ましくなるよう努めた。 ○防犯広報冊子「地域の安全」を発行する際、ストーカー規制法及びDV防止法の周知を図るため、説明資料を掲載した。	女性の安全意識向上のための広報啓発活動と情報発信による被害の未然防止活動を実施しており、今後も、あらゆる警察活動を通じて、被害防止のための広報を実施していく。	警察本部生活安全部生活安全企画課
0	○職域防犯団体との連携強化 関係団体の協力を得て、女性防犯対策にかかる情報を提供した。 ○防犯ボランティア活動への参加 子ども対象の声掛け、つきまとい等が数多く発生しており、子どもの通学路における安全確保のため、女性ボランティアを含む防犯ボランティア団体が積極的に活動に参加した。 ○防犯ボランティア活動において、男女平等の視点を取り入れ、活動を進めた。	女性の視点を生かした防犯活動を推進していくために、学生ボランティアを始めとし、防犯ボランティアへの女性参加の促進を図る。	警察本部生活安全部生活安全企画課
256	○学校等と連携し令和3年中、378回の非行防止教室を開催した。 ○男女別の統計を含む「少年非行等の概況」を600部作成し、ホームページにも掲載した。 ○SNSに起因する性犯罪被害防止広報動画を作成し、広報啓発活動を推進した結果、YouTubeでの動画再生回数が合計で5万回を超えた。 ○令和3年中、SNSに起因する児童の性被害防止の広報啓発活動（注意喚起）は826件であった。	・年間を通じて実施している非行防止教室のほか、資料やホームページ等を活用した広報啓発により県民への周知が図られてきている。 ・今後も学校等関係機関との連携を強化しながら、性犯罪被害防止意識の向上を図る。	警察本部生活安全部少年課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2)ドメスティック・バイオレンスや性暴力など女性に対する暴力の実態を把握し、被害女性の相談や保護・支援を行います			
64 性暴力・性犯罪被害者支援事業	性暴力被害者被害者に対し、被害直後から、可能な限り1か所で、被害者に寄り添いながら必要な総合的支援を提供する「性暴力被害者支援センターにいがた」を設置する。	5,617	公益社団法人にいがた被害者支援センターに運営委託を行い、被害者からの相談を受け、必要な支援を行う。
65 (再) DVIに関する啓発	県民のDVIに関する理解促進や身近な関係機関の周知のため、関係機関と連携しながら啓発を行う。	0	○関係機関との連携による啓発媒体での周知等 ○広報紙「ふれ愛ほっとらいん」への掲載等
66 男女平等推進相談員配置事業	性別による差別的取扱いその他の男女平等社会の形成を阻害する行為に関する県民・事業者からの相談の申し出に応じるため、男女平等推進相談員を配置する。	5,655	<相談実施場所> 男女平等推進相談室 (新潟ユニゾンプラザ3階) <相談体制等> ・専任の相談員による総合相談 電話、面接による相談の受付 相談受付時間 月～金曜日 11:00～12:30、13:40～17:30 土曜日 10:00～12:30、13:40～16:30 日曜日、祝日、年末年始は休み ・公益財団法人女性財団に委託
67 (再) 子ども・女性電話相談事業	家庭及び地域における児童の養育機能の低下に伴い、児童虐待等の問題が多発している。 また、夫から妻や子どもへの暴力等の家庭内の見えにくい問題への対応が急務になっている。 これらの問題解決や支援の一環として、児童相談所と女性福祉相談所を併せ持つ、県中央福祉相談センターに電話相談を設け、全県からの電話相談に応じる。 電話によるカウンセリングのほか、直接の支援が必要な事例については、各地域の児童相談所につなぐ等の総合的な援助体制を図る。	0	令和4年3月で事業終了
68 (再) 配偶者暴力被害者支援体制強化事業(関係者資質向上事業)	「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」に基づき、より適切に被害者を保護・支援するための体制を整備する。	514	○「配偶者暴力防止連絡会議」の開催 ○研修事業 ○実務担当者会議の開催 ○「新潟県配偶者暴力防止・被害者支援基本計画」の進行管理

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
6,660	○センターの広報 性別を問わず、被害の当事者となる世代や、将来的に当事者となり得る世代を重点とした窓口の周知・啓発 ○相談受付 専用電話の設置、 R3.10～24時間365日体制での電話相談受付 ○各種支援実施 被害者の希望に添った各種支援実施 ○被害者からの相談を受けたり、関係機関への同行支援など、被害の深刻化防止に役立った。	被害の潜在化防止に向けて引き続き広報啓発に取り組むとともに、被害者支援を行っていく。	県民生活課
0	○関係機関との連携による啓発媒体での周知等 ○広報紙「ふれ愛ほっとらいん」への掲載等	今後も、様々な媒体を利用して身近な相談機関を周知する等、DVに関する理解促進を図る。	政策企画課
5,237	○新潟ユニゾンプラザにおいて、男女の別を問わず、性別による差別的取扱等に関する相談対応を実施した。 ＜相談実施場所＞ 男女平等推進相談室 (新潟ユニゾンプラザ3階) ＜相談体制等＞ ・専任の相談員による総合相談 電話、面接による相談の受付 月～金曜日 11:00～18:00 土曜日 10:00～17:00 日曜日、祝日、年末年始は休み ＜相談実績＞ 1,875件 ○相談室の周知用リーフレットを更新し、市町村や関係機関等へ配布した。	相談室の周知・活用により、性別による差別的な取扱いを受けた方のこころの安定を図る。	政策企画課
7,209	○子ども・女性電話相談(相談件数3,094件) ○DV・児童虐待相談フリーダイヤル(相談件数195件) (数値は速報値) ○匿名性の高い電話相談窓口を設置することで、誰でも相談しやすい体制を整備した。 ○毎日9時から22時まで(土日を含む)の実施により、相談しやすい時間を設定して実施した。 ○夜間や休日の相談にも対応しており、相談者にとって利用しやすい相談窓口とした。	相談窓口を周知し、さらに相談しやすい体制を強化する。	子ども家庭課
562	○「配偶者暴力防止連絡会議」を书面開催。 構成機関34機関 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「配偶者暴力防止実務担当者会議」及び「DV防止セミナー」をオンライン同時開催。 ○配偶者暴力関係機関が出席する会議を開催し、課題の共有や情報交換につながった。	より多くの方に理解してもらえるよう県基本計画に基づき、DV防止法の内容を周知していく。	子ども家庭課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
69 (再)	婦人保護事業	多様な問題を抱え保護を要する女性に広く相談に応じ、保護更生を図る。 個人の尊厳と男女平等を図るため、配偶者等からの暴力を防止し、被害者の保護、相談、自立支援を図る。	18,048	○婦人保護事業 保護を要する女子の転落防止と保護更生を図るため、女性福祉相談所が相談、調査、判定、指導等を行う。(売春防止法) また、女性福祉相談所で一時保護、あかしや寮で保護を行う。 ○配偶者暴力相談支援センターにおいて、被害者の相談、指導、一時保護、保護命令制度の活用、情報提供等を行う。(平成13年10月13日以降) (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律) 費用負担割合 国1/2 県1/2
70	一時保護委託事業	「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」第3条第4項によりDV被害者の一時保護を委託する。	2,721	DV被害者である女性およびその同伴家族を一時保護することにより、女性等の人権を擁護する。
71	DV予防啓発総合強化事業	DV予防啓発の推進にあたり、特に若年層に対するデートDVの予防啓発に重点をおいた啓発を実施することにより、DV予防の強化を図る。	600	民間支援団体のノウハウを活用し、県民への意識啓発を促進する。 事業は、女性相談、支援活動等実績のある民間支援団体への委託により実施。
72	女性に対する暴力に対する検挙等適切な措置(警察・広報広聴)	○設置年月日 平成12年10月1日、警察本部に「広報広聴課」を設置し、けいさつ相談室を附置機関とした。 平成30年7月2日から「警察相談専用電話」を24時間体制とした。 ○設置目的 配偶者暴力、性犯罪、男女間トラブル等の女性被害に関する相談に応じる体制の充実整備及び犯罪被害の潜在化の防止、事件主管課と連携した事件化の推進	0	○配偶者暴力、性犯罪など女性被害に関する相談に対する迅速・的確な対応 ○関係主管課及び各警察署との連携した事件化の推進 ○関係機関、団体等と連携を強化した被害防止措置の推進
73	性犯罪被害相談電話	○設置年月日 平成8年7月1日、女性被害の相談専用電話として県警本部総務課相談室に設置 平成30年1月、女性はもちろん、広く性別を問わず性犯罪相談を受理する専用電話に変更し、全国共通の短縮ダイヤルを導入 平成30年7月2日から「性犯罪被害相談電話」を24時間体制とした。 ○設置目的 性犯罪、性的嫌がらせ、男女間トラブル、過去の性犯罪被害に対する悩み等、性犯罪に関する相談体制の充実整備による性犯罪被害の潜在化の防止	0	○性犯罪に対する迅速・的確な対応 ○相談窓口の周知徹底 ○関係機関、団体等との連携強化 ○相談員等に対する指導・教養の徹底

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶

R3年度当初予算(千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
17,011	○女性福祉相談所相談件数（691件） ○女性福祉相談所一時保護所一時保護実績（45名） ○被害者の相談、指導、一時保護、保護命令制度の活用、情報提供等を実施。 ○多様な問題を抱える女性の相談に広く応じ、保護を要する女性の更生を図った。また、個人の尊厳と男女平等を図るため、DVを防止し、被害者の相談、保護、自立支援を図る取組を実施した。	一時保護後の生活に向けて関係機関の支援体制を強化する。	子ども家庭課
2,715	○一時保護委託 4か所 ○保護を必要とするDV被害者の便宜を図るように配慮した。 ○迅速な一時保護により、DV被害者の安全が確保された。	保護の必要な被害者を迅速、的確に保護、支援するための関係機関の連携を強化する。	子ども家庭課
600	○DV予防啓発強化事業 ・「女のスペース・にいがた」「子ども・人権ネット」による若年層向けデートDV教育実施 ・「女のスペース・にいがた」によるデートDVセミナーDVD制作	若年層に対するデートDVの予防啓発に力点を置いた啓発を実施することにより、DV予防の強化を図る。	子ども家庭課
0	○相談窓口周知のための広報活動の実施 ①あらゆる広報媒体を活用した広報の実施 ②相談関係機関の連絡先を掲載した「相談窓口電話番号一覧」を県警HPに掲載 ③「けいさつ相談の日」(9月11日)広報の実施 ○相談員に対する指導・教養の徹底 ①新任相談員及び相談担当者に対する研修の開催 ②教養資料「アシスト」の発行(年17回) ○女性相談員2名が常駐し、女性被害者の心情に配慮した適切な対応及び、事件主管課と情報共有を図った。 ○けいさつ相談室内に個室を設置し、女性被害に関する相談を受けやすい環境を確保した。	・警察への相談の窓口は、警察本部広報広聴課に「けいさつ相談室」、県内全署に署相談室を設置し、面接や電話により24時間、各種相談に対応している。女性被害の暴力相談等は、相談者の意向を踏まえつつ、事案の内容に応じて、事件化や防犯指導等、適切に対応をしている。 ・継続した県民への広報活動を通じ、相談窓口の周知を図るとともに、相談員のスキルアップのため指導・教養等を推進する。	警察本部警務部広報広聴課
0	○「性犯罪被害相談電話」(R3. 4. 1～R4. 3. 31) 42件 ○令和元年7月1日にフリーダイヤル化 ○相談窓口周知のための広報活動の実施 ①テレビ・ラジオなどあらゆる広報媒体を活用した広報の実施 ②相談関係機関の連絡先を掲載した「相談窓口電話番号一覧」を県警HPに掲載 ③「けいさつ相談の日」(9月11日)広報の実施 ○相談員等に対する指導・教養の徹底 ①新任相談員及び相談担当者に対する研修の開催 ②教養資料「アシスト」の発行(年17回) ○性犯罪に関する来訪相談や性犯罪被害相談電話について、相談者が希望した場合、常駐する女性警察官が対応し、相談しやすい環境に配慮した。	・被害が潜在化しやすい性犯罪被害者に対する支援の一環として、相談窓口の認知度の向上を図り、性犯罪の被害に遭われた方が相談しやすい環境を整備するため、平成29年8月から各都道府県警察の性犯罪被害相談電話に繋がる全国共通ダイヤル「#8103(ハートさん)」が導入された。県内では、警察本部性犯罪被害相談電話に繋がり、無料通話で24時間対応している。 ・継続した県民への広報活動を通じ、相談窓口の周知を図るとともに、相談員のスキルアップのため、指導・教養等を推進する。	警察本部警務部広報広聴課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
74 (再)	ネットワーク会員の 充実と拡大	県被害者支援連絡協議会等のネットワ ークの充実とその活用を図る。	5,954の一 部	○被害者支援連絡協議会及び被害者支援地域 ネットワークにおける連携の推進 ○各種講演会の開催と女性講師の多用 ○「にいがた被害者支援センター」との連携・協力 の強化
75	女性に対する暴力に 対する検挙等適切な 措置(警察・警務)	女性に対する暴力犯罪について、被害者 支援の適切な措置を推進する。	5,954の一 部	事件捜査の過程における被害者の精神的負 担、経済的負担の軽減に努める。
76	女性被害の暴力的 事案に係る加害者の 検挙等適切な措置 (H29までは「女性に 対する暴力に対する 検挙等適切な措置 (警察・子供女性安 全対策)」として実施)	女性被害のあらゆる暴力的事案に対し、 加害者の検挙や未然防止活動等、適切な 加害者措置及び被害者保護対策を推進す る。	0	○被害者の意思を尊重し、加害者の検挙、法令 に基づく指導等、適切な加害者措置を講ずる。 ○被害者への防犯指導や避難措置、他機関の 教示等、適切な被害者保護対策を推進する。
77	ストーカー事案に対 する対策 (H29までは「ストー カーに対する対策」と して実施)	ストーカー事案について、行為者の検挙 や警告等による未然防止活動、被害者の 保護対策等、適切な対策を推進する。	548	○ストーカー事案に対し、あらゆる刑罰法令を駆 使して加害者を検挙するとともに、重ねて警告や 禁止命令等の行政措置を実施し、ストーカー被害 の拡大防止策を推進する。 ○ストーカー被害者の意思を尊重し、行政機関等 と連携した避難措置等、適切な保護対策を推進 する。
78	支援者及び民間支援 団体等の安全確保 (H29までは「被害者 支援者の安全確保」 として実施)	各種事案の支援者(被害者の親族等)及 びNPO法人等の民間支援団体と積極的に 情報を共有するなど、連携を図り、被害者だ けでなく支援者等を含む、関係者すべての 安全を確保する。	0	各種事案の支援者(被害者の親族等)及びNP O法人等の民間支援団体と積極的に情報を共有 するなど、連携を図り、被害者だけでなく支援者 等を含む、関係者すべての安全を確保する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
5,863の一部	○にいがた被害者支援センターに対し、相談業務や 広報啓発活動等の各種業務委託の実施 ○「命の大切さを学ぶ教室」において、被害者遺族 (女性)による講演を6回実施	・より一層ネットワークの充実とその 活用を図るため、各被害者支援 連絡協議会の活性化、各種会議、 研修会、講演会における女性講師 による講演の一層の推進に取り組 む。	警察本部警務部警務 課
5,863の一部	○女性臨床心理士(犯罪被害者等カウンセラー)が12 事件の性犯罪被害者等延べ25回のカウンセリングを 実施し、被害者の精神的負担を軽減した。 ○性犯罪被害者に対して、53件の医療費(初診料 等)、3名分11件のカウンセリング費用等を公費支出 し、被害者の経済的負担を軽減した。 ○各警察署の協議会及び職員の各種研修会等にお いて、犯罪被害者等カウンセラーに関する広報、教示 を実施した。 ○犯罪被害者等カウンセラーのスキルアップのため、 各種研修会への参加を推進するとともに、各種犯罪 被害者等へのカウンセリングに当たらせた。	・各種施策により被害者の要望に 応え、負担は軽減されている。 ・今後も女性臨床心理士(犯罪被害 者等カウンセラー)の運用を促進 し、また、女性被害者に対する医療 費等支出制度等の適正な運用の推 進に取り組む。	警察本部警務部警務 課
0	○配偶者暴力事案として1,491件を認知 ○加害者に対する警察官職務執行法等に基づく指導 687件 ○配偶者暴力防止法に基づく援助措置125件 ○配偶者暴力事案等に対応する際、被害者の心情 等に配慮し、女性職員を当てるなど被害者保護対策 に配慮した。 ○県内の女性被害の暴力的事案の実態等を把握し、 法令や支援措置等の知識を深め、事案対応力の向 上に努めた。	・配偶者暴力事案の認知件数、女 性被害に係る暴力的事案は増加 し、高水準で推移している。 ・今後も被害者の意思を尊重した 上、事案の危険性・切迫性を判断 し、迅速かつ的確な検挙措置や保 護対策を推進する。	警察本部生活安全部 子供女性安全対策課
559	○ストーカー事案として488件を認知 ○警察官職務執行法等に基づく、加害者に対する指 導181件 ○ストーカー規制法に基づく書面による警告5件 ○ストーカー規制法に基づく禁止命令47件 ○ストーカー規制法に基づく援助措置136件 ○ストーカー事案に対応する際、被害者の心情等に 配慮し、女性職員を当てるなど被害者保護対策に配 慮した。 ○県内のストーカー事案の実態等を把握し、法令や 支援措置等の知識を深め、事案対応力の向上に努 めた。	・ストーカー事案の認知件数は増加 傾向にある。 ・今後も事案の危険性・切迫性に 応じて迅速に行方者を検挙すると ともに、禁止命令等の行政措置を 効果的に実施し、被害者の保護 対策を推進する。 ・ストーカー行為者に対し、精神 医学的・心理学的アプローチを 図り、再被害防止対策を推進 する。	警察本部生活安全部 子供女性安全対策課
0	○各種事案ごとに、被害者の支援者や民間支援団体 等と積極的に情報を共有するなど、協力体制を構築 した上で事案対応し、関係者すべての安全確保に 努めた。 ○被害者の性別を問わず、親族等の支援者や新潟 県女性福祉相談所、NPO法人等の関係機関と連携 を強化し、協力体制を構築した上で事案に対応し、 関係者すべての安全確保に努めた。	・今後も各種事案ごとに、被害 者の支援者や民間支援団体等と 協力体制を構築した上で事案に 対応し、関係者すべての安全確 保に努める。	警察本部生活安全部 子供女性安全対策課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
79	被害者保護対策	○女性に対する暴力的事案等について、被害者保護対策を徹底する。 ○行政機関、民間支援団体等と連携し、被害者の保護及び支援に努める。 ○緊急に避難ができない各種暴力的事案の被害者に対し、公費による援助を行う。	534	○女性に対する暴力的事案等について、被害者保護対策を徹底する。 ○行政機関、民間支援団体等と連携し、被害者の保護及び支援に努める。 ○緊急に避難ができない各種暴力的事案の被害者に対し、公費による援助を行う。
80 (再)	広報啓発活動	あらゆる機会を通じて性犯罪や福祉犯罪に関する実態等を広報するとともに、被害防止のための啓発を図る広報資料「少年非行等の概況」などを作成する。	254	○学校等関係機関と緊密に連携して、児童・生徒等に係る福祉犯等各種犯罪被害の防止のための広報啓発及び指導活動を強化する。 ○少年の非行及び犯罪被害実態の県民への周知のため、男女別の統計を含む「少年非行等の概況」などの広報啓発資料を作成する。 ○サイバーパトロールを強化し、SNSに起因する児童の性被害防止の広報啓発活動を推進する。
81	児童買春事犯等福祉犯罪の取締りと被害者保護	児童を被害者とする淫行及び買春、児童ポルノ等福祉犯罪の取締りを強化し、被害児童の早期発見・保護を図る。	0	関係機関と緊密な連携を図り福祉犯罪の取締りを強化し、被害児童の早期発見・保護を図るとともに、その再被害防止に向けた支援活動を推進する。
82	少年サポートセンター	少年警察補導員を少年課において集中運用し、 ・性犯罪をはじめ様々な犯罪被害に遭った少年の支援活動 ・街頭補導活動 ・SNSに起因する児童の性被害防止のための広報啓発活動 等を組織的に行うことにより、少年の非行防止と健全育成を図る。	2,018	相談窓口として更に県民への広報に努めるとともに、少年警察補導員のスキルアップなど少年サポートセンター機能の充実強化を図り、積極的な相談活動、継続補導、支援活動、広報啓発活動を実施する。
83	女性に対する暴力に対する検挙等適切な措置(警察・少年)	女性に対する暴力の実態を把握し、取締りを強化するとともに被害女性等の相談や保護・支援を図る。	0	関係機関との連携を緊密にして被害者からの相談受理、適切な保護・支援を図るとともに、取締りを強化する。
84	女性に対する暴力に対する検挙等適切な措置(警察・生活保安)	女性に対する暴力に対する検挙等適切な措置	0	人身取引などにより売春をさせられた女性に対して、被害女性の意思を尊重した適切な対応を実施する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
534	○各種事案ごとに、新潟県女性福祉相談所、NPO法人等、関係機関と連携して情報共有を図り、被害者の安全確保に努めた。また、緊急に避難できない各種暴力的事案の被害者に対し、公費による援助を行った。 ○新潟県女性福祉相談所、NPO法人等の関係機関・団体との連携を強化し、情報共有を図った。 ○性別を問わず、被害者の緊急避難措置を可能とするため、対応可能な施設等の把握や協力体制の確保に努めた。	・被害者の安全確保を最優先とし、今後も関係機関・団体等と連携して保護対策を講ずる。 ・避難措置が執れない各種暴力的事案の被害者に対し、継続的に公費による援助を行う。	警察本部生活安全部 子供女性安全対策課
256	○学校等と連携し令和3年中、378回の非行防止教室を開催した。 ○男女別の統計を含む「少年非行等の概況」を600部作成し、ホームページにも掲載した。 ○SNSに起因する性犯罪被害防止広報動画を作成し、広報啓発活動を推進した結果、YouTubeでの動画再生回数が合計で5万回を超えた。 ○令和3年中、SNSに起因する児童の性被害防止の広報啓発活動(注意喚起)は826件であった。	・年間を通じて実施している非行防止教室のほか、資料やホームページ等を活用した広報啓発により県民への周知が図られてきている。 ・今後も学校等関係機関との連携を強化しながら、性犯罪被害防止意識の向上を図る。	警察本部生活安全部 少年課
0	○少年サポートセンター、各警察署及び学校等関係機関と緊密に連携し、サイバーパトロールや相談活動等多様な手段を通じて、児童買春・児童ポルノ等の福祉犯事件情報の収集と一元管理に努め、積極的な事件化を推進することにより、被害児童の早期発見・保護に努めた。 ○令和3年中、福祉犯の検挙件数は132件、被害児童は77人であった。	・スマートフォン等のインターネット利用の児童買春・児童ポルノ事件の広がりを踏まえ、サイバーパトロールを強化した結果、多数の児童買春・児童ポルノ事件等を検挙し、被害少年の早期発見・保護が図られた。 ・今後も児童買春・児童ポルノなどの性犯罪事件の捜査を強化するとともに、関係機関との連携により、被害児童の早期保護と再被害防止に向けた支援活動を推進する必要がある。	警察本部生活安全部 少年課
2,212	○令和3年中の実施回数 ・少年相談 626回 ・継続補導・支援 987回 ・情報発信活動 229回 ○個々の事案に応じ少年の心情に配慮した適切な相談や継続補導・支援活動を実施し、少年の再被害防止等に努めた。	・少年相談及び継続補導・支援活動を積極的に推進し、少年の再被害防止が図られている。 ・今後も非行防止及び健全育成の観点から、親切かつ丁寧な相談活動を推進するとともに、効果的な情報発信活動を推進する。	警察本部生活安全部 少年課
0	○女性に対する暴力の相談に対しては、安全を最優先とした対応を図り、関係機関と連携した保護措置や事件化を図った。 ○積極的な事件検挙とともに、関係機関と連携し、被害者の心情に配慮した保護対策を推進した。	・警察相談は、女性への暴力に関する相談窓口として周知されている状況である。 ・今後も関係機関と更なる連携を図り、相談者の迅速な保護と適切な事件措置等が求められる。	警察本部生活安全部 少年課
0	関係機関と連携した被疑者の検挙に努めたものの、人身取引事犯等の検挙には至らなかった。	人身取引事犯等の検挙の際、適切な対応ができるよう、更に徹底した教養を実施する。	警察本部生活安全部 生活保安課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
85	人身取引の防止	人身取引の防止	0	人身取引にかかる売春事犯等の取締りの推進強化を図り、同種事犯の根絶を図る。
86	売春事犯等に対する取締り	売春事犯等に対する取締り	0	暴力団が関与する売春事件、組織的な派遣型売春事犯及び外国人女性稼働の違法風俗店に対する取締りを推進し、売春事犯の根絶を図る。
(3) セクシュアル・ハラスメントの防止に向けた取組を推進します				
87	県におけるセクシュアル・ハラスメント防止のため、通知文書や全ての階層別研修でのハラスメント防止に係る研修の実施により啓発を図る	男女雇用機会均等法において、職場におけるセクシュアルハラスメントを防止するために、事業主に雇用管理上の配慮することが義務づけられた。 そのため、県としても雇用主としての責務を果たすため、防止対策を講じる。	0	平成25年5月策定(令和2年6月改正)の「ハラスメントの防止等に係る指針」等の周知徹底を行うとともに、全ての階層別研修においてハラスメント防止に係る研修を実施するなど、引き続き意識啓発及び注意喚起を図る。
88	県教育委員会におけるセクシュアル・ハラスメント防止のため、各種会議や研修などにより意識啓発を図る	両性が安心して働ける職場環境を整える。 ○各種会議を通じた意識啓発と注意喚起 ・義務教育…全県教育長会議における指導助言等 ・高等学校…県立学校長会議における校長指導等 ○各種研修会での取組 義務教育及び高等学校…校長、教頭研修会及び初任者研修会等 ○職場におけるセクシュアル・ハラスメントの防止 職場におけるセクシュアル・ハラスメント防止対策を講じる	0	○各種会議を通じた意識啓発と注意喚起 県立学校長会議や人事管理懇談会等における注意喚起 ○各種研修会での取組 校長研修、副校長・教頭研修、教育施策等方針説明会における管理監督者の指導 初任者研修等、経験年数に応じた基本研修における職員の意識啓発 ○ハラスメント防止のための指針やその他広報を活用し、職員への意識啓発及び注意喚起を図る
89	県警本部におけるハラスメント防止対策の推進	警察職員が職務能率を十分に発揮できる良好な勤務環境を確保するため、ハラスメントの防止対策を推進する。	0	○所属における各種教養の機会を通じて、防止に向けた意識改革を図る。 ○所属のハラスメント相談員を対象とした研修会を実施し、相談員としての留意事項や心構え等について再確認を行う。 ○県警察学校等における講習、専門的教養課程等の機会に、ハラスメント防止のための講習を実施し、職員の意識改革を図る。 ○警務課等で所有する教養DVDを各所属に貸し出し、ハラスメント防止教養を推進する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標5 女性に対するあらゆる暴力の根絶

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	関係機関と連携した被疑者の検挙に努めたものの、人身取引事犯等の検挙には至らなかった。	人身取引事犯等の温床となる風俗店を重点に取締りを推進する。	警察本部生活安全部 生活保安課
0	関係機関と連携した被疑者の検挙に努めたものの、人身取引事犯等の検挙には至らなかった。	売春事犯等の検挙に向け、引き続き関係機関と連携した取締りを強化する。	警察本部生活安全部 生活保安課
0	○職場におけるセクシャルハラスメントを防止するために、平成25年5月策定(令和2年6月改正)の「ハラスメントの防止等に係る指針」等の周知や、全ての階層別研修においてハラスメント防止に係る研修を実施したこと等により、職員に対し意識啓発及び注意喚起を図った。 ○ハラスメント防止のための指針やその内容を具体的に解説した冊子等の周知徹底を通じ、職員の意識啓発及び注意喚起を図った。	引き続きセクシャルハラスメントを防止するための意識啓発、注意喚起を図る。	人事課
0	○各種会議を通じた意識啓発と注意喚起 全県教育長会議(4月) 県立学校長会議(4月) 県立学校事務長会議(5月) 教育施策等方針説明会(5月) ○各種研修会における指導 ・公立義務教育等諸学校 新任校長研修、新任教頭研修、初任者研修(5月) 等の経験に応じた基本研修(随時) ・県立高校 初任者研修(4月) 新任校長研修、新任教頭研修(5月) 公立学校長会議(10月) ○その他の取組 年2回通知 ○ハラスメント防止のための指針やその内容を具体的に解説した冊子等の周知徹底を通じ、職員の意識啓発及び注意喚起を図った。	・平成26年4月に策定(令和3年12月最終改正)「ハラスメントの防止及び対応にかかる指針」及び、その内容をより具体的に解説するためのマニュアルの内容を踏まえ、研修等にて意識啓発や注意喚起を図る等ハラスメント防止を推進した。 ・教職員については、職員間だけではなく、児童生徒や地域との関連が密接であるため、継続的な意識啓発と注意喚起を行うことにより、今後もハラスメントの防止が徹底されるよう意識の定着化を図っていく。	教育庁総務課
0	○所属における各種教養の機会を通じて、防止に向けた意識改革を図った。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集合しての研修は実施せず、代替として所属の管理者等を対象としたハラスメント防止のための教養資料を作成し、管理者を中心とした風通しの良い職場づくりとハラスメント根絶に向けた機運を醸成した。 ○県警察学校等における講習、専門的教養課程等の機会に、ハラスメント防止のための講習を実施し、職員の意識改革を図った。 ○警務課等で所有する教養DVDを各所属に貸し出し、ハラスメント防止教養を推進した。	各種施策の実施に伴い、ハラスメント防止に関する職員の意識は向上しているものの、今後とも効果的な施策を継続実施していく。	警務部警務課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり			
重点目標6 生涯を通じた女性の健康づくり			
(1) 生涯を通じた女性の健康の維持・増進対策を充実します			
90 社会体育団体事業 費補助金	女性の生涯スポーツの推進に中核的役割を果たしている団体が実施する研修会等の事業費の一部を補助することにより、女性スポーツ指導者の育成を図る。	80	新潟県女子体育連盟の事業に要する経費の一部を補助 ・女性スポーツ指導者の育成を担う新潟県女子体育連盟の事業に要する経費の一部を補助するとともに、研修会への参加募集に協力することによって広く女性教員等の参加を促し、資質向上を図る。
91 交流促進ゆめづくり 事業	「地域密着型プロスポーツ」の選手による指導や選手とのふれあい、またサッカーや野球の競技を通じて、スポーツ人口の拡大やみるスポーツの振興、地域プロスポーツチームに対する愛着の増進、また地域交流の促進を図る。 そのため、プロスポーツ選手とのふれあいや競技体験等の機会を創設する。また、プロスポーツ選手、コーチによるスポーツ教室やサッカー、野球の競技大会を開催する。	8,349	○小中学生を対象としたスポーツ教室の実施（サッカー、野球、バスケ） ○小学生を対象とした競技大会の開催（サッカー、野球） ○試合終了後のファン交流イベントを実施（野球） ○園児・小学生親子を対象とした親子教室（サッカーレディース）
92 女性専門外来の普及	病院開設相談や立入検査、各種会議研修会等機会をとらえて普及促進に努める。	0	女性医師の確保育成が課題であるが、機会をとらえ普及促進に努める。
93 女性医師の育成・確保	女性医師の育成・確保に努める。	4,000	子育て女性医師によるニーズ収集や支援検討の検討会開催、若手女性医師キャリア意見交換会の開催、子育て等で臨床を離れた女性医師等の復職支援プログラムやキャリア形成支援などの検討などを実施予定。
94 勤務医・女性医師サポート事業	勤務医・女性医師等の働きやすい職場環境の整備を支援するため、勤務環境改善等に向けた取組を行う。	1,597	医師事務作業補助者の積極的活用に向け、病院管理者向けの研修会を実施予定。
95 性感染症の予防に関する講演会の開催	性感染症の予防について、正しい知識を持つことで生涯を通じた健康の維持、増進の充実を図る。 保健所において、エイズ及び性感染症の予防に関する正しい知識の普及啓発のための講演会を開催する。	482	○エイズ・性感染症に関する講演会 ・対象者 中学・高校、専門学校、大学等の学生、教職員、市町村・病院関係者等 ・実施時期及び回数 5～3月、計50回程度 ・実施場所 県内12保健所管内(新潟市除く)の学校等

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標6 生涯を通じた女性の健康づくり

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
80	○新潟県女子体育連盟の事業に要する経費の一部を補助 ○事業内容が男女平等の視点からも望ましいものか確認のうえ、事業補助の決定をした。 ○男女ともにスポーツ指導者の交流と資質向上の一助となった。	令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、夏期研修会がオンラインで開催され、男女合わせて約20名が参加した。 今後も女性スポーツ指導者の育成の一助となるよう、目的に沿った事業に対する経費補助を継続していく。	スポーツ課
8,349	○教室 サッカー(アルビレックス新潟) 6回 218名 野球(新潟アルビレックスBC) 5回 257名 バスケット(新潟アルビレックスBB) 6回 199名 (新潟アルビレックスBBラビッツ) 3回 144名 ○サッカー大会 2回 ○野球大会 1回 ○野球ファン交流イベント コロナにより中止 ○サッカーレディース親子教室 2回 58名 ○アルビレックス新潟レディース、新潟アルビレックスBBラビッツによる教室以外の事業においても、男子に限定しないメニューに配慮した。 ○教室については市町村からの開催希望が多く、男女を問わず参加者の満足度が高い。教室以外の事業についても参加者の満足度が高く女性の参加が見られる。	教室については参加者の満足度が高く、例年予算を上回る市町村の申込がある。教室以外の事業も含め、質の向上を目指す。	スポーツ課
0	昨年度から実績のある病院は、今年度も継続して女性専門外来を行っていた。	病院開設相談や立入検査、各種会議研修会等機会をとらえて普及促進に努める。	地域医療政策課
4,000	新潟大学医学科分室の女性医師によるキャリアアップ支援等の相談対応などを実施するなど体制を強化	女性医師等の経験談を後輩の研修医や医学生に伝える取り組みなど、女性医師のニーズに応えた情報提供を今後も様々な形で継続していく。	医師・看護職員確保対策課
1,597	勤務医・女性医師等の勤務環境改善に向け、ドクターバンクショートサポート事業を実施した。	医師事務作業補助者の設置をすすめ、今後は医師事務作業補助者のレベルアップ、効率的な活用等を促す取組が重要。	医師・看護職員確保対策課
482	保健所が主体となり、中学校・高校、医療関係者等を対象に講演会を実施。特に、高校生を中心とした若年層に対しエイズ・性感染症予防の正しい知識を普及でき、性の健康管理の必要性を理解してもらっている。 (講師)県内の保健医療従事者(産婦人科医師・助産師・保健所保健師等)、大学教授等 (内容) ・エイズ及び性感染症の病態、予防法、性の健康管理等 ・性差による役割から相手を思いやる気持ちや命の大切さ	・性に関心を持つ生徒に対して、エイズや性感染症予防、望まない妊娠の予防、LGBTなどについて適切な指導が重要であることから、今後も、生徒のニーズや理解力に合わせた指導を継続する必要がある。 ・講師に県内(地元)の人材を活用することで、講演会終了後も相談できる人が身近にいることを知る機会にもなっている。 ・引き続き、地域関係者とも連携し普及啓発に取り組む。	感染症対策・薬務課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
96	健康増進事業費補助金(骨粗鬆症検診)	骨粗鬆症は骨折等の基礎疾患となり、高齢社会の進展によりその増加が予想されることから、早期に骨量減少者を発見し、骨粗鬆症を予防することを目的とする。 なお、骨粗鬆症検診は、健康増進法に基づいて市町村が実施しており、国1/3、県1/3、市町村1/3をそれぞれ負担している 1 検診の対象者 節目年齢(40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳)の女性 2 検診の方法 ・問診 運動習慣、食生活等の内容を聴取する。 ・骨量測定 CXD法、DIP法、SXA法、DXA法、pQCT法又は超音波法等により実施する。	67,004	健康増進事業(骨粗鬆症検診)実施市町村は、実施計画書等により把握する。
97	周産期医療ネットワーク整備事業	地域において総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センターを中心とした周産期医療体制を整備し、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進する。	3,789	○周産期医療協議会の開催 ○周産期救急情報システムの運営 NICU、MFICUの空床情報を提供 ○周産期医療関係者研修会の開催
98	生涯を通じた女性の健康支援事業	相談・健康づくりの普及啓発事業を実施することにより、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図る。 1 健康教育事業(保健所で実施) 思春期から更年期にいたる女性を対象とし、健康教室を開催する。 2 女性健康支援センター事業(保健所で実施) 思春期から更年期にいたる女性を対象とし、身体的、精神的な悩みに応じる相談窓口を設置・運営する。 3 電話による夜間・休日専門相談窓口 4 妊娠・出産包括支援推進事業 市町村でのワンストップ相談窓口整備を支援する。 ※3、4は、H29年度まで妊娠期からの相談・連携体制整備事業として実施。H30年度から事業組替え。	6,465	○健康教育事業 11保健所 ○女性健康支援センター事業 12保健所 ○電話による夜間・休日専門相談窓口 県助産師会に業務委託 ○妊娠・出産包括支援推進事業 連絡調整会議、担当者研修会 ○子育て世代包括支援センター設置促進事業 地域機関単位で市町村の課題解決のための情報交換等を行い、体制充実を図る。 ○妊産婦メンタルヘルス体制整備事業 妊産婦メンタルヘルス対策協議会の開催、地域機関単位で産科、精神科を交えた連絡会や研修会等を開催
99	新潟県健康づくり財団普及啓発活動費補助金	(公財)新潟県健康づくり財団が生活習慣病予防を目的として県民を対象に行う普及啓発事業に対し助成する。	770	(公財)新潟県健康づくり財団が実施する生活習慣病予防を目的として県民を対象に行う普及啓発事業に対し助成する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標6 生涯を通じた女性の健康づくり

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
66,092	○3年度実績は、19市町村で実施。 ○市町村において、住民が受診しやすいよう休日に 検診を設定している。	・実施市町村数は前年度より1市町 村増加。 ・引き続き、検診の受診を促進して いく。	健康づくり支援課
1,789	○周産期医療協議会の開催(1回) ○周産期救急情報システム NICU、MFICUの空床情報を提供 ○周産期医療関係者研修会の実施(周産期母子医 療センター(7病院)へ委託し開催)	今後も、周産期医療体制に関する 協議や関係者の資質向上に向けた 研修会が必要。	健康づくり支援課
6,465	○健康教育事業 10保健所で中学生、高校生、養護教諭、企業職員 等を対象に妊娠や性に関する講演会等を開催。 女性の健康に関するリーフレットを配布 ○女性健康支援センター事業 12保健所で相談を受付。女性のからだ、こころに関 する悩みを受け付けている。 ○電話による夜間・休日専門相談窓口 年間相談件数442件 妊娠、出産に関する悩みについて、女性が相談しや すいよう助産師による相談を実施。 ○妊産婦メンタルヘルス体制整備事業 地域機関単位で産科、精神科を交えた連絡会・研 修会を開催(3保健所)	今後も、対象者や地域のニーズに 合った健康教育となるよう、関係機 関と連携を図りながら事業を開催す る。	健康づくり支援課
810	○(公財)新潟県健康づくり財団が実施したがん予防 の普及啓発事業に助成した。 ・BSNラジオを媒体とした番組内コーナー(5分×4回) やコマーシャルを利用して、がん・生活習慣病の早期 発見・早期治療の重要性を啓発した。	更なる受診率向上のため、引き続 き普及啓発を行う。	健康づくり支援課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
100	食育推進事業	生活習慣病を予防するため、生活習慣の基盤となる食生活改善のための食育を推進する。	8,792	○体制整備 ・新潟県食育推進協議会 ○地域食育推進 ・地域食育充実事業 ○食環境づくり ・自然に健康な食事ができる環境づくり事業 ○適正飲酒の推進 ・アルコール対策促進事業
101	運動習慣普及事業	生活習慣病予防や身体機能の維持向上に効果的な運動の必要性・重要性の普及啓発、県民が運動しやすい環境の整備、健康づくりのための運動指導者の養成を行う。	1,829	○普及啓発 ・健康ウォーキングロード登録事業 ・運動習慣普及広報 健康立県プロモーション事業とも運動させ、WEB等を中心に積極的に県民運動の周知、推進を行う。 ○指導者の養成研修 ・健康づくり運動指導者養成研修 ・健康づくり実践指導者研修
102	学校における性に関する指導	体育科・保健体育科を中心に、家庭科等の教科、道徳、特別活動等との関連を図り、学校教育全体を通じて性に関する指導の充実を図る。	0	○体育科・保健体育科を中心とした性に関する指導の充実を図る ・性に関する指導の全体計画及び年間計画の見直し ・学習指導要領に基づいた「体育科・保健体育科」「特別活動」等における授業実践する。 ・「性に関する指導の手引き」の活用 ○教員研修の内容の中に性に関する指導を含んで実施する。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標6 生涯を通じた女性の健康づくり

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
7,574	○体制整備 ・新潟県食育推進協議会(1回) ○普及啓発 ・食育推進広報 ○地域食育推進 ・地域食育実践事業(12地域機関) ○食環境整備 ・健康づくり支援店募集(令和3年度末実績:1,770店舗) ・自然に健康な食事ができる環境づくりの推進(けんこうtime推進店:6社、けんこうtime推進店サポーター 2社、からだがよるこぶどり26品) ○県民の食生活改善活動促進 ・食生活改善推進委員協議会への委託 ・小学生保護者向け啓発事業(314校) ○広報物の表現やイラストについて、男女平等の視点から望ましくなるよう配慮した。また、事業実施において男女共同参画の視点を取り入れた。	・令和2年度末に策定された健康にいがた21(第3次)や第3次新潟県食育推進計画を基に、生活習慣病予防及び食生活改善の取組を強化する。 ・望ましい食習慣の定着に向け食環境づくりと普及啓発を進め、健康的な食生活が実践できる人を増やす。	健康づくり支援課
1,826	○普及啓発 ・健康ウォーキングロード(累計137コース) ○指導者養成研修 【総合】 ・健康づくり指導者研修会(R3年度は働く世代の運動促進事業に組み込み実施) 【分野別】 ・運動指導者研修会(R3 47人参加) ・水中運動指導者研修会(R3 19人参加) 【実践指導】 ・健康づくり実践指導者研修 - 見学・実習 R3 延べ18人参加 - 参加体験 R3 延べ44人参加 - ニーズ対応型 R3 延べ81人参加	・更なる運動習慣定着に向けて、ウォーキングロードの活用等の周知拡大を図る。 ・働く世代への効果的な働きかけにおいて、性差によるライフサイクルの違いを考慮した健康づくりの提案を検討する。	健康づくり支援課
0	○学校における性に関する指導が「男女平等・人権尊重」の理念の理解につながることから、学校教育全体を通じて推進されるよう、管理職・教諭・養護教諭を対象とした研修会を通し、指導の充実を図るよう発信した。 ○保健教育実践講座及び養護教諭の教職2年次研修において、性に関する指導の指導案検討等を行い、実践力向上を図った。	・健康教育に包括される形で、性に関する指導が、どの学校でも確実に推進されるように、今後も研修会を通し、管理職・教職員・養護教諭の意識啓発を図っていく。	保健体育課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 妊娠・出産等に関する健康の維持・増進を支援するとともに、性と生殖に関する健康と権利 (リプロダクティブ・ヘルス/ライツ) についての知識の普及に努めます			
103 (再) 男女平等・共同参画 推進室だより「ふれ 愛ほっとらいん」の発 行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関 する取組や(公財)新潟県女性財団の事業 について周知を図るとともに、男女平等に 関するデータの紹介などにより、県民の意 識啓発及び市町村の取組促進を図ることを 目的として情報紙を発行する。 (発行開始 平成8年9月)	0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する 取組や(公財)新潟県女性財団の事業について 周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進 を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男 女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パート ナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回/年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4～6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、 男女平等社会の形成に関する情報等を紹介す る。
104 (再) 生涯を通じた女性の 健康支援事業	相談・健康づくりの普及啓発事業を実施す ることにより、生涯を通じた女性の健康の保 持増進を図る。 1 健康教育事業(保健所で実施) 思春期から更年期にいたる女性を対象 とし、健康教室を開催する。 2 女性健康支援センター事業(保健所で実 施) 思春期から更年期にいたる女性を対象 とし、身体的、精神的な悩みに応じる相談 窓口を設置・運営する。 3 電話による夜間・休日専門相談窓口 4 妊娠・出産包括支援推進事業 市町村でのワンストップ相談窓口整備を 支援する。 ※3、4は、H29年度まで妊娠期からの相 談・連携体制整備事業として実施。H30年度 から事業組替え。	6,465	○健康教育事業 11保健所 ○女性健康支援センター事業 12保健所 ○電話による夜間・休日専門相談窓口 県助産師会に業務委託 ○妊娠・出産包括支援推進事業 連絡調整会議、担当者研修会 ○子育て世代包括支援センター設置促進事業 地域機関単位で市町村の課題解決のための情 報交換等を行い、体制充実を図る。 ○妊産婦メンタルヘルス体制整備事業 妊産婦メンタルヘルス対策協議会の開催、地域 機関単位で産科、精神科を交えた連絡会や研修 会等を開催
105 不妊専門相談セン ター事業	不妊に悩む男女に対して、専門相談や情 報の提供を行い、子どもを希望する者が安 心して妊娠、出産できる支援体制を整備す る。	972	専門医師による面接相談を実施する。 ・新潟大学医歯学総合病院会場 週1回(電 話やメールによる相談も受け付ける)

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標6 生涯を通じた女性の健康づくり

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等の紹介。 ○掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点から望ましいものとした。 ○掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優先した。	庁内の関係課や市町村の事業等の情報収集を密に行い、掲載情報の充実を図る。	政策企画課
6,465	○健康教育事業 10保健所で中学生、高校生、養護教諭、企業職員等を対象に妊娠や性に関する講演会等を開催。 女性の健康に関するリーフレットを配布 ○女性健康支援センター事業 12保健所で相談を受付。女性のからだ、こころに関する悩みを受け付けている。 ○電話による夜間・休日専門相談窓口 年間相談件数442件 妊娠、出産に関する悩みについて、女性が相談しやすい助産師による相談を実施。 ○妊産婦メンタルヘルス体制整備事業 地域機関単位で産科、精神科を交えた連絡会・研修会を開催(3保健所)	今後も、対象者や地域のニーズに合った健康教育となるよう、関係機関と連携を図りながら事業を開催する。	健康づくり支援課
972	○専門医師による面接・電話相談を毎週火曜日に実施 ○専門医師によるメール相談を随時実施 ○夫婦ともにゆっくり落ち着いた雰囲気の中で相談ができるよう、専門医療機関での相談を完全予約制で実施。 ○相談方法を、面接・電話・メールの3つを設定し、相談者の利用しやすい方法で実施できるようにした。 ○妊娠・出産等に関する健康の維持・増進の支援につながった。	不妊や不育症等に対する相談ニーズに対応するため、不妊専門相談センターの運営を継続し、不妊等の悩みの解消を図る。	健康づくり支援課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
106	不妊治療費助成事業	高額な治療費のかかる特定不妊治療(体外受精、顕微授精)に要する費用を助成する。 1治療30万円(凍結胚移植等は10万円)まで。 凍結胚移植等は1年目のみ12.5万円まで。 精巣内精子回収術等はさらに30万円を上限に上乗せ。 【対象年齢・助成回数】 妻の年齢43歳未満が対象。 妻の年齢が39歳以下:通算6回まで、40～42歳:通算3回まで。出産毎に助成回数のリセット可。	0 (R3からの繰越 160,992)	助成金の申請を随時受け付けるとともに、制度の周知に努める。
107	不育症検査費用助成事業	妊娠しても流産や死産を繰り返す「不育症」について、現在、研究段階にある検査のうち、保険外併用の仕組みで実施するものにかかる費用を助成	1,650	不育症に悩む人が、不育症検査費用助成事業を活用し、適切な時期に必要な検査を受けることができるよう、制度の周知を進める。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標6 生涯を通じた女性の健康づくり

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
504,631	○ポスター等によるPR ○助成金の支払い:1,827件 ○申請者のプライバシーに配慮し、郵送による申請を受け付けていることを各種広報資料等に明示している。 ○妊娠・出産等に関する健康の維持・増進の支援につながった。	不妊に悩む人が、特定不妊治療費助成事業を活用し、適切な時期に十分な治療を受けることができるよう、制度の周知を進める。	健康づくり支援課
3,250	○助成実績:1件 ○申請者のプライバシーに配慮し、郵送による申請を受け付けていることを各種広報資料等に明示している。 ○妊娠・出産等に関する健康の維持・増進の支援につながった。	制度の周知に努める。	健康づくり支援課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり			
重点目標Ⅶ 国際的な男女共同参画の取組の理解			
(1) 男女共同参画に関する国際的な動向や国際社会の取組への理解を促進します			
108 国際的な問題に対する意識の醸成・学習 機会の提供(国際)	出前講座等を通じ、国際理解教育の講座を行う。 ※予算額は、国際交流員招致にかかる額であり、出前講座単独での予算措置はしていない。	29,262	国際交流出前講座の実施 ※国際社会における男女共同参画に関する内容や環境・人権など地球規模で解決しなければならない問題についての内容を出前講座に盛り込むことは難しいが、国際交流出前講座を通じて国際理解教育の充実を図る。
109 国際交流・協力活動の 情報提供	各種セミナーやワークショップを通じて、国際協力についての理解を深めようととも に国際協力NGO、NPOに関する情報を提供 する。	0 (公財)新潟県国際交 流協会事 業)	NGOスタッフ育成研修 通訳ボランティアセミナー 国際交流ファシリテーター養成事業 ・小中高へ派遣、国際理解ワークショップを開催 セミナーやワークショップを広くPRし、女性の参 加を促す。
110 国際的な問題に対す る意識の醸成・学習 機会の提供(男女平 等社会推進)	出前講座や広報紙等を通じて、国際的な 男女共同参画に関する取組についての情 報提供を行う。	0	○出前講座等の実施 出前講座や市町村基礎研修会などにおいて、 国際的な動きと歩調を合わせて取り組まなけれ ばならない問題などに理解と関心を高め、意識の 醸成に努める。

基本目標Ⅰ 男女平等を推進する社会づくり
重点目標7 国際的な男女共同参画の取組の理解

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
29,262	○国際交流出前講座 ・国際交流員を市町村、公民館、学校等に派遣 ・令和3年度実績は38件 ○対象に男女の区別を設けることなく、事業を企画した。	事業の企画・実施にあたっては男女の区別を設けることなく実施している。 国際交流出前講座を通じて国際理解教育の充実を図る。	国際課
0 (（公財）新潟県国際交流協会事業)	○NGOスタッフ育成講座1回 ○通訳ボランティアセミナー1回 ○国際交流ファシリテーター養成事業 ・小中高23校へ派遣、国際理解ワークショップを開催 ○男女の区別なく事業の企画・周知を行った。	事業の企画・実施にあたっては男女の区別を設けることなく実施している。 引き続き、女性を含め参加者の拡大を図る。	国際課
0	出前講座や市町村研修会において、国際的な視点についても周知した。	引き続き、男女共同参画に関する国際的な取組や視点について周知に努める。	政策企画課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり			
重点目標1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大			
(1) 県の審議会等への女性登用を推進します			
111 審議会等への女性登用の促進	県の審議会等における女性委員の登用を図るため、登用目標値40.0%(令和7年度以降)の達成を目指して、関係各部署に女性の人材情報を提供するほか、「審議会等委員への女性登用推進要綱」に基づき計画的な登用及び計画の進行管理を行うとともに、女性委員の登用状況を毎年6月1日現在で調査し、結果を公表する。	0	令和4年度からの登用計画を策定し、令和7年度以降の女性登用率が40%以上となるよう、次の取組を重点的に行うほか、委員の任命手続きにかかる進行管理を確実にし、女性委員の登用促進に努める。 ○目標値達成に向けて、全庁的に取組が推進されるよう男女平等推進施策調整会議等で周知を図る。 ○関係団体への役職にこだわらない推薦の働きかけを行う。
(2) 女性県職員・教職員の育成・登用を推進します			
112 女性のためのキャリアサポート	女性職員の主体的キャリア形成を支援し、より高度な業務に積極的に取り組む意欲を高める。 1 「ダイバーシティと女性活躍推進」 2 「自分らしい働き方を考える」 3 「先輩職員との交流会」 4 「キャリアを継続させるためのセルフコントロール」	251	1 「ダイバーシティと女性活躍推進」 事例を踏まえつつ、ダイバーシティにおける女性活躍推進について理解を深める。 2 「自分らしい働き方を考える」 組織からの期待、管理監督職の役割について理解を深めるとともに、働く上でのこだわり・大切にしたい価値観を知る。 3 「先輩職員との交流会」 ロールモデルとなる先輩職員や同世代の女性職員との交流により、管理職を視野に入れたキャリア形成を前向きに捉えられるよう意識づける。 4 「キャリアを継続させるためのセルフコントロール」 感情のコントロール、自己管理について学ぶ。
113 女性職員の登用・職域拡大の推進	多様な職務経験や派遣研修により、女性の参画に必要な能力をより向上させ、十分発揮できるよう女性のエンパワーメントを支援する。 女性職員の能力の活用を図るため、多様な職務を経験させるとともに、外部への派遣研修などを通じて役付き職員への積極的登用を図る。	0	男女平等推進プラン及び令和3年3月に策定・公表した女性活躍推進行動計画(後期計画)に基づき、引き続き女性職員の能力の活用を図るため、多様な職務を経験させるとともに、外部への派遣研修や女性職員キャリアアップ研修などを通じて役付き職員への積極的登用を図る。

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり

重点目標1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○女性委員の登用状況把握 令和元年6月1日現在 37.5% 令和 2年6月1日現在 36.4% 令和 3年6月1日現在 36.7% ○担当者説明会や、改選等の委員任命手続きにおいて、登用促進のための取組について助言や意見を付した。	女性登用について、庁内各課への理解を求め、積極的な女性登用について働きかけを行う。	政策企画課
214	○女性のためのキャリアサポート 令和2年10月12日実施 新潟県受講者14名 (上記のほか、新潟市22名、新発田市1名、三条市1名、燕市2名、五泉市1名、阿賀野市1名受講) ○女性職員同士が、管理職を視野に入れたキャリア形成を前向きに捉えられるよう意識づけた。 ○受講後アンケートから、リーダー像に対する考え方が変わった、改めて今後のキャリアを考えるきっかけとなった等満足度の高い結果が得られた。	引き続き女性職員の主体的なキャリア形成を支援する。	人事課
0	○女性職員の登用状況 管理職に占める女性の割合【知事部局等】 ①本庁 R4.4.1現在 10.1% ②地域機関等 R4.4.1現在 15.2% ○R3年度派遣等実績 7人 ○適格者の能力向上が図られるとともに女性登用率が向上した。	引き続き女性職員の登用を進める。	人事課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
114	育児休業復帰支援 研修	・育児休業から復帰した職員が持つ様々な不安を解消し、円滑な職場復帰を目指すとともに、育児休業の経験を踏まえて、今後のキャリア形成を見据え、課題の整理やキャリアのプランニングを行うことを目的に研修を実施。 ・育児休業からの職場復帰を控える職員に休暇、休業制度等の情報提供を行うとともに、現在抱えている不安や悩みを参加者間で共有することで、円滑な職場復帰が図れるようにオンライン交流会を実施。	148	○育児休業復帰支援研修 ・職場復帰した職員が、現状を語り合うことによって、業務と生活との調和を保つための情報やヒントを得られるよう支援する。 ・同じ状況にある職員同士で気兼ねなく意見交換を行い、人間関係を深めることにより、自分の置かれている状況が特別なものではないことを理解し、業務と生活の調和が保てるように支援する。 ・職場復帰した職員が、育児休業の経験を踏まえて、今後のキャリア形成を見据え、課題の整理や、キャリアのプランニングを行う。 ・育児休業からの職場復帰を控える職員には事前に休暇・休業制度等の資料を配付し、交流会で実際に制度について先輩職員などから話を聞くことにより、復帰後の働き方の情報が得られるよう支援する。 ・事前アンケートにより、参加者が育児休業中に抱えている悩みごとや不安を集約し、交流会で共有化を図る。
115	女性職員の登用(企業局)	職員の採用にあたっては、男女の差別なく実施する。	0	職員の採用にあたっては、性別を問わず、能力を適切に評価して実施する。
116	女性職員の登用(病院局)	男女間の差別なく職員の能力と勤務成績に基づいた登用を行う。	0	職員の職務遂行能力と勤務実績の適切な評価に基づき任用する
117	女性教員の管理職等への登用(教育庁・義務教育)	女性教員の管理職等への登用を図る。	0	本人の適性や希望にあわせ、女性教員の管理職等への登用を図る。
118	女性教員の管理職等への登用(教育庁・高等学校教育)	女性教員の管理職等への登用を推進する。	0	・管理職選考検査への女性教員の志願者を増加させる。 ・女性管理職の適材適所の配置に努め、生き生きと働く女性管理職を増やす。 ・研修会において管理職のやりがいなどを伝え、人材発掘に努める。
119	女性警察官の採用及び職域の拡大の推進	女性警察官の採用を恒常的に実施するとともに、女性の能力や特性を生かせる職域の拡大に取り組む。	0	○第1回(5月)試験 女性警察官A採用(大卒)9名程度を採用予定 ○第2回(9月)試験 女性警察官A採用(大卒)及びB採用(大卒以外)警8名程度を採用予定

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
164	○育児休業復帰支援研修 前期：令和3年6月21日実施 受講者11名 後期：令和3年10月21日実施 受講者13名 ・育児休業から復帰した職員が持つ様々な不安を解消し、円滑な職場復帰を支援するとともに、育児休業の経験を踏まえて、今後のキャリア形成を見据え、課題の整理やキャリアのプランニングを行う機会を提供した。 ○「悩みが共有できてスッキリした」「不安が軽くなった」等満足度の高い結果が得られた。 ・令和4年2月1日実施 受講者8名(オンライン交流会) ○「復帰にあたっての漠然とした不安を解決できそう」等満足度の高い結果が得られた。	育児休業から復帰した職員及び復帰を控える職員の円滑な職場復帰を支援するため、引き続き研修を実施していく。	人事課
0	○女性職員を4名採用した。 ・臨時的任用職員 4名 ○職員の採用にあたっては、性別を問わず、能力を適切に評価して実施している。	・採用に際し、能力を適切に評価して実施することができた。 ・今後も性別にかかわらず、適切な能力評価に基づく採用に努める。	企業局総務課
0	○令和4年度4月1日現在の管理職における女性の割合(医師除く)は51.6%であった。 ○適正な能力・実績評価に基づき女性職員の登用に努めた。	引き続き、適正な能力・実績評価に基づき女性職員の登用に努める。	病院局総務課
0	○管理職に占める女性の割合(前年度比) ＜校長＞合計 14.8%(+1.5%) 小学校 19.3%(+2.5%) 中学校 6.0%(±0%) 義務教育学校 0.0%(±0%) 特別支援学校 14.3%(±0%) ＜教頭＞合計 15.6%(+1.7%) 小学校 17.9%(+2.7%) 中学校 9.1%(±0%) 義務教育学校 0.0%(±0%) 特別支援学校 24.3%(+0.6%) ○教育施策方針等説明会、人事異動方針説明会等で女性管理職の登用状況を説明し、働きかけを行った。	資質と意欲のある女性の登用に更に努めるとともに、将来、指導的地位へと成長していく人材を育成する。	義務教育課
0	○令和4年度の管理職に占める女性の割合 県立高等学校・中等教育学校 校長 6.9%(6.9%) 副校長・教頭 11.9%(11.9%) ()内は前年度 ○年度末に女性管理職の定年退職や行政職への異動があったが、前年度と同数の女性管理職を維持できた。	資質と意欲のある女性の登用に努めるとともに、管理職の適性を持った女性教員の発掘と育成に努め、令和5年度管理職選考における女性の受検者増につなげる。 女性管理職が生き生きと職務に励めるよう、適材適所の人事配置を推進する。	高等学校教育課
0	○令和3年度の女性警察官の採用状況 女性警察官A採用(大卒)6名 女性警察官B採用(大卒以外)16名 ○女性警察官の配置ポスト拡大を図った。	女性警察官の採用及び職域の拡大は適切に推進されている。今後も女性警察官の採用及び職域の拡大のための効果的な施策を推進していく。	警察本部警務部警務課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(3) 市町村の政策・方針決定過程への女性の参画を促進します			
120 市町村男女平等推進主管課長会議	市町村男女平等推進主管課長会議を開催し、県及び市町村の男女平等推進の取組の状況等の情報交換を行い、市町村との連携により男女平等社会の形成に向けた施策を推進する。	45	令和4年5月19日開催(オンライン開催) 【内容】 ・第4次新潟県男女共同参画計画の概要 ・県及び公益財団法人新潟県女性財団による事業説明 ほか
121 市町村における男女平等推進施策推進状況調査	市町村の男女平等施策推進体制、男女平等推進関連事業の実施状況、審議会等委員への女性の登用状況等を把握し分析することにより、市町村の施策の推進に役立てることを目的として、調査を行い公表する。	0	○調査結果を取りまとめ、「市町村推進状況」、「新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)推進状況」の冊子に掲載する。 ○また、重点事業や、特徴的・先進的事业などを掲載した「市町村推進状況」を各市町村等に配布し、情報提供を行う。
(4) 企業、団体、地域等あらゆる場における方針決定過程への女性の参画を促進します			
122 選挙に関する各種啓発事業	公職選挙法第6条第1項の規定に基づき、「選挙が公明且つ適正に行われるように、常にあらゆる機会を通じて選挙人の政治常識の向上に努める(常時啓発)」とともに、特に選挙に際しては投票の方法、選挙違反その他選挙に関し必要と認める事項を選挙人に周知させる(選挙時啓発)」ための、各種啓発事業を行っている。	2,657	○常時啓発、選挙時啓発 ・各種啓発資料の作成・配布 ・各種会議の開催 等
123 (再) 啓発資料の作成・配布	性別による固定的な役割分担意識の解消を図り、男女平等への理解を深めるため、啓発用パンフレットを県民各層に幅広く配布する。 ・配布対象 当課事業等の参加者、市町村等	0	○市町村研修会、企業交流会議等の開催時、パンフレットやリーフレットを参加者等に配布 ○「ふれ愛ほっとらいん」を作成し、ホームページに掲載するほかハッピー・パートナー企業や関係団体等に送付

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
67	新型コロナウイルスの流行状況を勘案し、書面開催とする。 市町村に対し、資料により男女平等社会推進課のほか、県関係課の事業及び(公財)新潟県女性財団の事業の説明を行った。	引き続き主管課長会議を開催し、県と市町村との連携を図る。	政策企画課
0	○調査結果を取りまとめ、「市町村推進状況」、「新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)推進状況」の冊子にまとめた。 ○重点事業や、特徴的・先進的事業などを紹介した。 ○各市町村等に配布し、情報提供を行った。	市町村の男女平等施策推進体制、男女平等推進関連事業の実施状況、審議会等委員への女性の登用状況等を把握し、市町村の施策の推進に役立てるため、引き続き実施する。	政策企画課
2,758	○啓発資料の印刷・配布 ・中学3年生用「おとなへのパスポート」約22,000部 ・若年層用「届け！未来レター」約26,000部 ○研修会・会議の開催及び派遣(旅費支給) ・啓発指導者研修会 R4.3.25 ・Niigata選挙カレッジ R3.5～R4.2(月1回程度) ・明るい選挙推進のための各種会議 明るい選挙推進協議会企画運営委員会 R3.8.2 新潟市 明るい選挙推進協議会総会 R4.3.25 新潟市 ○選挙時啓発の実施(衆院選) ・啓発資料の印刷・配布 等 ○各種会議等でのグループ編成において、男女の比率が偏らないよう工夫した。	事業の企画・実施に当たっては、年齢、性別を問わず、幅広い主体が参加できる選挙啓発を行っており、今後も同様に取り組む。	市町村課
0	市町村研修会や県政出前講座等において啓発冊子を配付し、男女平等推進に関する啓発に努めた。 また、年4回「ふれ愛ほっとらいん」を発行し、県の施策や国、市町村の関連情報、新潟県女性財団の講座情報等を周知した。	啓発冊子や「ふれ愛ほっとらいん」の発行を通じて男女平等社会の形成促進を図っていく。	政策企画課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
124 (再)	男女共同参画推進 員の設置	男女共同参画を推進するため、職員への意識啓発、施策への男女平等の視点の導入を図るため、庁内各所属に男女共同参画推進員を置くもの。	0	○男女共同参画への取組促進に向けた情報の提供 ※ 研修会等の開催は未定(新型コロナウイルスの流行状況により検討)
125	ハッピー・パートナー 企業(新潟県男女共 同参画推進企業)の 登録	男女の働き方の見直しや仕事と家庭・その他の活動の両立支援、女性の登用・育成など男女共同参画の推進に積極的な企業等を登録し、取組を支援するとともに、その事例を広く紹介する。	4,123	○ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の登録推進と登録制度の知名度向上に向けた取組を行う。 ・男女共同参画を進める企業の募集・登録 ・登録制度・企業の広報 ・登録企業の取組への支援(情報提供等) ・登録企業交流会議(登録企業の取組紹介や意見交換、先進事例紹介等) ・ハッピー・パートナー企業調達事業者制度の周知及び登録、利用促進
126 (再)	ワーク・ライフ・ balan ス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり

重点目標1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○新型コロナウイルス感染拡大により研修会の開催 を見送り	男女共同参画の視点を踏まえた 全庁的な施策展開を図るため、引 き続き、各所属における取組を推進 する職員を対象にした研修を実施 する。	政策企画課
172	○登録促進パンフレットを配付するなど、ハッピー・ パートナー企業の登録に努めた結果、登録数が1,296 社となった。(イクメン応援プラス認定217社、子育て 応援プラス認定463社) ○子育てしやすい職場環境整備をさらに推進するた め、2つのプラス認定を統合し、利便性を向上させる とともに、支援メニューを拡充した。 ○ホームページ、ふれ愛ほっとらいんの配布を通じて ハッピー・パートナー企業の広報に努めた。 ○調達事業者の利用を庁内に呼び掛けるとともに、 契約実績を公表した。	・様々な手法を取り入れて登録数の 増加に努めた結果、登録数の年度 ごとの伸び率は上昇傾向にある。 ・今後も更に検討を加えながら、登 録数の増加に努める。 ・登録企業の取組が更に進むよう、 情報提供やアドバイザー派遣を積 極的に行う。 ・登録企業からメリットを感じてもら えるよう、様々な機会や媒体を通じ てハッピー・パートナー企業の広報 に努める。	政策企画課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入 れた。	引き続き、国及び関係機関と連携 を図り、育児・介護休業制度等の周 知啓発を行い、両立支援制度の利 用促進及びワーク・ライフ・バランス の推進を図る。	しごと定住促進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり			
重点目標2 女性の能力の開発・発揮			
(1) あらゆる分野に参画できる女性人材を育成します			
127 (再)	啓発資料の作成・配布	性別による固定的な役割分担意識の解消を図り、男女平等への理解を深めるため、啓発用パンフレットを県民各層に幅広く配布する。 ・配布対象 当課事業等の参加者、市町村等	0 ○市町村研修会、企業交流会議等の開催時、パンフレットやリーフレットを参加者等に配布 ○「ふれ愛ほっとらいん」を作成し、ホームページに掲載するほかハッピー・パートナー企業や関係団体等に送付
128 (再)	男女共同参画週間 (6/23～29)	国の取組に連動し、男女共同参画社会基本法の目的及び理念に対する県民の理解を深めるため、各層・各界で男女共同参画社会の実現に向けた様々な取組が行われるよう気運の醸成を図ることを目的に啓発活動を実施する。	0 男女共同参画週間に併せ、男女共同参画社会についての意識啓発を行う。 ・男女共同参画週間の広報 ・「ふれ愛ほっとらいん」への掲載 ・新潟ユニゾンプラザでのパネル展示 ・フェスティバルの開催(講演会、ワークショップ)
129 (再)	男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」の発行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知を図るとともに、男女平等に関するデータの紹介などにより、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図ることを目的として情報紙を発行する。 (発行開始 平成8年9月)	0 県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回/年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4～6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等を紹介する。
130 (再)	(公財)新潟県女性財団事業費補助事業	(公財)新潟県女性財団が実施する事業に要する費用を補助し、男女平等社会の形成のために、官民の協働を進めていく。	27,973 ○情報事業 財団のホームページや機関紙による情報提供、啓発誌の発行など多様な情報発信により、男女共同参画社会実現に向けた有益な情報を県民に提供する。 ○研修事業 男女共同参画推進のための県民の理解や取組を促進するとともに、人材を育成する学習機会を提供する。 ○支援・交流事業 企業・団体、自治体や女性団体における男女共同参画の推進に向けた取組を支援するため、交流や情報の収集・発信の場を提供する。

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり

重点目標2 女性の能力の開発・発揮

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	市町村研修会や県政出前講座等において啓発冊子を配付し、男女平等推進に関する啓発に努めた。 また、年4回「ふれ愛ほっとらいん」を発行し、県の施策や国、市町村の関連情報、新潟県女性財団の講座情報等を周知した。	啓発冊子や「ふれ愛ほっとらいん」の発行を通じて男女平等社会の形成促進を図っていく。	政策企画課
0	〇男女共同参画週間に併せ、男女共同参画社会についての意識啓発を行った。 ・「ふれ愛ほっとらいん」への掲載 ・新潟ユニゾンプラザでのパネル展示 等 〇男女共同参画週間のキャッチフレーズの周知や広報により、男女が共に取り組むべき課題であることの認知度を高めた。	男女共同参画週間に関連した広報・啓発を継続し、男女共同参画社会の実現に向けた気運の醸成を図っていく。	政策企画課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等の紹介。 〇掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点から望ましいものとした。 〇掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優先した。	庁内の関係課や市町村の事業等の情報収集を密に行い、掲載情報の充実を図る。	政策企画課
26,297	〇情報事業 ・インターネット、機関紙による情報の提供。啓発誌「ぶつくばらんす」の発行 〇研修事業 ・人材育成セミナー ・女性センター講座 ・共同参画ファシリテーター養成事業 ・男性向け講座 ・地域セミナー 〇支援・交流事業 ・にいがた女と男フェスティバル開催事業 ・企業等における女性の活躍取組支援 ・各種団体等との連携・協働 ・行政職員交流支援事業 〇女性財団が実施した各種事業を通して、男女共同参画社会の形成に向けた県民の理解や取組の進捗が図られた。	・新潟県女性財団による人材育成事業、市町村や民間団体と連携した交流促進事業及び情報発信事業への事業費補助を行っており、実践的な活動により男女共同参画社会の形成の促進が図られている。 ・引き続き、財団における各種事業が効率的・効果的に行われるよう支援を行っていく。	政策企画課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
131	にいがた女性活躍推進事業	女性の職業生活における活躍を推進するため、企業経営者層の意識改革や女性のキャリア形成支援等の取組を行う。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、特に女性に対して負の影響を与えており、望まない孤独・孤立で不安を抱える女性が社会とのつながりを回復できるよう、きめ細かい支援を実施する。	52,959	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 女性リーダー養成講座 一時離職者等ステップアップ講座 企業担当者向けセミナー 男性育休取得キャンペーン 等 ・次世代ゼネラルマネージャー育成事業 ・未就労女性のためのオンラインスキルアップ事業 ・女性が活躍できる職場環境づくり支援事業 ・女性のためのつながりサポート事業 ピアサポート支援 アウトリーチ支援 連携会議の開催 等
132 (再)	DV防止法の周知	配偶者からの暴力の防止と被害者の保護をするための施策について周知する。	409	配偶者からの暴力が犯罪ともなる重大な人権侵害であることを周知し、女性に対する暴力の根絶に向けた意識啓発と予防のための環境づくりを推進する。
133 (再)	ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。
134 (再)	いきいき県民カレッジ充実費	県・市町村・高等教育機関等の生涯学習事業を体系化し、県民に多様な学習機会を提供する。	1,376	○いきいき県民カレッジ ・短期コース、長期コース ・9分野 ・単位認定制 ・「講座一覧」冊子を年2回発行 ※女性も男性も個性と能力を発揮し、多様な生き方を選択し、社会のあらゆる分野に参画するための多様な学習機会を提供する。

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標2 女性の能力の開発・発揮

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
3,182	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 - 女性リーダー養成講座 - 一時離職者等ステップアップ講座 - 企業担当者向けセミナー ・女性のためのつながりサポート事業 - ピアサポート支援 - アウトリーチ支援 - 連携会議の開催 等	・女性活躍に対する意識は徐々に浸透しつつあるが、職場、特に経営者層・管理監督層の意識は依然として低い。 ・また、業界や企業により意識や取組に温度差が見られる。 ・今後もこれらを対象とした取組を進めていくとともに、全体の底上げを目指していく。	政策企画課
457	○「配偶者暴力防止連絡会議」を书面開催。 構成機関34機関 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「配偶者暴力防止実務担当者会議」及び「DV防止セミナー」をオンライン同時開催。 ○配偶者暴力関係機関が出席する会議を開催し、課題の共有や情報交換につながった。	より多くの人に理解してもらえるように、引き続き、DV防止法の内容を周知していく。	子ども家庭課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
1,538	○いきいき県民カレッジ ・県民を対象に9分野で講座を実施した。 - 登録講座数:2,028講座 - 受講者数:75,068名 ・「講座一覧」冊子を年2回発行して情報提供に努めた。 ・いきいき県民カレッジの奨励証(学長賞)の表彰式を行い、受講者の学習意欲の向上を図った。 ・男女平等の視点を含む多様な学習情報を冊子やラ・ラ・ネットで提供している。	・昨年度よりも講座数や受講者数が増加した。 ・参加状況に男女の大きな偏りは見られない。 ・今後も男女共同参画の視点を取り入れた講座の開設と幅広い情報の提供ができるように努めていく。 ・今後も働く女性や男性が参加しやすい講座の開設に向けて、オンライン等も含めた工夫を市町村に働き掛けていく。	生涯学習推進課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
135 (再)	にいがた連携公開講座開催費	県民の学習ニーズの多様化・高度化に応えるため、県及び県内大学等高等教育機関と市町村が連携して多様で高度な学習機会を提供する。	124	〇にいがた連携公開講座2021にいがた連携公開講座は、事業の見直しを図り令和3年度で終了した。 令和4年度は、県民に生涯学び活躍できる循環型生涯学習社会の実現に向けた意識啓発を図るため、県内で活躍している著名人の講演会と社会教育関係団体による啓発活動を行う。
(2) 女性の起業など様々なチャレンジを支援します				
136 (再)	啓発資料の作成・配布	性別による固定的な役割分担意識の解消を図り、男女平等への理解を深めるため、啓発用パンフレットを県民各層に幅広く配布する。 ・配布対象 当課事業等の参加者、市町村等	0	〇市町村研修会、企業交流会議等の開催時、パンフレットやリーフレットを参加者等に配布 〇「ふれ愛ほっとらいん」を作成し、ホームページに掲載するほかハッピー・パートナー企業や関係団体等に送付
137	女性のチャレンジ支援	女性の意欲を活かし、個性と能力を発揮できるよう、再就職、キャリアアップ、起業など様々な分野でのチャレンジを応援するため、先行事例等を紹介する「新潟県女性のチャレンジサイト」の運営・管理を行う。	0	「新潟県女性のチャレンジサイト」で紹介している機関・団体等の追加と、県内の様々な分野で活躍している女性の事例収集等を行う。
138	起業チャレンジ応援事業	新潟県内で新たに起業する方に対し、起業に必要な経費の一部を助成する。	21,000	新潟県内での地域課題や社会課題の解決に資する事業を対象に、男女の区別なく支援を行う。
139	セミナー等開催事業	創業(希望)者向けのスタートアップセミナーや、創業間もない者向けのステップアップセミナーを実施。	4,948の一部	引き続き、男女の区別なく幅広い起業の促進を図るため、セミナー等を開催する。
140	ベンチャー企業創出事業	独創的な技術やアイデアをもとに県内で創業しようとする起業家等に対して、アドバイスと必要な経費の一部を助成する。	167,939の一部	引き続き、男女の区別なく高成長なベンチャー起業家の支援を行う。
141	女性リーダー研修等への参加	県内外で開催される各種研修会に派遣し参加者の見聞を深めることにより、山村における女性リーダーの育成を図る。	0	〇全国はつらつ林業女性交流会への参加 〇全国の女性林業グループが集まる大会等への参加

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標2 女性の能力の開発・発揮

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
350	○にいがた連携公開講座2021 ・対象者 一般県民 ・講座内容 現代的課題及び知的好奇心を満たす講座(郷土の歴史、健康、歴史文化、虐待防止など)を6講座実施した。 ・会場は参加者の利便性に配慮して県内6会場で開催した。 ・受講者463名、アンケート回答数324名 ・事業実施後のアンケートからは、「成果があった」という回答が91%であった。	・受講者数は昨年度よりも増加した。県民を対象としていることや、オンラインを併用することで市外からも多く参加いただいている。 ・本事業は終了したが、男女平等の視点を含めた人権問題を取り入れた講座等を検討する。	生涯学習推進課
0	○市町村研修会や県政出前講座等において啓発冊子を配付し、男女平等推進に関する啓発に努めた。 また、年4回「ふれ愛ほっとらいん」を発行し、県の施策や国、市町村の関連情報、新潟県女性財団の講座情報等を周知した。	啓発冊子や「ふれ愛ほっとらいん」の発行を通じて男女平等社会の形成促進を図っていく。	政策企画課
0	○県内の様々な分野で活躍している女性の事例収集等を行い、「新潟県女性のチャレンジサイト」で紹介した。	引き続き、女性活躍推進事業の取組と連携して、多様な分野で活躍する魅力的な人物の事例収集等を行う。	政策企画課
21,000	○採択件数16件中、女性起業家の採択件数は、4件となり、全体の約25%を占める。	引き続き事業を実施する。	創業・イノベーション推進課
4,948の一部	○起業に関心のある方等を対象に、セミナー等を10回開催した。 ○男性だけでなく女性も含め、起業に関心のある者が幅広く参加できるよう、積極的な周知を行った	起業に関心のある女性も対象に含め、幅広く起業マインドの醸成と創業支援施策の周知、創業後の成長支援を図るため、各種セミナーを実施予定。	創業・イノベーション推進課 産業政策課
175,783の一部 (枠予算)	○採択件数7件(新規案件3件、継続案件4件)中、女性起業家の採択件数は、1件(継続案件1件)となり、全体の15%を占める。 ○男性だけでなく、女性も含め、起業に関心のある者が幅広く参加できるセミナー等において、積極的に本事業の周知を行った	引き続き事業を実施する。	創業・イノベーション推進課 産業政策課
0	・実績なし ・コロナ禍により、各種研修会がオンライン開催になったため参加せず。	全国の女性グループの取組状況を知る貴重な機会のため、社会情勢を踏まえ今後も継続参加していく。	林政課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
142	林業女性教室の開催	山村の林業女性等を対象に研修を行い、森林・林業に対する理解を深め、基礎的な林業技術、山村における生活環境等の知識について広く習得を図る。 【研修内容】 (1) 林業一般 森林・林業の役割等一般的知識に関する研修 (2) 林業技術 植栽・保育及び特用林産物生産等林業技術に関する基礎研修 (3) 生活技術 山村生活における生活技術に関する研修 (4) 交流研修 先進林業地との交流研修 (5) 集団討議 参加者による意見交換等	0	○林業教室を開催する ・林業一般の知識の習得を図る
143	にいがた農業「新3K」人づくり事業	女性農業者の能力発揮による農業の発展のために、地域のリーダーとなり得る女性の育成、女性グループの活動、女性農業者活躍の意義の普及、女性が働きやすい環境づくりの推進を支援する。	51,505のうち3,000	○女性農業者を対象とした、地域リーダー育成研修会を開催する。 ○女性農業者グループの活動を支援する。 ○家族経営協定の締結を推進する。

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり

重点目標2 女性の能力の開発・発揮

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○林業女性教室の開催 開催地区 関川村ほか 開催回数 延べ2回 参加者数 延べ21人 ○研修の実施において、女性が興味を持てる内容や参加しやすい日程に配慮した。 ○森林・林業への関心が高まった。	近年は、開催地区が限定される状況にあるため、他地域での開催について働きかけをする必要がある。	林政課
49,781のうち 2,743	○女性農業者の活躍促進に向けた環境整備 ・家族経営協定の締結推進(締結に係る検討会・説明会の開催、青年農業士認定予定者の現地調査時に締結に向けて働きかけ)を行い、家族経営協定は新たに15件の締結があった。 ○若い世代の起業チャレンジ等支援と情報発信 ・起業を目指す女性農業者(経営体)への個別支援により、商品開発や販売拡大等の取組が進んだ。	・家族経営協定締結数は1,423件となった(令和2年度末時点)。 ・将来の地域リーダーとなり得る女性農業者の育成に向けた研修会等の実施(現役の農業員、JA役員との勉強会 等) ・女性農業者グループの活動支援(課題解決に向けた研修会の開催、新商品開発に向けた試作品の開発や先進事例の調査 等) ・家族経営協定の締結に係る相談会等の開催	経営普及課

事業・取組名		事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(3) 女性の人材に関する情報を収集、整備し、提供します				
144	県の附属機関の委員の 情報収集	県の附属機関の委員に就任する委員又は辞任する委員の情報を収集することにより、各分野で活躍する女性の情報を把握・充実し、提供する。	0	附属機関の委員に関する情報の収集に引き続き努めるとともに、女性に関する情報の把握・充実に努める。
145	女性人材リストの充実	県及び市町村の審議会等への女性の登用促進などの政策・方針決定の場への女性の参画促進などを図るため、県内で活躍する女性有識者情報を登録し情報を提供する。	0	引き続き人材情報の収集をし、今後のリストの運用方法について検討を行う。
(4) 女性団体等への活動支援を充実します				
146	社会活動促進事業	ボランティア活動などの社会活動に参加しやすい環境づくりや非営利活動団体の経営力の強化、多様な主体の協働・連携の促進に取り組むことにより、県民の社会活動参加の持続的な発展を実現する。	5,107	○県民の社会活動参加への取組の推進 ・「にいがたNPO・地域づくり情報ネット」の運営による県内NPOの情報発信支援やネットワーク形成 ○社会活動に取り組む団体の経営力の強化 ・NPOの運営に関するセミナー等 ○多様な主体の協働・連携の促進 ・パートナーシップセミナー
147 (再)	(公財)新潟県女性財 団事業費補助事業	(公財)新潟県女性財団が実施する事業に要する費用を補助し、男女平等社会の形成のために、官民の協働を進めていく。	27,973	○情報事業 財団のホームページや機関紙による情報提供、啓発誌の発行など多様な情報発信により、男女共同参画社会実現に向けた有益な情報を県民に提供する。 ○研修事業 男女共同参画推進のための県民の理解や取組を促進するとともに、人材を育成する学習機会を提供する。 ○支援・交流事業 企業・団体、自治体や女性団体における男女共同参画の推進に向けた取組を支援するため、交流や情報の収集・発信の場を提供する。

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標2 女性の能力の開発・発揮

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
	0 ○附属機関の委員改選回数 72回(R3年度) ○改選の都度、各部局から名簿を収集した上で、年4回、全附属機関の名簿一覧を各部局へ周知した。 ○附属機関の委員改選時に、女性の積極的登用を附属機関を所管する所属に働きかけた。	引き続き、女性の積極的登用を働きかける。	行政改革課
	0 効果的な人材提供を実施するため、今後のリストの運用方法について検討	引き続き、登録の少ない分野を中心に情報収集を行い、リストの充実を図る。	政策企画課
5,566	○社会活動促進事業 【情報発信支援】 ・「にいがたNPO・地域づくり情報ネット」を通じて各種の情報を提供するとともに、県内のNPOの情報発信支援やネットワーク形成を図った。 アクセス件数(推計値):146,970件 ○Webサイトを通じ広く情報提供を行うとともに、男女共同参画に関する社会活動を行っている団体をWeb上で検索できるようにしている。	・「にいがたNPO・地域づくり情報ネット」掲載の人に焦点をあてた記事においては、性別、年齢、地域のバランスを考慮して年6回、選定している。 ・引き続き、取組を継続していく。	県民生活課
26,297	○情報事業 ・インターネット、機関紙による情報の提供。啓発誌「ぶっくらんす」の発行 ○研修事業 ・人材育成セミナー ・女性センター講座 ・共同参画ファシリテーター養成事業 ・男性向け講座 ・地域セミナー ○支援・交流事業 ・にいがた女と男フェスティバル開催事業 ・企業等における女性の活躍取組支援 ・各種団体等との連携・協働 ・行政職員交流支援事業 ○女性財団が実施した各種事業を通して、男女共同参画社会の形成に向けた県民の理解や取組の進捗が図られた。	・新潟県女性財団による人材育成事業、市町村や民間団体と連携した交流促進事業及び情報発信事業への事業費補助を行っており、実践的な活動により男女共同参画社会の形成の促進が図られている。 ・引き続き、財団における各種事業が効率的・効果的に行われるよう支援を行っていく。	政策企画課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり			
重点目標3 雇用等の分野における男女均等な機会と待遇の確保			
(1) 雇用分野における男女の均等な機会と待遇の確保など、職業生活において女性が能力を発揮できる環境の整備を促進します			
148 (再) にいがた女性活躍推進事業	女性の職業生活における活躍を推進するため、企業経営者層の意識改革や女性のキャリア形成支援等の取組を行う。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、特に女性に対して負の影響を与えており、望まない孤独・孤立で不安を抱える女性が社会とのつながりを回復できるよう、きめ細かい支援を実施する。	52,959	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 女性リーダー養成講座 一時離職者等ステップアップ講座 企業担当者向けセミナー 男性育休取得キャンペーン 等 ・次世代ゼネラルマネージャー育成事業 ・未就労女性のためのオンラインスキルアップ事業 ・女性が活躍できる職場環境づくり支援事業 ・女性のためのつながりサポート事業 ピアサポート支援 アウトリーチ支援 連携会議の開催 等
149 (再) ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。
150 多様な人材が活躍できる農業推進事業	新型コロナウイルス感染症の影響による求職の動きに対し、女性・高齢者・障がい者等多様な人材が働きやすい就業環境の整備や農福連携の推進など、農業における誰もが働きやすい安全で衛生的な就業環境づくりを推進する。	15,000	○環境整備支援 農業法人等において、誰もが働きやすい安全で衛生的な就業環境の整備に必要な施設改修等を支援する。 ・補助率: 1/2 ・上限補助額: 1,000千円 ○農福連携支援 農業法人等が行う農福連携の取組に必要な知識習得や障がい者の就業環境改善に資する設備の改修や備品購入等を支援する。 ・補助率: 1/2以内、一部定額 ・上限補助額: 1,000千円

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標3 雇用等の分野における男女均等な機会と待遇の確保

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
3,182	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 女性リーダー養成講座 一時離職者等ステップアップ講座 企業担当者向けセミナー ・女性のためのつながりサポート事業 ピアサポート支援 アウトリーチ支援 連携会議の開催 等	・女性活躍に対する意識は徐々に浸透しつつあるが、職場、特に経営者層・管理監督層の意識は依然として低い。 ・また、業界や企業により意識や取組に温度差が見られる。 ・今後もこれらを対象とした取組を進めていくとともに、全体の底上げを目指していく。	政策企画課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
20,000	○環境整備支援 申請件数:15件 執行額:10,945千円 ○農福連携支援 申請件数:9件 執行額:4,332千円	・令和3年度は農業法人や福祉事業所等24件で取組がなされ、就業環境整備が図られた。 ・誰もが働きやすい安全で衛生的な就業環境の整備や研修会の実施を支援し、農業における多様な人材が活躍できる就業環境整備に務める。	経営普及課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 女性の職業能力の開発を支援するとともに、能力発揮のための積極的改善措置 (ポジティブ・アクション) の取組を促進します			
151 (再) ハッピー・パートナー 企業(新潟県男女共 同参画推進企業)の 登録	男女の働き方の見直しや仕事と家庭・そ の他の活動の両立支援、女性の登用・育成 など男女共同参画の推進に積極的な企業 等を登録し、取組を支援するとともに、その 事例を広く紹介する。	4,123	○ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参 画推進企業)の登録推進と登録制度の知名度向 上に向けた取組を行う。 ・男女共同参画を進める企業の募集・登録 ・登録制度・企業の広報 ・登録企業の取組への支援(情報提供等) ・登録企業交流会議(登録企業の取組紹介や意 見交換、先進事例紹介等) ・ハッピー・パートナー企業調達事業者制度の周 知及び登録、利用促進
152 (再) にいがた女性活躍推 進事業	女性の職業生活における活躍を推進する ため、企業経営者層の意識改革や女性の キャリア形成支援等の取組を行う。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大 が、特に女性に対して負の影響を与えてお り、望まない孤独・孤立で不安を抱える女性 が社会とのつながりを回復できるよう、きめ 細かい支援を実施する。	52,959	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 女性リーダー養成講座 一時離職者等ステップアップ講座 企業担当者向けセミナー 男性育休取得キャンペーン 等 ・次世代ゼネラルマネージャー育成事業 ・未就労女性のためのオンラインスキ ルアップ事業 ・女性が活躍できる職場環境づくり支 援事業 ・女性のためのつながりサポート事業 ピアサポート支援 アウトリーチ支援 連携会議の開催 等
153 (再) ワーク・ライフ・パラン ス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意 識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を 行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・パ ランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図 る。
154 技能向上訓練費	在職労働者を対象とする最新技術の習得 などの職業訓練を実施し、産業界が必要と する幅広い職業能力の開発と向上を図る。	28,168	○就業職種、技能の程度に応じて労働者に必要 な技能と知識を付与する。 ・定員：2,150名 ・訓練期間：標準12時間
155 訓練手当	障害者・ひとり親家庭の親等の就業困難 者の職業訓練受講に係る援護措置として訓 練手当を支給。 訓練手当の支給により生活を安定させ、 訓練を推進し再就職支援を図る。	17,141	○訓練手当の支給 R4年度の計画：40名

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標3 雇用等の分野における男女均等な機会と待遇の確保

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
172	○登録促進パンフレットを配付するなど、ハッピー・パートナー企業の登録に努めた結果、登録数が1,296社となった。(イクメン応援プラス認定217社、子育て応援プラス認定463社) ○子育てしやすい職場環境整備をさらに推進するため、2つのプラス認定を統合し、利便性を向上させるとともに、支援メニューを拡充した。 ○ホームページ、ふれ愛ほっとらいんの配布を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努めた。 ○調達事業者の利用を庁内に呼び掛けるとともに、契約実績を公表した。	・様々な手法を取り入れて登録数の増加に努めた結果、登録数の年度ごとの伸び率は上昇傾向にある。 ・今後も更に検討を加えながら、登録数の増加に努める。 ・登録企業の取組が更に進むよう、情報提供やアドバイザー派遣を積極的に行う。 ・登録企業からメリットを感じてもらえるよう、様々な機会や媒体を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努める。	政策企画課
3,182	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 - 女性リーダー養成講座 - 一時離職者等ステップアップ講座 - 企業担当者向けセミナー ・女性のためのつながりサポート事業 - ピアサポート支援 - アウトリーチ支援 - 連携会議の開催 等	・女性活躍に対する意識は徐々に浸透しつつあるが、職場、特に経営者層・管理監督層の意識は依然として低い。 ・また、業界や企業により意識や取組に温度差が見られる。 ・今後もこれらを対象とした取組を進めていくとともに、全体の底上げを目指していく。	政策企画課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
29,731	○訓練実績 ・コース数: 252コース ・募集定員 : 2,273名 ・受講者数 : 1,375名(うち女性227名) ○男女の区別なく受講生を受け入れた。 ○広報物を作成する際、表現やイラストが男女平等の視点から望ましくなるよう配慮した。	受講直後及び、受講数か月後と2度のアンケートを実施し、受講者ニーズを踏まえたコース設定や開講日時設定等を行い、男女の区別なく受講できるよう留意している。	雇用能力開発課
17,141	○訓練手当の支給 ・支給実績 : 44名(うち女性 17名) ○男女の所得条件の実態に合わせて国が基準を定め、男女の違いに配慮した訓練手当を支給した。	男女の所得条件の実態に合わせて国が基準を定め、所要の訓練手当を支給している。	雇用能力開発課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
156	若年者の職業能力開発	若年求職者を対象として、下記の支援を実施することで安定した就労への移行を促進する。 ①短時間の職業体験(1コース3時間) ②生産性の高い又は常用雇用ニーズが高い職種へ就労するために、専門性の高いスキルを習得する訓練を実施 ③座学と企業実習を組み合わせたデュアルシステム訓練を実施	147,939	○若年者進路選択支援事業 ・開催方法:20回×テクノスクール4校(5～2月) ・体験人数:560名 ○若年者専門スキル習得事業 ・定員 :133名 ○若年者委託訓練事業 ・定員 :300名
157	離職者等の再就職訓練	民間教育機関の委託等により、離職者に様々な職業訓練を提供し、円滑な再就職を支援する。 育児や家族の介護等に配慮し、1日あたりの訓練時間を通常より短く設定した職業訓練を実施し、ライフステージにあわせた再就職を支援する。	879,159	○事業内容(訓練内容) 事務・医療事務分野、IT分野、介護分野 など :計2,175名

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標3 雇用等の分野における男女均等な機会と待遇の確保

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
167,169	○若年者進路選択支援事業 ・体験人数:417名(女性144名) ○若年者専門スキル習得事業(R4.5月末現在) ・定員 :148名 ・受講者:58名(うち女性5名) ・就職者:46名(うち女性4名) ※別事業の「地域活性化雇用創造プロジェクト」実施人数含む ○若年者委託訓練事業(R4.5月末現在) ・定員 :325名 ・受講者:203名(うち女性125名) ・就職者:106名(うち女性76名) ○広報物を作成する際、表現やイラストが男女平等の視点から望ましくなるよう配慮した。 ○地場産業の職業においても男女の区別なく活躍できることをPRする広報を行った。	・男女の区別なく、訓練が受講できるよう留意した。 ・今後も男女の訓練受講の平等な機会を確保しつつ、若年求職者に対して適職とのマッチング支援と就職訓練の実施により、その就労を支援する。	雇用能力開発課
902,110	○訓練実績(R4.5月末現在) ・定員 :2,395名 ・受講者:1,362名(うち女性1,020名) ・就職者:722名(うち女性 559名) ○託児サービス付き職業訓練を実施した。 ○広報物を作成する際、表現やイラストが男女平等の視点から望ましくなるよう配慮した。	・男女の区別無く、訓練が受講できるよう留意した。 ・育児や家族の介護等に配慮し、1日あたりの訓練時間を通常より短く設定した職業訓練を実施し、ライフステージにあわせた再就職を支援する。 ・今後も男女の訓練受講の平等な機会を確保しつつ、雇用情勢に応じた職業訓練の受講機会を提供する。	雇用能力開発課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり			
重点目標4 農林水産業・商工業等自営業における男女共同参画			
(1) 農林水産業・商工業等自営業における女性の経営参画・社会参画を推進します			
158 (再) 女性のチャレンジ支援	女性の意欲を活かし、個性と能力を発揮できるよう、再就職、キャリアアップ、起業など様々な分野でのチャレンジを応援するため、先行事例等を紹介する「新潟県女性のチャレンジサイト」の運営・管理を行う。	0	「新潟県女性のチャレンジサイト」で紹介している機関・団体等の追加と、県内の様々な分野で活躍している女性の事例収集等を行う。
159 新潟県漁村女性アドバイザーの認定	漁業生産、水産加工又は生活管理等の知識、技術に優れており、かつ地域づくりや漁村青少年の育成指導に積極的に参画している者を漁村女性アドバイザーに認定し、地域の担い手の育成・確保に寄与する人材の確保を図る。	193	○新規認定候補者の選定を行い、認定式を行う。 ○各地で開催される料理教室や水産教室等に講師として参加し、魚食普及や漁業の担い手の育成・確保を図る。
160 (再) 女性リーダー研修等への参加	県内外で開催される各種研修会に派遣し参加者の見聞を深めることにより、山村における女性リーダーの育成を図る。	0	○全国はつらつ林業女性交流会への参加 ○全国の女性林業グループが集まる大会等への参加
161 (再) 林業女性教室の開催	山村の林業女性等を対象に研修を行い、森林・林業に対する理解を深め、基礎的な林業技術、山村における生活環境等の知識について広く習得を図る。 【研修内容】 (1) 林業一般 森林・林業の役割等一般的知識に関する研修 (2) 林業技術 植栽・保育及び特用林産物生産等林業技術に関する基礎研修 (3) 生活技術 山村生活における生活技術に関する研修 (4) 交流研修 先進林業地との交流研修 (5) 集団討議 参加者による意見交換等	0	○林業教室を開催する ・林業一般の知識の習得を図る
162 (再) にいがた農業「新3K」人づくり事業	女性農業者の能力発揮による農業の発展のために、地域のリーダーとなり得る女性の育成、女性グループの活動、女性農業者活躍の意義の普及、女性が働きやすい環境づくりの推進を支援する。	51,505のうち3,000	○女性農業者を対象とした、地域リーダー育成研修会を開催する。 ○女性農業者グループの活動を支援する。 ○家族経営協定の締結を推進する。

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標4 農林水産業・商工業等自営業における男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	県内の様々な分野で活躍している女性の事例収集等を行い、「新潟県女性のチャレンジサイト」で紹介した。	引き続き、女性活躍推進事業の取組と連携して、多様な分野で活躍する魅力的な人物の事例収集等を行う。	政策企画課
152	○料理教室への参加(講師として) 小学生や一般市民等を対象とした料理教室に講師として参加し、魚食普及活動を行った。 ○水産教室への参加 小中学生等を対象とした水産教室の活動に協力した。 ※令和3年度は漁村女性アドバイザーの新規認定者なし	・現在の取組については参加者から概ね好評を得ており、活動も定着化している。 ・今後、活動を継続・拡大していくためには漁村女性アドバイザーの高齢化や人数不足が懸念されることから、新規候補者の選定に積極的に取り組んでいく必要がある。	水産課
0	・実績なし ・コロナ禍により、各種研修会がオンライン開催になったため参加せず。	全国の女性グループの取組状況を知る貴重な機会のため、社会情勢を踏まえ今後も継続参加していく。	林政課
0	○林業女性教室の開催 開催地区 関川村ほか 開催回数 延べ2回 参加者数 延べ21人 ○研修の実施において、女性が興味を持てる内容や参加しやすい日程に配慮した。 ○森林・林業への関心が高まった。	近年は、開催地区が限定される状況にあるため、他地域での開催について働きかけをする必要がある。	林政課
49,781のうち2,743	○女性農業者の活躍促進に向けた環境整備 ・家族経営協定の締結推進(締結に係る検討会・説明会の開催、青年農業者認定予定者の現地調査時に締結に向けて働きかけ)を行い、家族経営協定は新たに15件の締結があった。 ○若い世代の起業チャレンジ等支援と情報発信 ・起業を目指す女性農業者(経営体)への個別支援により、商品開発や販売拡大等の取組が進んだ。	・家族経営協定締結数は1,423件となった(令和2年度末時点)。 ・将来の地域リーダーとなり得る女性農業者の育成に向けた研修会等の実施(現役の農業者、JA役員との勉強会等) ・女性農業者グループの活動支援(課題解決に向けた研修会の開催、新商品開発に向けた試作品の開発や先進事例の調査等) ・家族経営協定の締結に係る相談会等の開催	経営普及課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 農林水産業における女性の経営参画に向けた資質向上や環境整備を推進するとともに、関係者への情報提供に努めます			
163 農山漁村で働く女性の実態調査(林政)	森林組合等における男女別の就労状況等を把握するための調査を実施する。	0	○森林組合一斉調査を実施する ・森林組合 22組合 ・生産森林組合 151組合
164 (再) にいがた農業「新3K」人づくり事業	女性農業者の能力発揮による農業の発展のために、地域のリーダーとなり得る女性の育成、女性グループの活動、女性農業者活躍の意義の普及、女性が働きやすい環境づくりの推進を支援する。	51,505のうち3,000	○女性農業者を対象とした、地域リーダー育成研修会を開催する。 ○女性農業者グループの活動を支援する。 ○家族経営協定の締結を推進する。
(3) 商工業等の家族経営に関わる女性の労働・生活環境の整備を促進するとともに、能力が十分発揮できるよう情報提供に努めます			
165 (再) (公財)新潟県女性財団事業費補助事業	(公財)新潟県女性財団が実施する事業に要する費用を補助し、男女平等社会の形成のために、官民の協働を進めていく。	27,973	○情報事業 財団のホームページや機関紙による情報提供、啓発誌の発行など多様な情報発信により、男女共同参画社会実現に向けた有益な情報を県民に提供する。 ○研修事業 男女共同参画推進のための県民の理解や取組を促進するとともに、人材を育成する学習機会を提供する。 ○支援・交流事業 企業・団体、自治体や女性団体における男女共同参画の推進に向けた取組を支援するため、交流や情報の収集・発信の場を提供する。
166 商工会等若手後継者等育成事業	商工会議所や商工会に設立されている女性部の活動を推進し、女性部員の資質の向上を図るため、各種研修会、講習会及び研究会を広域で行う。	12,060	○商工会議所女性部における講演会・研修会の開催、全国商工会議所女性会総会への参加 ○商工会女性部における講習会、研修会等の開催

基本目標Ⅱ 女性が活躍できる社会づくり
重点目標4 農林水産業・商工業等自営業における男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○森林組合一斉調査を実施 ・森林組合 22組合 ・生産森林組合 151組合	今後も、女性の就労状況を把握するため、毎年実施する。	林政課
49,781のうち2,743	○女性農業者の活躍促進に向けた環境整備 ・家族経営協定の締結推進(締結に係る検討会・説明会の開催、青年農業士認定予定者の現地調査時に締結に向けて働きかけ)を行い、家族経営協定は新たに15件の締結があった。 ○若い世代の起業チャレンジ等支援と情報発信 ・起業を目指す女性農業者(経営体)への個別支援により、商品開発や販売拡大等の取組が進んだ。	・家族経営協定締結数は1,423件となった(令和2年度末時点)。 ・将来の地域リーダーとなり得る女性農業者の育成に向けた研修会等の実施(現役の農業員、JA役員との勉強会 等) ・女性農業者グループの活動支援(課題解決に向けた研修会の開催、新商品開発に向けた試作品の	経営普及課
26,297	○情報事業 ・インターネット、機関紙による情報の提供。啓発誌「ぶっくらんす」の発行 ○研修事業 ・人材育成セミナー ・女性センター講座 ・共同参画ファシリテーター養成事業 ・男性向け講座 ・地域セミナー ○支援・交流事業 ・にいがた女と男フェスティバル開催事業 ・企業等における女性の活躍取組支援 ・各種団体等との連携・協働 ・行政職員交流支援事業 ○女性財団が実施した各種事業を通して、男女共同参画社会の形成に向けた県民の理解や取組の進捗が図られた。	・新潟県女性財団による人材育成事業、市町村や民間団体と連携した交流促進事業及び情報発信事業への事業費補助を行っており、実践的な活動により男女共同参画社会の形成の促進が図られている。 ・引き続き、財団における各種事業が効率的・効果的に行われるよう支援を行っていく。	政策企画課
12,060	○ 研修会や青年部との共同事業等を実施し、地域を担う事業者に属する女性の活動が活発になった。	商工会女性部の会員数は減少傾向にあるが、地域において重要な役割を担っており、今後とも女性商工業者が十分に能力を発揮できるよう、商工会等女性部への資質向上の取組に対して支援を実施していく。	地域産業振興課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり 重点目標 1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を可能とする就業環境の充実			
（１）仕事と生活の調和の実現に向けた社会的機運醸成のための意識啓発を推進します			
167 (再) 啓発資料の作成・配布	性別による固定的な役割分担意識の解消を図り、男女平等への理解を深めるため、啓発用パンフレットを県民各層に幅広く配布する。 ・配布対象 当課事業等の参加者、市町村等	0	○市町村研修会、企業交流会議等の開催時、パンフレットやリーフレットを参加者等に配布 ○「ふれ愛ほっとらいん」を作成し、ホームページに掲載するほかハッピー・パートナー企業や関係団体等に送付
168 (再) 男女共同参画週間（6／23～29）	国の取組に連動し、男女共同参画社会基本法の目的及び理念に対する県民の理解を深めるため、各層・各界で男女共同参画社会の実現に向けた様々な取組が行われるよう気運の醸成を図ることを目的に啓発活動を実施する。	0	男女共同参画週間に併せ、男女共同参画社会についての意識啓発を行う。 ・男女共同参画週間の広報 ・「ふれ愛ほっとらいん」への掲載 ・新潟ユニゾンプラザでのパネル展示 ・フェスティバルの開催（講演会、ワークショップ）
169 (再) 男女平等・共同参画推進室だより「ふれ愛ほっとらいん」の発行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や（公財）新潟県女性財団の事業について周知を図るとともに、男女平等に関するデータの紹介などにより、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図ることを目的として情報紙を発行する。 （発行開始 平成8年9月）	0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や（公財）新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回／年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4～6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等を紹介する。
170 (再) ハッピー・パートナー企業（新潟県男女共同参画推進企業）の登録	男女の働き方の見直しや仕事と家庭・その他の活動の両立支援、女性の登用・育成など男女共同参画の推進に積極的な企業等を登録し、取組を支援するとともに、その事例を広く紹介する。	4,123	○ハッピー・パートナー企業（新潟県男女共同参画推進企業）の登録推進と登録制度の知名度向上に向けた取組を行う。 ・男女共同参画を進める企業の募集・登録 ・登録制度・企業の広報 ・登録企業の取組への支援（情報提供等） ・登録企業交流会議（登録企業の取組紹介や意見交換、先進事例紹介等） ・ハッピー・パートナー企業調達事業者制度の周知及び登録、利用促進

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする就業環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	市町村研修会や県政出前講座等において啓発冊子を配付し、男女平等推進に関する啓発に努めた。 また、年4回「ふれ愛ほっとらいん」を発行し、県の施策や国、市町村の関連情報、新潟県女性財団の講座情報等を周知した。	啓発冊子や「ふれ愛ほっとらいん」の発行を通じて男女平等社会の形成促進を図っていく。	政策企画課
0	〇男女共同参画週間に併せ、男女共同参画社会についての意識啓発を行った。 ・「ふれ愛ほっとらいん」への掲載 ・新潟ユニゾンプラザでのパネル展示 等 〇男女共同参画週間のキャッチフレーズの周知や広報により、男女が共に取り組むべき課題であることの認知度を高めた。	男女共同参画週間に関連した広報・啓発を継続し、男女共同参画社会の実現に向けた気運の醸成を図っていく。	政策企画課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等の紹介。 〇掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点から望ましいものとした。 〇掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優先した。	庁内の関係課や市町村の事業等の情報収集を密に行い、掲載情報の充実を図る。	政策企画課
172	〇登録促進パンフレットを配付するなど、ハッピー・パートナー企業の登録に努めた結果、登録数が1,296社となった。(イクメン応援プラス認定217社、子育て応援プラス認定463社) 〇子育てしやすい職場環境整備をさらに推進するため、2つのプラス認定を統合し、利便性を向上させるとともに、支援メニューを拡充した。 〇ホームページ、ふれ愛ほっとらいんの配布を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努めた。 〇調達事業者の利用を庁内に呼び掛けるとともに、契約実績を公表した。	・様々な手法を取り入れて登録数の増加に努めた結果、登録数の年度ごとの伸び率は上昇傾向にある。 ・今後も更に検討を加えながら、登録数の増加に努める。 ・登録企業の取組が更に進むよう、情報提供やアドバイザー派遣を積極的に行う。 ・登録企業からメリットを感じてもらえるよう、様々な機会や媒体を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努める。	政策企画課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
171 (再)	にいがた女性活躍推進事業	女性の職業生活における活躍を推進するため、企業経営者層の意識改革や女性のキャリア形成支援等の取組を行う。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、特に女性に対して負の影響を与えており、望まない孤独・孤立で不安を抱える女性が社会とのつながりを回復できるよう、きめ細かい支援を実施する。	52,959	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 女性リーダー養成講座 一時離職者等ステップアップ講座 企業担当者向けセミナー 男性育休取得キャンペーン 等 ・次世代ゼネラルマネージャー育成事業 ・未就労女性のためのオンラインスキルアップ事業 ・女性が活躍できる職場環境づくり支援事業 ・女性のためのつながりサポート事業 ピアサポート支援 アウトリーチ支援 連携会議の開催 等
172 (再)	ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。
173	中小企業労務管理改善支援事業 (H29までは「中小企業労働問題指導費」)	中小企業の労務管理の改善に向けて、労働法制度等の周知啓発を通じ、労働者福祉の向上を図る。	113	○中小企業巡回 訪問事業所数66件程度 ○実施内容 (1) 中小企業の課題及び県への要望・労働行政等への意見等の収集・情報提供 (2) 中小企業の労務管理の改善、働き方改革等に向けた助言 (3) 国・県等の各種支援制度、施策の周知 (4) 労働相談
174	多様な働き方の推進による企業の魅力アップ支援事業(H30～R2:「働き方改革取組事業支援事業」、～H29:「ワーク・ライフ・バランス推進企業応援事業」)	多様な働き方を推進し、働きやすい職場づくりを進めるとともに、就業条件や雇用管理の改善に取り組むことにより、県内企業の魅力を高めて、採用力強化につなげ、もって人材の確保・定着及び若者の県内企業への就職促進を図る。	4,093	○コーディネーター派遣 ○情報交換会・勉強会の開催 ・多様な働き方を推進し、男女ともに働きやすい職場環境づくりに向けた企業の取組を支援

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする就業環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
3,182	○県実施事業 ・働く女性のキャリア形成支援事業 - 女性リーダー養成講座 - 一時離職者等ステップアップ講座 - 企業担当者向けセミナー ・女性のためのつながりサポート事業 - ピアサポート支援 - アウトリーチ支援 - 連携会議の開催 等	・女性活躍に対する意識は徐々に浸透しつつあるが、職場、特に経営者層・管理監督層の意識は依然として低い。 ・また、業界や企業により意識や取組に温度差が見られる。 ・今後もこれらを対象とした取組を進めていくとともに、全体の底上げを目指していく。	政策企画課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
113	○中小企業巡回(訪問事業所数53件) 全訪問事業所に対し、雇用の均等や母性保護についての基礎知識等説明資料、仕事と育児・介護の両立に関する説明資料、その他、労務管理全般の解説資料や、国・県施策説明資料を配付 ○男女ともに働きやすい職場環境づくりのため、事業所に対し、必要に応じ男女雇用機会均等法や育児・介護休業制度の周知を図った。 ○「仕事と育児・介護の両立のために(リーフレット)」 「WLB(ワーク・ライフ・バランス)基本の「き」(冊子)」を企業巡回時に配布することにより、育児・介護休業制度の周知を図った。	中小企業を巡回する中で、必要に応じ関係制度の普及・定着を促進する。	しごと定住促進課
4,093	○コーディネーター派遣 10社 ○多様な働き方の推進に取り組む県内企業の事例集作成(2,000部、HP掲載) ○男女ともに働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を支援した。 ○仕事と育児、介護の両立を可能とする就業環境整備の意識の向上に寄与した。	多様な働き方の推進に取り組む県内企業を支援するとともに、今年度は情報交換会・勉強会を開催し、取組の底上げ・深化を図り、企業の取組を促進していく。	しごと定住促進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
175 就労満足度向上プロジェクト事業 (R3までは働き方改革推進プロジェクト事業)	県内の企業及び労働者の双方に対して、働きやすい職場づくりに向けた取組の実践・推進を促し、働き方改革推進の機運醸成を図るとともに、優良な取組を集約し、キャンペーンとして効果的に広報することで、新潟県の働く場としての魅力の発信を図る。	14,028	◎働き方改革推進キャンペーンの実施 ○テーマ 「男性の育児休業」 ○実施概要 ・ハッピー・パートナー企業の優良事例PR ・労働者向けチャレンジキャンペーン ○UIターン事業等と連携した県外向け情報発信を実施
(2) 仕事と子育てや介護との両立のための制度の普及・定着を促進します			
176 (再) ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の登録	男女の働き方の見直しや仕事と家庭・その他の活動の両立支援、女性の登用・育成など男女共同参画の推進に積極的な企業等を登録し、取組を支援するとともに、その事例を広く紹介する。	4,123	○ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の登録推進と登録制度の知名度向上に向けた取組を行う。 ・男女共同参画を進める企業の募集・登録 ・登録制度・企業の広報 ・登録企業の取組への支援(情報提供等) ・登録企業交流会議(登録企業の取組紹介や意見交換、先進事例紹介等) ・ハッピー・パートナー企業調達事業者制度の周知及び登録、利用促進
177 (再) 勤務医・女性医師サポート事業	勤務医・女性医師等の働きやすい職場環境の整備を支援するため、勤務環境改善等に向けた取組を行う。	1,597	医師事務作業補助者の積極的活用に向け、病院管理者向けの研修会を実施予定。
178 院内保育促進事業	看護職員等の離職防止を図るとともに、再就業を支援するため、病院内保育所の運営費及び整備費を補助する。 ○病院内保育所運営事業 ・看護職員等の離職防止を図るとともに、再就業を促進するため、院内保育施設に対し、保育士等的人件費の一部を補助する。 ・負担割合 民間:基金2/3、設置主体1/3 公的:県2/3、設置主体1/3 ○病院内保育所施設整備事業 ・看護職員等の離職防止を図るとともに、再就業を促進するため、院内保育施設整備費の一部を補助する。 ・負担割合 県0.33 設置主体0.67	52,090	院内保育所の運営について27病院に対し、保育士等の人件費の一部を補助する。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする就業環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	〇わくわくワークにいがたキャンペーンの実施(10月～11月) 〇男女共に仕事と育児の両立を可能とする就業環境整備の意識を高めることができるよう配慮した。	県内企業に対する取組促進の働きかけや、キャンペーンを通じた好事例の県内外へ向けた発信については継続する。 さらに、「選ばれる新潟」に向け、働き方改革の取組をさらに加速化させるため、労働者自身の働き方の改善を促すべく、労働者に対する働きかけを強化する。	しごと定住促進課
172	〇登録促進パンフレットを配付するなど、ハッピー・パートナー企業の登録に努めた結果、登録数が1,296社となった。(イクメン応援プラス認定217社、子育て応援プラス認定463社) 〇子育てしやすい職場環境整備をさらに推進するため、2つのプラス認定を統合し、利便性を向上させるとともに、支援メニューを拡充した。 〇ホームページ、ふれ愛ほっとらいんの配布を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努めた。 〇調達事業者の利用を庁内に呼び掛けるとともに、契約実績を公表した。	・様々な手法を取り入れて登録数の増加に努めた結果、登録数の年度ごとの伸び率は上昇傾向にある。 ・今後も更に検討を加えながら、登録数の増加に努める。 ・登録企業の取組が更に進むよう、情報提供やアドバイザー派遣を積極的に行う。 ・登録企業からメリットを感じてもらえるよう、様々な機会や媒体を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努める。	政策企画課
1,597	勤務医・女性医師等の勤務環境改善に向け、ドクターバンクショートサポート事業を実施した。	医師事務作業補助者の設置をすすめ、今後は医師事務作業補助者のレベルアップ、効率的な活用等を促す取組が重要。	医師・看護職員確保対策課
56,753	院内保育所の運営について29病院に対し、保育士等の人件費の一部を補助した。	院内保育所の整備が図られてきており、今後も、就業環境改善に向けて事業活用促進を図る。	医師・看護職員確保対策課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
179	少子化対策に係る企業等との協働の仕組み構築事業	社会全体で子育てを応援する気運の醸成を図るため、ハッピー・パートナー企業のうち仕事と子育ての両立支援に積極的な企業(パパ・ママ子育て応援プラス認定企業)に対し取組支援を行う。	9,000	○参画企業増加に向けた企業、経済団体、金融機関等への働きかけ ○参画企業が妊娠・出産や子育てに関する有給休暇制度を新たに創設し、利用実績があった場合に奨励金を支給 ○参画企業の取組紹介等の情報発信(ホームページ等) ○参画企業の従業員に対し、連携金融機関が教育ローン等の金利優遇を実施
180 (再)	ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。
181 (再)	中小企業労務管理改善支援事業 (H29までは「中小企業労働問題指導費」)	中小企業の労務管理の改善に向けて、労働法制度等の周知啓発を通じ、労働者福祉の向上を図る。	113	○中小企業巡回 訪問事業所数66件程度 ○実施内容 (1) 中小企業の課題及び県への要望・労働行政等への意見等の収集・情報提供 (2) 中小企業の労務管理の改善、働き方改革等に向けた助言 (3) 国・県等の各種支援制度、施策の周知 (4) 労働相談
182 (再)	多様な働き方の推進による企業の魅力アップ支援事業(H30～R2:「働き方改革取組事業支援事業」、～H29:「ワーク・ライフ・バランス推進企業応援事業」)	多様な働き方を推進し、働きやすい職場づくりを進めるとともに、就業条件や雇用管理の改善に取り組むことにより、県内企業の魅力を高めて、採用力強化につなげ、もって人材の確保・定着及び若者の県内企業への就職促進を図る。	4,093	○コーディネーター派遣 ○情報交換会・勉強会の開催 ・多様な働き方を推進し、男女ともに働きやすい職場環境づくりに向けた企業の取組を支援

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする就業環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
36,196	○仕事と子育ての両立支援に積極的な企業を支援することで、ワークライフバランスの実現や働く女性が子どもを生み育てやすい職場環境の整備を促進を目指した。 ○『ハッピー・パートナー企業』の上乗せ認定として、男女共同参画の推進等に積極的な企業に対して様々なメリットを付与した。 ○認定企業130社 ○新潟県子育て有給休暇制度創設奨励金57件 ○新潟県妊娠出産関連有給休暇制度創設奨励金56件 ○連携金融機関※15機関 ※連携金融機関は認定企業の従業員に対し、教育ローン等の金利優遇を実施	引き続き、企業等への働きかけを実施することで、参画企業の増加に向けた取組を推進していく。	子ども家庭課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でババになる方へ」の作成・配布18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
113	○中小企業巡回(訪問事業所数53件) 全訪問事業所に対し、雇用の均等や母性保護についての基礎知識等説明資料、仕事と育児・介護の両立に関する説明資料、その他、労務管理全般の解説資料や、国・県施策説明資料を配付 ○男女ともに働きやすい職場環境づくりのため、事業所に対し、必要に応じ男女雇用機会均等法や育児・介護休業制度の周知を図った。 ○「仕事と育児・介護の両立のために(リーフレット)」 「WLB(ワーク・ライフ・バランス)基本の「き」(冊子)」を企業巡回時に配布することにより、育児・介護休業制度の周知を図った。	中小企業を巡回する中で、必要に応じ関係制度の普及・定着を促進する。	しごと定住促進課
4,093	○コーディネーター派遣 10社 ○多様な働き方の推進に取り組む県内企業の事例集作成(2,000部、HP掲載) ○男女ともに働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を支援した。 ○仕事と育児、介護の両立を可能とする就業環境整備の意識の向上に寄与した。	多様な働き方の推進に取り組む県内企業を支援するとともに、今年度は情報交換会・勉強会を開催し、取組の底上げ・深化を図り、企業の取組を促進していく。	しごと定住促進課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
183 (再)	就労満足度向上プロジェクト事業 (R3までは働き方改革推進プロジェクト事業)	県内の企業及び労働者の双方に対して、働きやすい職場づくりに向けた取組の実践・推進を促し、働き方改革推進の機運醸成を図るとともに、優良な取組を集約し、キャンペーンとして効果的に広報することで、新潟県の働く場としての魅力の発信を図る。	14,028	◎働き方改革推進キャンペーンの実施 ○テーマ 「男性の育児休業」 ○実施概要 ・ハッピー・パートナー企業の優良事例PR ・労働者向けチャレンジキャンペーン ○UIターン事業等と連携した県外向け情報発信を実施
184	男性の育児休業取得促進助成金	男性労働者が育児休業を取得しやすい職場環境づくりに取り組む事業主及び取得労働者を支援するため助成金を支給する。	13,200	○助成金の支給(育児休業1回につき、事業主・男性労働者各5万円) ※事業主に対する支給は一の年度につき1回まで

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする就業環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	〇わくわくワークにいがたキャンペーンの実施(10月～11月) 〇男女共に仕事と育児の両立を可能とする就業環境整備の意識を高めることができるよう配慮した。	県内企業に対する取組促進の働きかけや、キャンペーンを通じた好事例の県内外へ向けた発信については継続する。 さらに、「選ばれる新潟」に向け、働き方改革の取組をさらに加速化させるため、労働者自身の働き方の改善を促すべく、労働者に対する働きかけを強化する。	しごと定住促進課
13,200	〇助成金の支給 159件 〇男女共に仕事と育児の両立を可能とする就業環境整備の意識を高めることができるよう配慮した。	男性の育児休業取得率を増やすため、働き方改革推進キャンペーンでの発信や、協定締結団体を通じた企業・労働者への周知等を実施し、助成金のさらなる活用を図る。	しごと定住促進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(3) 多様な形態の働き方を可能とする就業環境の整備を促進します			
185 (再) ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の登録	男女の働き方の見直しや仕事と家庭・その他の活動の両立支援、女性の登用・育成など男女共同参画の推進に積極的な企業等を登録し、取組を支援するとともに、その事例を広く紹介する。	4,123	○ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の登録推進と登録制度の知名度向上に向けた取組を行う。 ・男女共同参画を進める企業の募集・登録 ・登録制度・企業の広報 ・登録企業の取組への支援(情報提供等) ・登録企業交流会議(登録企業の取組紹介や意見交換、先進事例紹介等) ・ハッピー・パートナー企業調達事業者制度の周知及び登録、利用促進
186 (再) ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。
187 (再) 中小企業労務管理改善支援事業(H29までは「中小企業労働問題指導費」)	中小企業の労務管理の改善に向けて、労働法制度等の周知啓発を通じ、労働者福祉の向上を図る。	113	○中小企業巡回 訪問事業所数66件程度 ○実施内容 (1) 中小企業の課題及び県への要望・労働行政等への意見等の収集・情報提供 (2) 中小企業の労務管理の改善、働き方改革等に向けた助言 (3) 国・県等の各種支援制度、施策の周知 (4) 労働相談
188 女性・高齢者等新規就業促進プロジェクト	現在職に就いていない女性・高齢者等の新規就業を支援する	16,697	対象者の掘り起こし、企業の職場環境改善支援やマッチング等を、官民連携プラットフォームを形成し、一体的に実施する。 ・人材会社への事業委託 ・関連他事業への参画、連携調整

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする就業環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
172	○登録促進パンフレットを配付するなど、ハッピー・パートナー企業の登録に努めた結果、登録数が1,296社となった。(イクメン応援プラス認定217社、子育て応援プラス認定463社) ○子育てしやすい職場環境整備をさらに推進するため、2つのプラス認定を統合し、利便性を向上させるとともに、支援メニューを拡充した。 ○ホームページ、ふれ愛ほっとらいんの配布を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努めた。 ○調達事業者の利用を庁内に呼び掛けるとともに、契約実績を公表した。	・様々な手法を取り入れて登録数の増加に努めた結果、登録数の年度ごとの伸び率は上昇傾向にある。 ・今後も更に検討を加えながら、登録数の増加に努める。 ・登録企業の取組が更に進むよう、情報提供やアドバイザー派遣を積極的に行う。 ・登録企業からメリットを感じてもらえるよう、様々な機会や媒体を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努める。	政策企画課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
113	○中小企業巡回(訪問事業所数53件) 全訪問事業所に対し、雇用の均等や母性保護についての基礎知識等説明資料、仕事と育児・介護の両立に関する説明資料、その他、労務管理全般の解説資料や、国・県施策説明資料を配付 ○男女ともに働きやすい職場環境づくりのため、事業所に対し、必要に応じ男女雇用機会均等法や育児・介護休業制度の周知を図った。 ○「仕事と育児・介護の両立のために(リーフレット)」 「WLB(ワーク・ライフ・バランス)基本の「き」(冊子)」を企業巡回時に配布することにより、育児・介護休業制度の周知を図った。	中小企業を巡回する中で、必要に応じ関係制度の普及・定着を促進する。	しごと定住促進課
17,319	○県・国等の関連施策情報をまとめたサイトの開設 ○職についていない女性・高齢者等及び企業の募集・登録 ○仕事セミナー、企業向けセミナーの開催 ○マッチングのための合同企業説明会の開催 ○性別にかかわらず均等に情報の提供を行った。 ○イベント実施に当たって、男女ともに参加しやすいよう配慮した。	就職を希望する高齢者の就業率は、全年齢の就業率と比較し低い。対象者の掘り起こしに加え、女性・高齢者の就業を推進できるよう企業側へ支援を継続することでマッチング増を進める。	雇用能力開発課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(4) 職場におけるあらゆるハラスメントの防止に向けた取組を推進します			
189 (再) ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。
190 個別労働関係紛争解決促進事業	多様化している個別労働関係紛争に対応するため、労働相談所相談体制を整備するとともに、機能の充実強化や労働法制度等の理解を深め、解雇や労働条件の変更等のトラブルの迅速かつ適切な解決を図ることで、健全な労使関係の維持増進に資する。	7,567	○相談業務 ・月～金(休日を除く)の9:00～17:00 ・面談(要予約)・電話等による相談に対応 ○休日労働相談会 6月と2月に休日労働相談会を実施し、各種広報活動等により労働相談所の周知を図る。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標1 男性中心型労働慣行等を見直し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする就業環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
7,568	○相談業務 ・相談件数:実件数1,660件 延件数:3,170件 ○労働相談強化月間 ・6月休日労働相談会(実績:7件 延件数:14件) ・2月休日労働相談会(実績:13件 延件数:29件) ○男女ともに働きやすい職場環境づくりのため、労働相談所における相談や情報提供、県労働委員会のあっせん制度の紹介をするほか、国の相談窓口を周知した。	労働相談所相談体制を整備し、解雇や労働条件の変更等のトラブルの迅速かつ適切な解決を図る。	しごと定住促進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり 重点目標2 男性にとっての男女共同参画			
(1) 男性にとっての男女共同参画の意義についての理解を促進します			
191 (再) 男女平等社会の形成 推進事業	平成13年度に制定した「男女平等社会の 形成の推進に関する条例」について県民へ の周知・浸透を図り、男女平等をめざし、共 に参画できる社会づくりの実現を図る。	464	○「男女共同参画計画(男女平等推進プラン)推 進状況」(年次報告書)の作成・公表 ○地域における男女共同参画推進体制づくりの 支援 ○県民向けの啓発冊子等の配布 ○「第4次新潟県男女共同参画計画」(R4～R8) の周知・啓発 ○男女共同参画週間に併せたパネル展示等、男 女共同参画社会についての意識啓発
192 (再) 人権啓発費	人権尊重の理念に関する県民相互の理 解を深め、人権意識を全県的に浸透させる ことを目的とした事業を実施する。	24,298	1 人権啓発活動市町村委託 16市町村 2 媒体を利用した広報活動 テレビ放映、新聞広告、ラジオ放送、WEB広 告 3 一般啓発 行政職員研修会、人権啓発講演会、映画上 映会、人権教育指導者養成研修会、街頭啓発活 動など 4 じんけんフェスティバル 人権啓発の総合的なイベントを開催 5 企業講演会 企業を対象とした人権講演会を開催
193 (再) ワーク・ライフ・ balan ス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意 識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を 行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バ ランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図 る。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標2 男性にとっての男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
191	○第4次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)の策定・公表を行った。 ○「第3次新潟県男女共同参画計画(男女平等推進プラン)進捗状況(年次報告書)」を作成し、公表した。 ○男女共同参画社会について広く県民から理解してもらうため、啓発冊子の配付やパネル・横断幕等の展示を行った。	・累次の「新潟県男女共同参画計画」に基づき、県の男女平等社会の形成に係る現状や課題を適切に捉え、今後の取組推進へとつながるような年次報告書の作成を行う。 ・啓発冊子配布、啓発パネルやフォトコンテスト作品展示等を通して、引き続き、男女共同参画の実現について県民から広く理解してもらえるよう努める。	政策企画課
24,310	○人権啓発活動市町村委託 17市町村 ○媒体を利用した広報活動 人権週間(12月4日～10日)に合わせテレビCM、WEB広告を展開、アルビレックスと連携した啓発動画を制作・配信 ○一般啓発 行政職員研修会1回、人権啓発講演会2回、街頭啓発活動(横断幕の掲示)など ○じんけんフェスティバル (新型コロナウイルス感染症の影響で中止) ○企業講演会 企業を対象とした人権講演会1回 ○「多様性を認め合う社会(性別や年齢等の固定観念にとらわれない社会)の実現」というテーマで、アルビレックスと連携した啓発動画制作・配信した。 ○「LGBTの理解促進とハラスメント対策」というテーマで企業向け講演会を開催した。	法務局・新潟市・新潟県人権擁護員連合会と県で構成する新潟県人権啓発活動ネットワーク協議会を中心としながら、講演会の開催や、スポーツ団体と連携した啓発試合の実施、戦略性を持った情報発信など、様々な手法を用いながら、一層の啓発に取り組む。 単発の情報発信ではなく、人権課題やターゲットにあわせ、新聞・テレビ・ラジオ・WEB広告など、様々な媒体を組み合わせながら効果的な情報発信を行う。	福祉保健総務課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
194 (再)	就労満足度向上プロジェクト事業 (R3までは働き方改革推進プロジェクト事業)	県内の企業及び労働者の双方に対して、働きやすい職場づくりに向けた取組の実践・推進を促し、働き方改革推進の機運醸成を図るとともに、優良な取組を集約し、キャンペーンとして効果的に広報することで、新潟県の働く場としての魅力の発信を図る。	14,028	◎働き方改革推進キャンペーンの実施 ○テーマ 「男性の育児休業」 ○実施概要 ・ハッピー・パートナー企業の優良事例PR ・労働者向けチャレンジキャンペーン ○UIターン事業等と連携した県外向け情報発信を実施

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標2 男性にとっての男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	○わくわくワークにいがたキャンペーンの実施(10月～11月) ○男女共に仕事と育児の両立を可能とする就業環境整備の意識を高めることができるよう配慮した。	県内企業に対する取組促進の働きかけや、キャンペーンを通じた好事例の県内外へ向けた発信については継続する。 さらに、「選ばれる新潟」に向け、働き方改革の取組をさらに加速化させるため、労働者自身の働き方の改善を促すべく、労働者に対する働きかけを強化する。	しごと定住促進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 男性の家事・育児・介護等への参画を促進します			
195 (再) ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の登録	男女の働き方の見直しや仕事と家庭・その他の活動の両立支援、女性の登用・育成など男女共同参画の推進に積極的な企業等を登録し、取組を支援するとともに、その事例を広く紹介する。	4,123	○ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)の登録推進と登録制度の知名度向上に向けた取組を行う。 ・男女共同参画を進める企業の募集・登録 ・登録制度・企業の広報 ・登録企業の取組への支援(情報提供等) ・登録企業交流会議(登録企業の取組紹介や意見交換、先進事例紹介等) ・ハッピー・パートナー企業調達事業者制度の周知及び登録、利用促進
196 (再) ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。
197 (再) 就労満足度向上プロジェクト事業 (R3までは働き方改革推進プロジェクト事業)	県内の企業及び労働者の双方に対して、働きやすい職場づくりに向けた取組の実践・推進を促し、働き方改革推進の機運醸成を図るとともに、優良な取組を集約し、キャンペーンとして効果的に広報することで、新潟県の働く場としての魅力の発信を図る。	14,028	◎働き方改革推進キャンペーンの実施 ○テーマ 「男性の育児休業」 ○実施概要 ・ハッピー・パートナー企業の優良事例PR ・労働者向けチャレンジキャンペーン ○UIターン事業等と連携した県外向け情報発信を実施
198 (再) 家庭教育支援ガイドブックの活用	親子の会話など家庭で大切にしてほしい15のテーマについて、保護者向けの情報を掲載した「家庭教育支援ガイドブック」の活用と普及啓発を図る。	252	○「家庭教育支援ガイドブック活用リーフレット」を小学校入学予定児童の保護者に配布するとともに、幼稚園・保育所等にも配布する。 ○広報紙で「家庭教育支援ガイドブック」の周知を行う。 ○会議、研修会で「家庭教育支援ガイドブック」や「家庭教育支援ガイドブック活用リーフレット」を配布する。 ○時代や環境の変化に合わせてガイドブックを改訂する。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標2 男性にとっての男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
172	○登録促進パンフレットを配付するなど、ハッピー・パートナー企業の登録に努めた結果、登録数が1,296社となった。(イクメン応援プラス認定217社、子育て応援プラス認定463社) ○子育てしやすい職場環境整備をさらに推進するため、2つのプラス認定を統合し、利便性を向上させるとともに、支援メニューを拡充した。 ○ホームページ、ふれ愛ほっとらいんの配布を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努めた。 ○調達事業者の利用を庁内に呼び掛けるとともに、契約実績を公表した。	・様々な手法を取り入れて登録数の増加に努めた結果、登録数の年度ごとの伸び率は上昇傾向にある。 ・今後も更に検討を加えながら、登録数の増加に努める。 ・登録企業の取組が更に進むよう、情報提供やアドバイザー派遣を積極的に行う。 ・登録企業からメリットを感じてもらえるよう、様々な機会や媒体を通じてハッピー・パートナー企業の広報に努める。	政策企画課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟でパパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入れた。	引き続き、国及び関係機関と連携を図り、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進及びワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	しごと定住促進課
0	○わくわくワークにいがたキャンペーンの実施(10月～11月) ○男女共に仕事と育児の両立を可能とする就業環境整備の意識を高めることができるよう配慮した。	県内企業に対する取組促進の働きかけや、キャンペーンを通じた好事例の県内外へ向けた発信については継続する。 さらに、「選ばれる新潟」に向け、働き方改革の取組をさらに加速化させるため、労働者自身の働き方の改善を促すべく、労働者に対する働きかけを強化する。	しごと定住促進課
217	○「家庭教育支援ガイドブック」の周知・利用促進を図るための「家庭教育支援ガイドブック活用リーフレット」を、小学校の新1年生の全保護者及び幼稚園・保育所等に配布 ○広報紙で「家庭教育支援ガイドブック」及び「活用リーフレット」について周知 ○会議、研修会で「家庭教育支援ガイドブック」や「活用リーフレット」を配布	家庭教育に関心の薄い保護者や家庭教育に関する情報が届きにくい保護者も含め、広く保護者に家庭教育の啓発が図れるよう、引き続き小学校の新1年生の保護者へ啓発リーフレットを配布するとともに、幼稚園・保育所にも配布する。	生涯学習推進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(3) 男性が抱える困難への対応を充実します			
199 (再) 男女平等推進相談員 配置事業	性別による差別的取扱いその他の男女 平等社会の形成を阻害する行為に関する 県民・事業者からの相談の申し出に応じる ため、男女平等推進相談員を配置する。	5,655	<相談実施場所> 男女平等推進相談室 (新潟ユニゾンプラザ3階) <相談体制等> ・専任の相談員による総合相談 電話、面接による相談の受付 相談受付時間 月～金曜日 11:00～12:30、13:40～17:30 土曜日 10:00～12:30、13:40～16:30 日曜日、祝日、年末年始は休み ・公益財団法人女性財団に委託
200 新潟県地域自殺対策 緊急強化事業	県民の誰もが自殺に追い込まれることの ない社会の実現を目指し、県民一人一人 が、地域が、職場が、県全体が一丸となり、 県民運動として自殺予防に取り組む。 ・県民全体へ、メディアミックスキャンペーン などにより「気づき・見守り・つながり」の意識 を醸成。 ・自殺死亡率の高い世代への多角的な取 組を実施。 ・地域等で悩みを抱えている者を周囲の気 づきにより、早期に相談につなげるととも に、様々な分野の専門家に着実につながり問 題解決にあたる。ハイリスク者については、 いのちとこころの支援センターによる支援を 実施。	158,774	○新潟県自殺予防対策推進県民会議 ○こころの相談ダイヤル(毎日24時間) ○新型コロナウイルス感染症に関するこころの相 談電話の設置 ○自殺予防普及啓発 ・テレビ、ラジオCM及びその他広報媒体を活用 したキャンペーン ○地域での支え合いの輪構築事業 ・民間事業、市町村事業を対象とした補助事業 の実施 ・市町村自殺対策計画進行管理支援 ○リスクを抱えた人への支援強化 ・若年者(大学等と連携したメンタルヘルス事 業) ・働き盛り(求職者や多重債務者向け相談会や 事業所向け研修会、職場のこころの見守り推進 員養成) ・高齢者(看護職対象自殺予防研修、介護サー ビス事業者等研修会)) ○ハイリスク者への支援強化 ・いのちとこころの支援センター事業(県内3ヶ 所) ・ハイリスク者相談支援等

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標2 男性にとっての男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
5,237	○新潟ユニゾンプラザにおいて、男女の別を問わず、性別による差別的取扱等に関する相談対応を実施した。 ＜相談実施場所＞ 男女平等推進相談室 (新潟ユニゾンプラザ3階) ＜相談体制等＞ ・専任の相談員による総合相談 電話、面接による相談の受付 月～金曜日 11:00～18:00 土曜日 10:00～17:00 日曜日、祝日、年末年始は休み ＜相談実績＞ 1,875件 ○相談室の周知用リーフレットを更新し、市町村や関係機関等へ配布した。	相談室の周知・活用により、性別による差別的な取扱いを受けた方のこころの安定を図る。	政策企画課
151,747	○新潟県自殺予防対策推進県民会議の開催 ○こころの相談ダイヤル(毎日24時間) ○自殺予防普及啓発 ・テレビ、ラジオCM及び新聞広告によるキャンペーン ○働き盛り世代の相談しやすい体制構築事業 ○地域での支え合いの輪構築事業 ・民間事業、市町村事業を対象とした補助事業の実施(23団体、25市町村) ・市町村自殺対策計画進行管理支援 ○リスクを抱えた人への支援強化 ・若年者(大学等と連携したメンタルヘルス事業) ・働き盛り(求職者や多重債務者向け相談会や事業所向け研修会) ・高齢者(看護職対象自殺予防研修、介護サービス事業者等研修会)) ・生活困窮者に対する専門相談事業 ○ハイリスク者への支援強化 ・いのちとこころの支援センター事業(県内3ヶ所) ・ハイリスク者相談支援等 ○資料作成等にあたり、男女別の統計を作成し、性差にもコメントする等、男女それぞれの状況が把握しやすいよう努めた。効果的なターゲット層を見極めた普及啓発の実施。	・令和2年の人口動態統計では、自殺者数及び自殺死亡率は増加。男性は20歳代以上で全国を上回っており、女性は50歳代は全国より低いその他の年代で全国を上回っている。 ・自殺死亡率は依然として全国より高い値で推移していることから、「新潟県自殺対策計画」に基づき、官民一体となった県民運動としての自殺予防対策のさらなる強化が必要。 ・自殺の多い世代や自殺ハイリスク者に関する課題への対応(働き盛り世代や高齢者への対策、自殺未遂者支援、若年者対策)を図る。 ・生きづらさを抱えた方が社会で孤立しないための支援に取り組む。 ・新型コロナウイルス感染症の長期化による経済活動の停滞等の影響により、状況が深刻化したと考えられるターゲット層への普及啓発及び相談体制の強化を図る。	障害福祉課

事業・取組名		事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり				
重点目標 3 子育て環境の充実				
(1) 多様なニーズに対応した保育サービスや放課後児童対策の充実を促進します				
201	私立幼稚園教育改革推進特別経費補助金(預かり保育)	預かり保育を実施する私立幼稚園等に対して補助する。	150,393	○補助事業計画 ・預かり保育(平日分) 71園 ・長期休業日の預かり保育 75園 ・休業日の預かり保育 25園
202	新潟県特別保育事業	少子化対策の一環として、働く女性の仕事と子育ての両立支援の観点から、私営保育所における特別保育対策の拡充を図る(県単独補助事業)。 1 概要 ア 未満児保育事業 乳児、1歳児合わせて3人以上入所している私営保育所を対象とし、加配職員の人件費を補助する。 イ 障害児保育事業 軽度の障害児を受け入れている私営保育所を対象とし、加配職員の人件費等を補助する。 2 実施主体 市町村	761,034	○特別保育事業の実施に必要な経費に対する補助 ○未満児保育事業 21市町 253か所 ○障害児等保育事業 16市 128か所 ○市町村担当者を集めた説明会等、機会を捉えて事業の内容等を周知していく。
203	延長保育事業	子ども・子育て支援法第59条に基づき、市町村が実施する延長保育事業に要する経費に充てるための交付金を交付する。 1 概要 延長保育事業 2 実施主体 市町村 3 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	132,763	○延長保育事業の実施に必要な経費に対する補助。 ○延長保育事業 21市町592か所
204	保育環境改善等事業	駅前等の利便性の高い場所にある既存の建物を活用した保育所・保育所分園の設置や障害児を受け入れるための改修等により、保育所等の設置促進及び保育環境の改善を図り、子どもを安心して育てる体制整備を行う。 1 概要 ①障害児等受入促進事業 ②分園推進事業 2 実施主体 市町村 3 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	8,858	○既存の保育所等において、障害児を受け入れるために必要な改修費等を補助する。 ○障害児受入促進事業 4市26か所
205	ファミリーサポート・アドバイザー研修事業	ファミリー・サポート・センターの機能強化のため、センターで従事するアドバイザーやサプリーダーを対象に研修を実施	0	実施予定なし(隔年実施としているため)

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
175,156	○預かり保育(平日分) 72園 ○長期休業日預かり保育 76園 ○休業日の預かり保育 29園 ○フルタイムで就業していなくても、子供を預けることが可能であり、幼稚園等を利用する保護者に定着している。 ○長時間、長期休業日、休業日の預かり保育について補助を実施し、保護者が幅広く子育て支援を受けられるよう配慮した。	幼稚園等における預かり保育は定着しているため、今後も私立幼稚園等の預かり保育事業に対する支援を継続する。	大学・私学振興課
801,370	○未満児保育事業 21市町 216か所 ○障害児保育事業 15市 81か所 ○本事業の実施により、保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じた。	未満児保育、障害児保育は、職員の加配等経費を要するため、特に私営での推進には必要な事業であり、継続していく。	子ども家庭課
122,820	○20市町で実施 ○本事業の実施により、保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じた。	延長保育事業の円滑な実施に必要な体制づくりを図っていく。	子ども家庭課
6,441	○既存の保育所等において、障害児を受け入れるために必要な改修費等を補助する。 ○障害児受入促進事業 4市21か所	本事業の実施により、保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じることができた。 今後とも取組を継続していく。	子ども家庭課
38	○ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ中止	研修会を実施することで各ファミリー・サポート・センターの機能強化につながった。 今後も取組を継続することで更なるセンターの機能強化、男女ともに働ける環境整備を図っていく。	子ども家庭課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
206	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	保護者が就労等により昼間家庭にいない児童の健全育成及び生活の場として必要な活動、援助を行う。 小学校に就学している児童を児童館等の地域の社会資源の場で預かり、活動援助を行う。 長時間開設加算、障害児受入推進費等がある。 事業主体 市町村(委託等を含む) 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	1,278,623	○放課後児童クラブの運営に必要な経費に係る補助を実施する。 ○放課後児童健全育成事業 29市町村 746か所
207	新潟県社会福祉審議会子ども・子育て支援部会	子ども・子育て支援計画の検証や幼保連携型認定こども園等の設置認可等について審議する。	284	○会議の開催 2回を予定 ・委員11人
208	病児・病後児保育事業	病児保育事業の実施に要する費用を補助し、病児保育事業を推進することにより、児童福祉の向上を図る。 1 病児保育事業 子どもが病気の際、保護者が就労等により保育が困難な場合に、病院・保育所等において保育を行う事業等に対し補助を行う。 2 子ども・子育て支援整備交付金(施設整備補助) 病児・病後児保育事業を実施する際に必要となる施設設備及び改修等費用の一部を補助する。	201,043	○病児保育事業 負担割合 国1/3、県1/3、市町村1/3 ○子ども・子育て支援整備交付金(施設整備補助) 負担割合 国1/3、県1/3、市町村1/3 又は 国3/10、県3/10、市町村3/10、設置者1/10
209	放課後児童支援員認定資格研修	放課後児童支援員として必要な知識及び技能を補完し、基準及び放課後児童クラブ運営指針に基づく放課後児童支援員としての役割及び育成支援の内容等の共通の理解を得るため、職務を遂行する上で必要最低限の知識及び技能の習得とそれを実践する際の基本的な考え方や心得を認識する。	2,710	○実施予定回数 3回 ○実施会場 新潟会場、長岡会場、上越会場 ○定員 各会場70名程度
210	一時預かり事業	保育所等を利用していない家庭においても、日常生活上の突発的な事業や社会参加などにより、一時的に家庭での保育が困難となる場合等があり、こうした需要に対応するため、保育所・幼稚園・認定こども園その他の場所において児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図る。 事業主体 市町村 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	261,070	一時預かり事業の運営に必要な経費に係る補助を実施。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
1,182,402	○国庫補助対象市町村数 28市町村 ○国庫補助対象放課後児童クラブ支援単位数 729か所 ○放課後児童の安全安心な居場所を提供することを通して、ワーク・ライフ・バランスの推進に寄与した。	放課後児童クラブの円滑な実施に必要な体制づくりを図っていく。	子ども家庭課
284	○開催回数 1回(令和4年3月4日) ○会議委員 男性7人、女性4人 ○部会長(男性)、部会長代理(女性) ○男性、女性各々の視点から子育て支援に関する意見が得られ、充実した議論が展開された。	子ども・子育て支援計画推進状況や幼保連携型認定こども園等の設置認可等について審議する。	子ども家庭課
199,867	○病児保育事業 64か所 ○子ども・子育て支援整備交付金(施設整備補助) 2か所 ○市町村の病児・病後児保育事業に補助を行い、保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じる体制整備が図られた。	・病児保育事業の実施に要する費用を補助し、病児保育事業を推進することで、多様な保育ニーズに対応するための基盤整備につながった。 ・今後も取組を継続することでさらなる病児保育の拡充、男女ともに働ける環境整備を図っていく。	子ども家庭課
2,689	○実施回数 3回 ○実施会場 オンライン開催 ○研修終了者 205名 ○保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じられるよう、放課後児童クラブの活性化のために必要な人材育成の取組を進めた。 ○保護者の就労やライフスタイルの多様化に伴う保育需要への対応に寄与した。	・研修会を開催することで、放課後児童支援員として必要な知識及び技能が習得され、放課後児童クラブの機能強化につながった。 ・今後も取組を継続することで、さらなる機能強化、男女ともに働ける環境整備を図っていく。	子ども家庭課
266,565	○国庫補助対象市町村数 26市町村 ○国庫補助対象事業所数 309か所 ○市町村の一時預かり事業に補助を行い、保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じる体制整備が図られた。	一時預かり事業の円滑な実施に必要な体制づくりを図っていく。	子ども家庭課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
211	放課後・土曜日の良 好な教育環境づくり 事業	子どもたちにとってより豊かで有意義な放 課後・土曜日の過ごし方ができるように、市 町村における地域の人材や企業等を活用 した放課後学習及び「土曜学習」の体制づく りを支援する。	24,036	○放課後・土曜学習事業実施に係る補助 ・土曜学習 ・地域未来塾 ・放課後子供教室

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
24,622	○放課後・土曜学習事業実施に係る補助を行った。 ○男女問わず地域住民等が参画・協力できる体制となるよう支援した。	市町村の体制づくりを進めるための支援を継続する。	生涯学習推進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 地域における子育て支援を充実します			
212 私立幼稚園子育て支援推進事業	子育て支援事業を実施する私立幼稚園等に対して補助する。	22,900	○補助事業計画(子育て相談) ・未就園児親子登園 ・子育て講演会 ・子育てサークルの支援 ・子育て情報の提供 ・園舎・園地の開放 等
213 小児救急医療体制整備事業	○小児救急医療電話相談事業 夜間の小児患者の保護者等の不安を解消するため、看護師(必要に応じて看護師に小児科医がアドバイス)による電話相談を実施する。 ○小児救急診療医師研修事業 小児科以外の医師に対して小児患者への対応力強化のための研修を実施する。 ○小児救急医療支援事業 地域の小児科を標榜する病院が輪番制により、小児救急医療に係る休日夜間の体制を整えるため、運営費の一部を市町村を通して助成する。	23,004	○小児救急医療電話相談事業 夜間の小児患者の保護者等の不安を解消するため、看護師(必要に応じて看護師に小児科医がアドバイス)による電話相談を実施する。 ○小児救急診療医師研修事業 小児科以外の医師に対して小児患者への対応力強化のための研修を実施する。 ○小児救急医療支援事業 地域の小児科を標榜する病院が輪番制により、小児救急医療に係る休日夜間の体制を整えるため、運営費の一部を市町村を通して助成する。
214 産婦人科医の確保	産婦人科医の確保に努める。	38,374	産科医等の処遇改善に取り組む医療機関に対して、経費の一部を補助する。
215 乳児・子どもの医療費助成	子どもの疾病の早期発見と早期医療を促進するとともに、安心して子どもを産み育てることが出来る環境を構築するため、市町村の実施する子ども医療費助成への充当の他、市町村が独自に実施する子育て支援事業にも充当できる「子ども医療費助成等交付金」を市町村に交付する。 ※政令市は対象外	1,227,850	「子ども医療費助成等交付金」を市町村に交付する。
216 乳幼児虐待予防対策事業	虐待やそのおそれのある保護者の早期発見と、子育て支援に向けた関わりについて、健診従事者や産科、小児科医療機関関係者等母子保健医療関係者が共通認識を持ち、積極的に対応することができるよう研修を実施し、虐待予防対策の充実を図る。	437	乳幼児虐待予防研修等の実施(県内11保健所)

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
24,600	○44の私立幼稚園等に対して補助 (市町村別園数) 新潟市 18、長岡市 4、上越市 2、三条市 1、柏崎 市 4、新発田市 4、小千谷市 3、加茂市 1、見附 市 3、村上市 1、五泉市 1、阿賀野市 1、糸魚川市 1 ○子育て相談等、複数の事業を実施する幼稚園等を 補助対象とし、保護者が幅広く子育て支援を受けられ るよう配慮し、子育て支援の充実に寄与した。 ○在園児だけでなく、在園児以外の保護者にも相談 事業等を利用いただき、孤立しがちな保護者の支援 につながった。	幼稚園等における未就園児親子 登園等の子育て支援事業は定着し ているため、今後も私立幼稚園等 の子育て支援事業に対する支援を 継続する。	大学・私学振興課
26,217	○小児救急医療電話相談事業 夜間の小児患者の保護者等の不安を解消するた め、看護師(必要に応じて看護師に小児科医がアドバ イス)による電話相談を実施した。 ○小児救急診療医師研修事業 小児科以外の医師に対して小児患者への対応力強 化のための研修を実施した。 ○小児救急医療支援事業 地域の小児科を標榜する病院が輪番制により、小 児救急医療に係る休日夜間の体制を整えるため、運 営費の一部を市町村を通して助成した。	引き続き、小児救急医療体制の 整備を進めていく。	地域医療政策課
40,691	産科医等の処遇改善に取り組む32の医療機関に対 して、経費の一部を補助した。	引き続き産科医等の処遇改善に 取り組む医療機関を支援することに より、産科医の確保及び育成を図る 必要がある。	医師・看護職員確保 対策課
1,339,042	○「子ども医療費助成等交付金」を市町村に交付す ることにより、市町村が実施する子ども医療費助成事業 等の取組を支援することができ、安心して子どもを産 み育てることが出来る環境の構築に資することができ た。 ○子ども医療費助成事業について、3市が新たに制 度拡充を行った。	・市町村における子ども医療費助成 事業の実態調査や市町村との率直 かつ十分な意見交換を行いなが ら、必要かつ適切な助成のあり方を 検討した。 ・検討結果を踏まえ、30年度から交 付金の規模を小学校3年生から小 学校6年生相当に拡充した。	健康づくり支援課
434	○乳幼児虐待予防研修会(県内3保健所で開催) ○乳幼児虐待予防に関する連絡会等(県内6保健 所) 県内保健所の主催により、地域の現状や課題に 沿って、地域の関係者(医師、保健師、保育士、幼稚 園教諭、助産師、市町村職員等)を対象とした事例検 討会、講演会などを実施。	保健所での取り組みについては、 広域的な視点で地域の実情に応じ た内容で行うこととし、支援者の資 質向上を図っていく。	健康づくり支援課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
217 (再)	子ども・女性電話相談事業	家庭及び地域における児童の養育機能の低下に伴い、児童虐待等の問題が多発している。 また、夫から妻や子どもへの暴力等の家庭内の見えにくい問題への対応が急務になっている。 これらの問題解決や支援の一環として、児童相談所と女性福祉相談所を併せ持つ、県中央福祉相談センターに電話相談を設け、全県からの電話相談に応じる。 電話によるカウンセリングのほか、直接の支援が必要な事例については、各地域の児童相談所につなぐ等の総合的な援助体制を図る。	0	令和4年3月で事業終了
218	虐待対応協力員設置事業	児童相談所に児童虐待に関する調査や支援を行う児童虐待対応協力員、及び児童の安全確認の補助等を行う虐待対応補助嘱託員を配置し、児童虐待への対応強化を図る。	7,313	○児童虐待対応協力員3名を県内3児童相談所に配置 (中央、長岡、上越 各児相1名ずつ) ○児童虐待の安全確認及び調査において児童福祉司の補助的業務を行う。 ○相談業務全般における補助的業務を行う。
219	児童虐待防止ネットワーク事業	深刻化する児童虐待に対して、関係機関のネットワークをつくり、また関係者への研修を実施することにより、早期発見と迅速かつ適切な対応を図る。 *負担割合 国1/2 県1/2	284	○深刻化する児童虐待に対して、関係機関の連携を図るとともに、早期発見や適切な介入のための仕組みを作り、虐待をしている保護者への指導のあり方についての検討を行う。 ○県要保護児童対策地域協議会を開催するとともに、市町村要保護児童対策地域協議会の設置・運営を支援する。 ○支援検討専門会議の設置 児童相談所の虐待等の処遇困難事例に対して、医師、弁護士等の助言を得て検討を行う。
220	児童虐待防止推進事業	深刻化する児童虐待に対して、関係機関のネットワークを作り、また、関係者及び県民への意識啓発・広報を幅広く実施することにより、適切迅速な対応が可能となるよう県内児童虐待に対する体制整備を目的とする。	324	地域における児童虐待の予防に向けた取組を推進するため、市町村等の意見も踏まえ、全県で広く活用可能な虐待防止啓発物を作成・配布する。
221 (再)	延長保育事業	子ども・子育て支援法第59条に基づき、市町村が実施する延長保育事業に要する経費に充てるための交付金を交付する。 1 概要 延長保育事業 2 実施主体 市町村 3 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	132,763	○延長保育事業の実施に必要な経費に対する補助。 ○延長保育事業 21市町592か所
222 (再)	保育環境改善等事業	駅前等の利便性の高い場所にある既存の建物を活用した保育所・保育所分園の設置や障害児を受け入れるための改修等により、保育所等の設置促進及び保育環境の改善を図り、子どもを安心して育てる体制整備を行う。 1 概要 ①障害児等受入促進事業 ②分園推進事業 2 実施主体 市町村 3 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	8,858	○既存の保育所等において、障害児を受け入れるために必要な改修費等を補助する。 ○障害児受入促進事業 4市26か所

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
7,209	○子ども・女性電話相談(相談件数3,094件) ○DV・児童虐待相談フリーダイヤル(相談件数195件) (数値は速報値) ○匿名性の高い電話相談窓口を設置することで、誰でも相談しやすい体制を整備した。 ○毎日9時から22時まで(土日を含む)の実施により、相談しやすい時間を設定して実施した。 ○夜間や休日の相談にも対応しており、相談者にとって利用しやすい相談窓口とした。	相談窓口を周知し、さらに相談しやすい体制を強化する。	子ども家庭課
14,729	○児童虐待対応協力員6名を県内5児童相談所に配置 ・中央児相 2名 ・新発田児相 1名 ・長岡児相 1名 ・南魚沼児相 1名 ・上越児相 1名 ○多様な相談によりきめ細かく対応できるように配慮した。 ○関係機関に幅広く周知を行ったことにより、多くの県民から認知されるようになった。	児童福祉司等の専門職の増員に伴い配置人数は縮小するが、引き続き児童相談所体制強化のために配置の確保を図る。	子ども家庭課
284	○県要保護児童対策地域協議会の開催(1回) ○市町村要保護児童対策地域協議会の支援 ・地区別会議の開催 ○支援検討専門会議の開催 ○関係機関に幅広く周知を行ったことにより、多くの県民から認知されるようになった。	引き続き、市町村要保護児童対策地域協議会の機能強化支援を図ると共に、各種研修会・会議等の、より効果的な実施に努める。	子ども家庭課
324	○啓発用Web広告実施及び啓発物配布 ○啓発物の作成にあたり、表現やイラストが男女平等の視点から望ましく、かつ男女とも親しみやすいものとなるよう配慮した。	引き続き、児童虐待の防止につながる啓発活動を実施する。	子ども家庭課
122,820	○20市町で実施 ○本事業の実施により、保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じた。	延長保育事業の円滑な実施に必要な体制づくりを図っていく。	子ども家庭課
6,441	○既存の保育所等において、障害児を受け入れるために必要な改修費等を補助する。 ○障害児受入促進事業 4市21か所	本事業の実施により、保護者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じることができた。 今後とも取組を継続していく。	子ども家庭課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
223 (再)	ファミリーサポート・アドバイザー・サブリダー研修事業	ファミリー・サポート・センターの機能強化のため、センターで従事するアドバイザーやサブリダーを対象に研修を実施	0	実施予定なし(隔年実施としているため)
224	利用者支援事業	一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、子ども及びその保護者等、または妊娠している方がその選択に基づき、教育・保育・保健その他の子育て支援を円滑に利用できるよう、必要な支援を行う。 実施主体 市町村(委託を含む) 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	14,257	○利用者支援事業 7市町21か所 ○利用者支援に必要な経費に係る補助を実施。
225	地域子育て支援拠点事業	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を促進することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援する。	559,438	○地域子育て支援拠点事業 27市町村231か所 ○地域子育て支援拠点の運営に必要な経費に係る補助を実施。
226	ファミリー・サポート・センター事業	乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けたい者と、当該援助を行いたい者との相互援助活動に関する連絡、調整を行うことにより、地域における育児の相互援助活動を推進するとともに、病児・病後児の預かり、早朝・夜間等の緊急時の預かりや、一人親家庭等の支援など多様なニーズへの対応を図る。 実施主体 市町村(委託を含む) 負担割合 国1/3 県1/3 市町村1/3	21,337	ファミリー・サポート・センター事業を実施するために必要な経費に係る補助を実施。
227	子育て支援員研修	子育て支援員として保育や子育て支援分野の各事業等に従事する上で必要な知識や技術等を習得させるために実施するもの。 実施主体 県又は市町村	1,162	○研修コース 基本研修 専門研修(地域型保育、一時預かり) ○定員 地域型保育 75名 一時預かり 20名
228	交通安全施設等整備事業・緊急地方道路整備事業	子育てしやすい環境づくりを推進するため、安全に通行できる歩道の整備やバリアフリー化を図る。	821,923	○事業実施に当たり、地域住民等のニーズを十分に把握し、安全で快適な歩行空間の確保に努める。 ・歩道の整備・交差点改良
229	緊急地方道路整備事業	道路の改築を行い、高齢者や乳幼児を連れて外出する保護者等が快適かつ安全な移動を確保するための道路(歩道も含む)を整備する。	6,713,401	バイパス整備、道路拡幅、交差点改良、歩道の設置を行う。
230	緊急地方道路整備事業(街路)	都市計画道路の改良を行い、高齢者や乳幼児を連れて外出する保護者等が快適かつ安全な移動を確保するための道路(歩道も含む)を整備する。	1,816,962	バイパス整備、道路拡幅、歩道の設置を行う。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
38	○新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ 中止	研修会を実施することで各ファミ リー・サポート・センターの機能強化 につながった。 今後も取組を継続することで更なる センターの機能強化、男女ともに	子ども家庭課
20,348	○国庫補助対象市町村数 6市町 ○国庫補助対象施設数 17か所 ○市町村の利用者支援事業に補助を行い、保護者 の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育需 要に応じる体制整備が図られた。 ○本事業(利用者支援事業)の実施により、保護者の 就労やライフスタイルの多様化に伴う保育需要に応じ た。	利用者支援事業の円滑な実施に 必要な体制づくりを図っていく。	子ども家庭課
522,775	○国庫補助対象市町村数 27市町村 ○国庫補助対象拠点数 232か所 ○市町村の地域子育て支援拠点に補助を行い、保護 者の就労形態やライフスタイルの多様化に伴う保育 需要に応じる体制整備が図られた。 ○本事業(地域子育て支援拠点事業)の実施により、 保護者の就労やライフスタイルの多様化に伴う保育 需要に応じた。	地域子育て支援拠点の円滑な実 施に必要な体制づくりを図っていく。	子ども家庭課
18,145	○国庫補助対象市町村数 16市町 ○市町村のファミリー・サポート・センター事業に補助 を行い、保護者の就労形態やライフスタイルの多様 化に伴う保育需要に応じる体制整備が図られた。	・市町村のファミリー・サポート・セン ター事業に補助を行い、保護者の 就労形態やライフスタイルの多様 化に伴う保育需要に応じる体制整 備が図られた。 ・今後とも取組を継続していく。	子ども家庭課
1,153	○基本研修 1回 ○専門研修 共通科目 1回 選択科目 1回 修了者 計93名 ○本事業の実施により、保護者の就労やライフスタイル の多様化に伴う保育需要に対応する環境整備に寄 与した。	・研修会を開催することで、子育て 支援員として必要な知識及び技能 が習得され、子育て分野の各事業 所の機能強化につながった。 ・今後も取組を継続することで、さら なる機能強化、男女ともに働ける環 境整備を図っていく。	子ども家庭課
1,003,844	○歩道の整備・交差点改良 ・24か所 ○地域住民のニーズにあった安全で快適に通行でき る歩行空間の整備を進めた。	次年度以降も引き続き、高齢者 等の移動の安全確保を図る必要が ある箇所について、歩道の整備や バリアフリー化を実施する。	道路管理課
7,429,253	○高齢者や乳幼児を連れて外出する保護者等が快 適かつ安全な移動を確保するための道路(歩道含 む)改築を実施した。 ○地域住民のニーズにあった安全で快適に通行でき る歩行空間の整備を進めた。	継続して、高齢者・乳幼児を連れ て外出する保護者等が快適かつ安 全な移動ができるような道路改築 の推進を図る。	道路建設課
2,004,575	○10か所の都市計画道路の改良とともに、歩道の整 備を実施した。 ○地域住民のニーズにあった安全で快適に通行でき る歩行空間の整備を進めることができた。	次年度以降も引き続き、道路改 良とともに歩道の整備をすすめ、高 齢者等の安全確保を図る。	都市整備課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
231	公営住宅整備・改善	高齢者を含むすべての人が安心して快適な暮らしを営むことができる生活空間を、公営住宅の観点から整備・提供する。 【すべての公営住宅におけるバリアフリー化】 ・エレベータの設置 ・手すりの設置 ・段差の解消 ・レバーハンドル等の採用 等	236,397	○EV設置、手すり設置を含む住戸改善工事1棟 予定(次年度継続) ○住戸内手すり設置予定1棟
232	安全で快適な住まいづくり	地域住宅計画を県及び29市町村で共同作成。計画の目標として「誰もが心豊かに生き活きと暮らせる、使いやすく質の高い安全・安心な住まいづくりを推進する。」と掲げている。 計画に基づく住宅施策を市町村が実施する際に、高齢者や障がい者及び性別を問わず、あらゆる人が快適な住環境で暮らせることなど目標に向けた施策であるかをチェックし、助言や指導を行う。 【計画にある事業の概要】 ・住宅マスタープラン改定のための調査等。 ・地震時等における最低限の安全性を確保するため、耐震改修事業により民間住宅の耐震化を図る。 ・住宅に困窮している県民が安心して入居できる環境の構築のため、住情報提供を行う。 ・空き家の活用及び危険な空き家の除却 ・克雪住宅の面的な整備を促進し、雪下ろしの負担や危険の軽減を図る。	89,141	○住生活マスタープランの改定業務 ○民間住宅への耐震改修への支援(県及び27市町村) ○克雪すまいづくり支援事業〔克雪すまいづくり支援事業(11市町)、命綱固定アンカー普及促進事業(15市町村)〕
233	交通施設バリアフリー化推進事業	バリアフリー新法に基づいた基本構想のある市町村に所在する、特定旅客施設へのエレベーター・エスカレーター整備に対し、県の補助要綱に則って補助金を交付する。	0	○補助を行う事業の予定はなし。 ○市町村からの要望があれば随時対応する。
234	家庭教育支援人材養成費、親の学び支援・啓発費	市町村等の家庭教育支援担当者を対象とした研修会及び地域の中核となる家庭教育・子育て支援リーダーの資質を向上させる研修を実施するとともに、家庭教育や子育てに悩みや不安のある保護者等の相談に適切に対応する体制を整備する。	224	○市町村家庭教育担当職員研修会 ○家庭教育支援基本研修会 ○家庭教育支援者養成研修会 ○家庭教育支援実践研修
235	子どもを育てる地域の連携促進事業	未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校、家庭が連携・協働し社会全体で教育を行うことが必要であるため、地域住民や企業・団体等の地域人材による学校の教育活動を支援する取組への支援を行うことで、地域社会の教育力向上を図る。	26,287	○研修の実施 ・地域連携研修会 ・地域とともにある学校づくり研修会 ・地域連携コーディネーター養成スクール ○取組市町村への補助

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
275,511	○令和3年度予定事業の一部は今年度に繰越して実施予定 ○住戸内手すりの設置等、男女別にかかわらず、高齢者や障害者など誰もが使いやすい、安全・安心な公営住宅整備を計画・実施している。	引き続き、既設公営住宅についてEV設置や住戸内手すりの設置を進め、高齢者や障害者などの利用に配慮した公営住宅整備を実施していく。	建築住宅課
100,301	○住生活マスタープランの改定に向けた調査及び改定業務 ○民間住宅への耐震改修への支援(耐震診断:190件、耐震改修:17件) ○克雪すまいづくり支援事業補助戸数181戸、命綱固定アンカー普及促進事業補助戸数110戸、県補助額32,358千円(うち国費16,179千円)	実績が伸び悩んでいる事業もあることから、今後も事業が計画及び目的に沿って進められるよう、各市町と意見交換をしながら制度を最大限に活用し進めていく。	建築住宅課
0	○市町村からの申請がなかったため実績なし	次年度補助を行う事業の予定はないが、駅施設のバリアフリー化を推進し、誰もが利用しやすい環境を整備するため、引き続き補助を実施していく。	交通政策課
650	○市町村家庭教育担当職員研修会 5月 県立生涯学習推進センターで開催 ○家庭教育支援基本研修会 5月 県立生涯学習推進センター及びオンラインで開催 ○家庭教育支援者養成研修会 6～9月 2会場(県立生涯学習推進センター、小千谷市民学習センター楽集館)及びオンラインで開催(3回) ○家庭教育支援実践研修 11月 県立生涯学習推進センターで開催	・家庭教育支援チーム等を活用した地域での家庭教育支援の体制づくりを推進する必要がある。 ・体系的な研修の実施により、地域での家庭教育支援を担う人材を養成する。 ・多様な学習機会の提供を今後も継続する。	生涯学習推進課
27,306	○地域連携研修会 6月 県立生涯学習推進センターで開催(2回) ○地域とともにある学校づくり研修会 7月 県立生涯学習推進センターで開催 ○地域連携コーディネーター養成スクール(2会場×3回) 6～12月 刈羽村、県立生涯学習推進センターで開催 ○男女問わず地域住民等が参画・協力できる体制となるよう支援を行った。	市町村の体制づくりを進めるための支援を継続する。	生涯学習推進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(3) 子どもの人権を擁護し、子どもにとって安全で安心な環境の整備を推進します			
236 子どもがインターネットを適切に活用するための普及啓発	インターネット上の有害情報から子どもを守るため、閲覧できないようにするフィルタリングサービスの利用率を向上させるとともに、インターネットを適切に活用できるよう普及啓発を行う。	150	○子どものインターネットの適切な使用に関する普及啓発のためのリーフレットをイベント等にあって配布する。 ・配布部数:80,000部 ・配布対象:スマートフォン等を子どもに購入する保護者 ・配布場所:携帯電話等販売店、学校等
237 (再) 性犯罪等の未然防止対策の推進	性犯罪等各種犯罪の発生状況、防犯対策等に関する安全情報、啓発資料を市町村、関係団体等に提供する。	792	地域社会と共同し、女性を性犯罪から守る環境づくりや女性の被害防止の啓発に努める。
238 (再) 防犯活動の展開	防犯ボランティア活動への女性の積極的参画を促進し、防犯活動を展開する。	0	地域住民による防犯ボランティア活動の継続化と若い世代等の後継者育成を図り、女性ボランティア参加による防犯活動を展開する(随時)。
239 (再) 児童買春事犯等福祉犯罪の取締りと被害者保護	児童を被害者とする淫行及び買春、児童ポルノ等福祉犯罪の取締りを強化し、被害児童の早期発見・保護を図る。	0	関係機関と緊密な連携を図り福祉犯罪の取締りを強化し、被害児童の早期発見・保護を図るとともに、その再被害防止に向けた支援活動を推進する。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
160	○リーフレット「スマートフォン・携帯電話の安全な利用について」 ・配布部数:150,000部 ・配布対象:スマートフォン購入者・市町村・警察・県立学校 ○リーフレットを作成する際、イラストが男女平等の視点から望ましくなるよう配慮した。	今後も、青少年がスマートフォンや携帯電話を適切に利用できるよう普及啓発を実施していく。	子ども家庭課
687	○防犯広報冊子「地域の安全」の発行 性犯罪等の犯罪発生状況、防犯状況等についての啓発資料10,000部を作成し、市町村及び関係団体に提供した。 ○安全・安心メールの発信 子どもや女性対象のつきまとい、声掛け、痴漢の性犯罪等にかかる安心メールを40件発信し、注意喚起を行った。 ○防犯広報する際、プライバシー等への配慮、男女平等の視点両面において望ましくなるよう努めた。 ○防犯広報冊子「地域の安全」を発行する際、ストーカー規制法及びDV防止法の周知を図るため、説明資料を掲載した。	女性の安全意識向上のための広報啓発活動と情報発信による被害の未然防止活動を実施しており、今後も、あらゆる警察活動を通じて、被害防止のための広報を実施していく。	警察本部生活安全部 生活安全企画課
0	○職域防犯団体との連携強化 関係団体の協力を得て、女性防犯対策にかかる情報を提供した。 ○防犯ボランティア活動への参加 子ども対象の声掛け、つきまとい等が数多く発生しており、子どもの通学路における安全確保のため、女性ボランティアを含む防犯ボランティア団体が積極的に活動に参加した。 ○防犯ボランティア活動において、男女平等の視点を取り入れ、活動を進めた。	女性の視点を生かした防犯活動を推進していくために、学生ボランティアを始めとし、防犯ボランティアへの女性参加の促進を図る。	警察本部生活安全部 生活安全企画課
0	○少年サポートセンター、各警察署及び学校等関係機関と緊密に連携し、サイバーパトロールや相談活動等多様な手段を通じて、児童買春・児童ポルノ等の福祉犯事件情報の収集と一元管理に努め、積極的な事件化を推進することにより、被害児童の早期発見・保護に努めた。 ○令和3年中、福祉犯の検挙件数は132件、被害児童は77人であった。	・スマートフォン等のインターネット利用の児童買春・児童ポルノ事件の広がりを踏まえ、サイバーパトロールを強化した結果、多数の児童買春・児童ポルノ事件等を検挙し、被害少年の早期発見・保護が図られた。 ・今後も児童買春・児童ポルノなどの性犯罪事件の捜査を強化するとともに、関係機関との連携により、被害児童の早期保護と再被害防止に向けた支援活動を推進する必要がある。	警察本部生活安全部 少年課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
240 (再)	少年サポートセンター	少年警察補導員を少年課において集中運用し、 ・性犯罪をはじめ様々な犯罪被害に遭った少年の支援活動 ・街頭補導活動 ・SNSに起因する児童の性被害防止のための広報啓発活動 等を組織的に行うことにより、少年の非行防止と健全育成を図る。	2,018	相談窓口として更に県民への広報に努めるとともに、少年警察補導員のスキルアップなど少年サポートセンター機能の充実強化を図り、積極的な相談活動、継続補導、支援活動、広報啓発活動を実施する。
241	携帯電話等インターネット接続機器からの有害情報の閲覧防止対策の推進	インターネット上の有害情報から児童を守るため、事業者等に対する指導・要請を強化するとともに、保護者等に対するフィルタリングシステム等の普及啓発活動を推進する。	0	学校等関係機関と連携して、保護者等にインターネットに起因する福祉犯被害やアダルトサイト等の有害情報の閲覧に伴うトラブル事案等の実態を説明し、フィルタリングの必要性・重要性等に関する広報啓発活動を強化する。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標3 子育て環境の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
2,212	○令和3年中の実施回数 ・少年相談 626回 ・継続補導・支援 987回 ・情報発信活動 229回 ○個々の事案に応じ少年の心情に配慮した適切な相談や継続補導・支援活動を実施し、少年の再被害防止等に努めた。	・少年相談及び継続補導・支援活動を積極的に推進し、少年の再被害防止が図られている。 ・今後も非行防止及び健全育成の観点から、親切かつ丁寧な相談活動を推進するとともに、効果的な情報発信活動を推進する。	警察本部生活安全部 少年課
0	○学校と連携し、インターネットの危険性、フィルタリング普及のための広報啓発活動を実施した。 (令和3年中の実施回数 409回) ○携帯電話事業者に対して、更なるフィルタリング利用率向上のための協力を依頼した。	インターネットの危険性の周知、フィルタリングの更なる利用向上のため、今後も学校等関係機関と連携し、広報啓発活動に取り組むとともに、携帯電話販売店等に対する協力要請を強化する。	警察本部生活安全部 少年課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり			
重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実			
(1) 高齢者・障害者の社会参画を支援します			
242 高齢者チャレンジ100	65歳以上の高齢者を対象に5人でチームを組み、メンバーが正しい交通ルールとマナーを実践し、夕暮れの早まる時期の100日間、歩行中や自転車乗車中の事故に遭わない・起こさないことで、高齢者の交通安全意識の高揚と交通事故撲滅を図る。	410	○実施計画 1 募集期間 令和4年7月1日～8月19日 2 実施期間 令和4年9月23日～12月31日 ○実施体制 広く参加者を募集するため、事務局のほかに申込受付機関を設置する。 ・県交通安全協会及び地区交通安全協会 ・地区老人クラブ連合会 ○広報物を作る際、表現やイラストが男女平等の視点から望ましくなるよう配慮する。
243 老人クラブ助成事業	高齢者が経験と知識を生かし、地域社会における社会奉仕活動等に参加することによって、その役割を開発し、もって生きがいのある健康で豊かな生活に資する。性別にとらわれることなく、地域のリーダーを育成していく。 1 老人クラブ事業補助金 概ね30人以上で組織する老人クラブに対して運営費の助成を行い、活動基盤の安定を図る。 2 市町村老人クラブ連合会事業補助金 (1) 活動促進事業 (2) 健康づくり・介護予防事業 (3) 地域支え合い事業 等 3 新潟県老人クラブ連合会事業補助金 (1) 健康づくり・介護予防支援事業 (2) 地域支え合い事業 等	57,261	○女性会員活性化「男女共同参加のクラブづくり」に向けて ・県老連女性活性化会議の開催 ・市町村老連女性代表者会議 ○グラウンドゴルフ大会 ○関東甲信越越ブロック老人クラブリーダー研修会 ○通いの場づくり事業(ハンドメイド) ○動く通いの場づくり事業(ノルディックウォーク)
244 明るい長寿社会づくり事業	高齢者の生きがいと健康づくりを推進するため、高齢者自身の取組を支援し、性別にとらわれることなく高齢者の社会活動の振興を図る。 1 高齢者のスポーツ、健康づくり及び地域活動等を推進するための組織づくり 2 高齢者の社会活動の振興のための指導者育成事業 3 高齢者の社会活動促進事業 4 高齢者に情報提供を行う広報啓発事業	49,075	○全国健康福祉祭への参加者派遣 ・会場 神奈川県 ・期日 令和4年11月12日～11月15日 ○シニアカレッジ新潟の運営 ・講座の種類 基礎応用課程講座(2年) ・入学定員計362人 ○総合情報誌の刊行 ・刊行物及び回数 12,000部×3回 ・配布先 市町村、老人クラブ、公民館、関係団体、民生委員、一般県民等
245 視覚障害者等支援事業	○補助犬育成事業 重度視覚障害者の社会参加の促進を図るため補助犬を給付する。	7,560	○補助犬育成事業 育成頭数 4頭

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
470	○実施状況 1 募集期間 令和3年7月1日～8月20日 2 実施期間 令和3年9月23日～12月31日 3 参加者数 20,215人(4,043チーム) 4 抽選会 令和4年2月4日 当選1,165チーム ○広報物を作る際、表現やイラストが男女平等の視点から望ましくなるよう配慮した。	性別を問わず男女ともに参加しやすい事業となるよう募集することにより、参加者増を図る。	県民生活課
58,658	○女性活性化・県老連女性部設立35'事業・渉外会議等 ・女性活性化会議4回、トキめき事業会議1回 ・心をつなぐ愛唱歌集の企画・編集 ・シトラスリボン×県老連女性会員プロジェクトの推進等 ○グラウンドゴルフ大会 ○トキめきセミナー～地域づくりに果たす役割～ ○通いの場づくり事業(ハンドメイド) ○動く通いの場づくり事業(ノルディックウォーク)	活動内容の充実とともに、活動基盤の強化を図る。	高齢福祉保健課
49,075	○全国健康福祉祭(岐阜大会)は開催延期 ○シニアカレッジ新潟の運営 ・講座の種類 基礎応用課程講座(2年)のみ開催。実践講座(1年)は感染拡大防止のため中止 ・修了者計67人(基礎応用課程講座) ○総合情報誌の刊行 ・刊行物及び回数 17,000部×3回 ・配布先 市町村、老人クラブ、公民館、関係団体、民生委員、一般県民等	より多くの高齢者が参加できるよう、事業内容を検討する。	高齢福祉保健課
7,560	○補助犬育成事業 育成頭数 2頭 ○男女の区別なく、本人の状況に応じて事業を実施し、障害者が地域で暮らし、社会参加する力の向上を支援した。	関係団体、訓練機関からの情報収集を密に行う。	障害福祉課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
246	コミュニケーション確保事業費	障害者の自立と社会参加の促進を図るため、コミュニケーションの確保等の支援を行う。	19,585	○点訳奉仕員等養成事業 ○音声訳奉仕員養成事業 ○盲ろう者向け通訳・介助員養成事業 ○盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業 ○盲ろう者向け通訳・介助員講師養成事業 ○字幕入り映像ライブラリー事業 ○失語症者向け意思疎通指導者養成事業 ○失語症者向け意思疎通支援者養成事業 ○軽、中等度難聴児補聴器購入費助成事業
247	市町村地域生活支援事業	障害者総合支援法の規定により市町村が支弁する地域生活支援事業に要する経費に対し補助する。	358,959	全市町村において必須事業が実施されるよう支援する。
248	重症心身障害児者研修会開催事業補助金	新潟県重症心身障害児(者)を守る会が行う重症心身障害児(者)の自立と社会参加のための研修会開催事業に対し助成するもの。	180	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、事業を実施したいという意向あり。
249	障害者芸術文化祭開催事業	障害者の文化芸術活動への参加を通じ、自立と社会参加の促進に寄与するとともに、生活を豊かにすることを目的に実施しているもの。	8,024	○新潟県障害者芸術文化祭の開催 ○障害者芸術文化活動支援センターの運営
250	障害者社会参加推進センター運営事業	障害者の社会参加を推進するため、新潟県障害者社会参加推進センターを設置し、以下の事業を行う。 ・地域生活支援事業等の障害者の社会参加推進に関する事業の受託実施 ・障害者社会参加促進関係団体に対する指導・援助等	5,920	社会参加推進協議会を開催し、各障害者の要望が適切に反映されるよう努める。
251	授産活動プロデュース事業	障害者の作業工賃を向上させるため、授産製品の調達促進や、新規分野進出に向けた取組を行う。 「工賃向上計画支援事業」を活用し実施。	23,060	障害福祉サービス事業所における障害者の作業工賃を向上させ、自立を促進するため、授産事業の新規分野進出や農福連携に向けた取組等を支援する。 ○アウトソーシング推進事業の実施
252	スポーツ振興事業費	障害者のスポーツを通じた社会参加を促進するため、県障害者スポーツ大会や、スポーツ教室等を開催をする。	7,721	障害者がスポーツの楽しみを体験する機会を増やすとともに、県民の障害に対する理解を深めるため、県内各地でスポーツ教室を開催する。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
19,624	○点訳奉仕員等養成事業 ○音声訳奉仕員養成事業 ○盲ろう者向け通訳・介助員養成事業 ○盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業 ○盲ろう者向け通訳・介助員講師養成事業 ○字幕入り映像ライブラリー事業 ○失語症者向け意思疎通支援者指導者養成事業 ○失語症者向け意思疎通支援者養成事業 ○軽、中等度難聴児補聴器購入費助成事業 ○男女の区別なく事業を実施し、障害者が地域で暮らし、社会参加する力の向上を支援した。	引き続き、利用者増加に向けて、広く事業の周知に努める。	障害福祉課
358,316	○補助対象30市町村への補助を実施した。 ○男女の制限なく事業を実施し、障害者が地域で暮らし、社会参加する力の向上を支援した。	必須事業未実施市町村へは、近隣市町村と連携してサービス提供者の育成・確保に取り組むよう指導するなど、地域で生活する障害者のニーズに即したサービスが確保されるよう働きかける。	障害福祉課
180	新型コロナウイルス感染防止のため、活動ができなかった。	・今後も重症心身障害児(者)とその家族にとってさらに有意義な研修となるように取組を進めることが必要である。	障害福祉課
8,032	○新潟県障害者芸術文化祭の開催 令和3年11月16日から21日まで 場所 ユニゾンプラザ ○障害者芸術文化活動支援センターの運営 ○男女の区別なく事業を実施し、障害者が地域で暮らし、社会参加する力の向上を支援した。	・来場者を増やすためのPR、広報等を検討する。 ・より見やすくするためのレイアウトの工夫を行う。	障害福祉課
5,920	○社会参加推進協議会の開催 三障害(身体、知的、精神)合同部会のオンライン開催 ○地域生活支援事業の受託実施 ○推進センターだよりの発行(年2回) ○男女の区別なく事業を実施し、障害者が地域で暮らし、社会参加する力の向上を支援した。	県事業の受託実施以外のセンター独自の主体的な活動・事業展開を図る。	障害福祉課
16,060	○障害関係施設における授産事業の魅力ある商品開発等に向けた取組や、授産施設による協同窓口ネットワークの定着・拡充への支援、農業などの新規分野への進出支援など、工賃向上に向けた取組を支援する事業を実施した。 ○男女の区別なく事業を実施し、障害者が地域で暮らし、社会参加する力の向上を支援した。	工賃アップに向けた取組の強化を図る。	障害福祉課
8,663	○障害者スポーツ教室開催 ○男女の区別なく事業を実施し、障害者の地域生活、社会参加の促進を支援した。	地域により、障害者スポーツの環境整備に差があるため、県内各地での開催を積極的に行う。	障害福祉課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
253	全国障害者スポーツ大会選手支援事業	全国障害者スポーツ大会に向けた選手の支援及び派遣を行う。	17,444	障害者団体、障害者関係施設、教育機関、各種スポーツ団体及びボランティア等関係機関との連携を図り、総合的、効率的な実施に務める。
254	知的障害児者相談活動事業補助金	新潟県手をつなぐ育成会が行う知的障害児(者)の自立及び社会参加を支援するための研修会開催に対し助成するもの。	360	○手をつなぐ育成会正副会長情報交換会 ○ハンズサポート協会との意見交換会 ○手をつなぐ育成会担当部会 ○広報活動の推進 ○研修会で使用する資料等の表現について、固定観念にとらわれないよう配慮する。
255	バリアフリーまちづくり事業	障害者や高齢者などのすべての人が安全かつ快適に暮らし、円滑に社会参加するために、安心して通行できる歩行空間の整備が必要である。市町村における福祉のまちづくりと連携し、公共施設の周辺等における歩道の整備や信号機等の歩行者関連交通安全施設の整備及び旅客施設のエレベーター等の整備を行う。	683,514	○歩道整備事業 今年度実施箇所は26箇所。 ○信号機等交通安全施設整備 箇所数未定(8月採択予定) ○エレベーター等整備 新規要望なし
256	やさしいまちづくり事業	県民各層の代表者からなるまちづくり施策推進会議を設置し、福祉のまちづくりの推進に関する意見を受ける。 県民の意識の高揚を図るため、福祉のまちづくりに取り組んでいる団体等を顕彰する。	299	○福祉のまちづくり施策推進会議(年1回開催) ○人にやさしいまちづくり賞により優良施設の表彰を行う。
257	身体障害者団体活動助成事業	身体障害者団体が行う身体障害者の自立更生の促進を目的とした事業に対して助成する。 手話サークルが行う手話技術の向上及びボランティア活動の推進を目的とした事業に対して助成する。	679	○身体障害者のニーズにあった研修会等の企画・運営を図る。 ○各地区でのボランティア活動促進のため、地区でのサークル活動の強化。
258	シルバー人材センター発展・拡充支援事業	シルバー人材センターの発展・拡充を図ることにより、高齢年者の就業機会の増大と福祉の増進を図るとともに、活力のある地域社会づくりに寄与する。 ○シルバー人材センター連合運営費補助金 公益社団法人新潟県シルバー人材センター連合会に対し、運営費の一部を補助する。	5,037	男女高齢者の、地域社会活動参加の場と機会の拡大のため、(公社)新潟県シルバー人材センター連合会及び関係市町村と連携し、引き続きシルバー人材センターの発展・拡充を図る。
259	障害者雇用理解促進事業	障害者雇用の経験がない企業等に対し、県内企業の障害者雇用に関する先進的取組や好事例を発信するとともに、障害者雇用に功績のあった事業所等を表彰し、障害者雇用の理解促進を図る。	285	○先進企業等について、見学会を開催する。 ○障害者雇用に関して功績のあった事業所、個人及び優秀勤労障害者の表彰を実施する。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
20,437	○選手強化事業 練習会開催、選手強化、チーム支援 ※全国障害者スポーツ大会は新型コロナにより中止 ○男女の区別なく事業を実施し、障害者の地域生 活、社会参加の促進を支援した。	・全国障害者スポーツ大会の団体 競技はH21トキメキ大会以降出場 がなく、出場に向けた選手強化、参 加者数の増加が課題である。 ・全国障害者スポーツ大会に出場 できるよう団体競技を支援する取組 を行う。	障害福祉課
360	○手をつなぐ育成会正副会長情報交換会 ○ハンズサポート協会との意見交換会 ○手をつなぐ育成会担当部会 ○広報活動の推進 ○研修会で使用する資料等の表現について、固定観 念にとらわれないよう配慮した。	引き続き、障害者の福祉の増進 等につながる事業となるよう働きか ける。	障害福祉課
683,514	○歩道整備事業 23箇所 ○信号機等交通安全施設整備 6箇所	・歩道改善については、着工後3カ 年程度での工事完了を目指し進め ていく。 ・信号機等整備については、障害者 団体などからの要望を聞きながら、 必要な箇所の整備を進めていく。	障害福祉課
299	○適合施設について、県ホームページへの掲載し、 事業主のインセンティブ付与を図った。 ○人にやさしいまちづくり賞により優良施設の表彰を 行った。	適合施設について、県ホーム ページへの掲載のみならず、優良施設 表彰の実施により事業主へのイン センティブ付与を図る。	障害福祉課
815	○補助対象者 ・新潟県身体障害者団体連合会 ・新潟県手話サークル連絡協議会 ○男女の区別なく事業を実施し、障害者が地域で暮 らし、社会参加する力の向上を支援した。	引き続き、障害者の福祉の増進 等につながる事業となるよう働きか ける。	障害福祉課
5,037	○シルバー人材センター連合運営費補助金 (1団体) (公社)新潟県シルバー人材センター連合会 ○男女ともシルバー人材センター事業を通じて均等 に社会参加ができるよう、補助事業実施団体を通して 啓発を図った。	引き続き、男女とも均等に社会参加 ができるよう、補助事業実施団体を 通じて普及啓発を図る。	雇用能力開発課
882	○先進企業等について、見学会の開催と事例集の作 成 ○障害者雇用に関して功績のあった事業所、個人及 び優秀勤労障害者の表彰 ○事例集の作成に当たり、表現やイラストが男女平 等の視点から望ましくなるよう配慮した。 ○掲載事例に係る企業担当者、支援機関担当者等 について、男女とも掲載されるよう配慮した。	企業に対する障害者雇用の啓発 を継続的に行うことにより、男女障 害者の雇用が進んでいる。	雇用能力開発課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
260	障害者雇用マッチング支援事業	障害者就業・生活支援センターのあっせんによる障害者の職場実習(企業での短期就業体験)を足がかりとした効果的なマッチングにより雇用を促進するため、障害者の職場実習の機会拡大を図る。	17,747	○職場実習を受け入れる事業所に対して協力費を支給する。 ○職場実習を行う障害者に対して手当の支給等を行う。
261	障害者雇用促進プロジェクト費	障害者雇用を推進する企業の取組を支援するとともに、企業内における障害者雇用の支援体制を強化することにより、障害者雇用の促進を図る。	11,219	○障害者雇用促進プロジェクト助成金 ・障害者雇用の準備、ジョブコーチの養成に取り組む企業等に助成する。 ○障害者雇用に取り組む企業に対して助言等を行うコーディネーターを派遣する。
262 (再)	女性・高齢者等新規就業促進プロジェクト	現在職に就いていない女性・高齢者等の新規就業を支援する	16,697	対象者の掘り起こし、企業の職場環境改善支援やマッチング等を、官民連携プラットフォームを形成し、一体的に実施する。 ・人材会社への事業委託 ・関連他事業への参画、連携調整
263	障害者雇用促進能力開発事業	障害者に職業訓練の受講機会を提供し、職業能力の習得による雇用促進を図る。	102,143	○訓練定員:180名 ・施設内訓練:総合実務科 訓練期間1年、定員20名 ・委託訓練:IT養成科、介護補助業務科 など 訓練期間2～4か月、定員160名
264 (再)	多様な人材が活躍できる農業推進事業	新型コロナウイルス感染症の影響による求職の動きに対し、女性・高齢者・障がい者等多様な人材が働きやすい就業環境の整備や農福連携の推進など、農業における誰もが働きやすい安全で衛生的な就業環境づくりを推進する。	15,000	○環境整備支援 農業法人等において、誰もが働きやすい安全で衛生的な就業環境の整備に必要な施設改修等を支援する。 ・補助率:1/2 ・上限補助額:1,000千円 ○農福連携支援 農業法人等が行う農福連携の取組に必要な知識習得や障がい者の就業環境改善に資する設備の改修や備品購入等を支援する。 ・補助率:1/2以内、一部定額 ・上限補助額:1,000千円
265 (再)	交通安全施設等整備事業・緊急地方道路整備事業	子育てしやすい環境づくりを推進するため、安全に通行できる歩道の整備やバリアフリー化を図る。	821,923	○事業実施に当たり、地域住民等のニーズを十分に把握し、安全で快適な歩行空間の確保に努める。 ・歩道の整備・交差点改良
266 (再)	緊急地方道路整備事業	道路の改築を行い、高齢者や乳幼児を連れて外出する保護者等が快適かつ安全な移動を確保するための道路(歩道も含む)を整備する。	6,713,401	・バイパス整備、道路拡幅、交差点改良、歩道の設置を行う。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
17,747	○障害者職場実習受入促進事業補助金 職場実習を受け入れる事業所に対する協力費 ○障害者職場実習支援事業補助金 職場実習を行う障害者に対する手当、傷害保険料 ○男女とも均等に職場実習の機会が得られるよう、補助事業実施機関に対して啓発を行った。	障害者の職場実習の機会が提供され、男女障害者の雇用が進んでいる。	雇用能力開発課
14,219	○障害者雇用促進プロジェクト助成金 ○障害者雇用に取り組む企業へのコーディネーター派遣 ○男女とも企業に雇用される機会が得られるよう、企業等に対して啓発を行った。 ○セミナーの開催に当たっては、男女とも参加しやすいよう配慮した。	企業における負担感の軽減や職場の体制整備が図られ、男女障害者の雇用が進んでいる。	雇用能力開発課
17,319	○県・国等の関連施策情報をまとめたサイトの開設 ○職についていない女性・高齢者等及び企業の募集・登録 ○仕事セミナー、企業向けセミナーの開催 ○マッチングのための合同企業説明会の開催 ○性別にかかわらず均等に情報の提供を行った。 ○イベント実施に当たって、男女ともに参加しやすいよう配慮した。	就職を希望する高齢者の就業率は、全年齢の就業率と比較し低い。対象者の掘り起こしに加え、女性・高齢者の就業を推進できるよう企業側へ支援を継続することでマッチング増を進める。	雇用能力開発課
100,672	○訓練実績(R4.3月末現在) ・募集定員:93名 ・受講者数:67名(うち女性24名) ・就職者数:45名(うち女性15名) ○男女の区別なく事業を実施し、障害者が地域で暮らし、社会参加する力の向上を支援した。	・男女の区別なく、訓練が受講できるよう留意した。 ・引き続き制度の周知を強化して、受講者増に取り組む。	雇用能力開発課
20,000	○環境整備支援 申請件数:15件 執行額:10,945千円 ○農福連携支援 申請件数:9件 執行額:4,332千円	・令和3年度は農業法人や福祉事業所等24件で取組がなされ、就業環境整備が図られた。 ・誰もが働きやすい安全で衛生的な就業環境の整備や研修会の実施を支援し、農業における多様な人材が活躍できる就業環境整備に務める。	経営普及課
1,003,844	○歩道の整備・交差点改良 ・24か所 ○地域住民のニーズにあった安全で快適に通行できる歩行空間の整備を進めた。	次年度以降も引き続き、高齢者等の移動の安全確保を図る必要がある箇所について、歩道の整備やバリアフリー化を実施する。	道路管理課
7,429,253	○高齢者や乳幼児を連れて外出する保護者等が快適かつ安全な移動を確保するための道路(歩道含む)改築を実施した。 ○地域住民のニーズにあった安全で快適に通行できる歩行空間の整備を進めた。	継続して、高齢者・乳幼児を連れて外出する保護者等が快適かつ安全な移動ができるような道路改築の推進を図る。	道路建設課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
267 (再)	緊急地方道路整備事業(街路)	都市計画道路の改良を行い、高齢者や乳幼児を連れて外出する保護者等が快適かつ安全な移動を確保するための道路(歩道も含む)を整備する。	1,816,962	バイパス整備、道路拡幅、歩道の設置を行う。
268 (再)	公営住宅整備・改善	高齢者を含むすべての人が安心して快適な暮らしを営むことができる生活空間を、公営住宅の観点から整備・提供する。 【すべての公営住宅におけるバリアフリー化】 ・エレベータの設置 ・手すりの設置 ・段差の解消 ・レバーハンドル等の採用 等	236,397	○EV設置、手すり設置を含む住戸改善工事1棟予定(次年度継続) ○住戸内手すり設置予定1棟
269 (再)	安全で快適な住まいづくり	地域住宅計画を県及び29市町村で共同作成。計画の目標として「誰もが心豊かに生き活きと暮らせる、使いやすく質の高い安全・安心な住まいづくりを推進する。」と掲げている。 計画に基づく住宅施策を市町村が実施する際に、高齢者や障がい者及び性別を問わず、あらゆる人が快適な住環境で暮らせることなど目標に向けた施策であるかをチェックし、助言や指導を行う。 【計画にある事業の概要】 ・住宅マスタープラン改定のための調査等。 ・地震時等における最低限の安全性を確保するため、耐震改修事業により民間住宅の耐震化を図る。 ・住宅に困窮している県民が安心して入居できる環境の構築のため、住情報提供を行う。 ・空き家の活用及び危険な空き家の除却 ・克雪住宅の面的な整備を促進し、雪下ろしの負担や危険の軽減を図る。	89,141	○住生活マスタープランの改定業務 ○民間住宅への耐震改修への支援(県及び27市町村) ○克雪すまいづくり支援事業〔克雪すまいづくり支援事業(11市町)、命綱固定アンカー普及促進事業(15市町村)〕
270 (再)	交通施設バリアフリー化推進事業	バリアフリー新法に基づいた基本構想のある市町村に所在する、特定旅客施設へのエレベーター・エスカレーター整備に対し、県の補助要綱に則って補助金を交付する。	0	○補助を行う事業の予定はなし。 ○市町村からの要望があれば随時対応する。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり
重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
2,004,575	○10か所の都市計画道路の改良とともに、歩道の整備を実施した。 ○地域住民のニーズにあった安全で快適に通行できる歩行空間の整備を進めることができた。	次年度以降も引き続き、道路改良とともに歩道の整備をすすめ、高齢者等の安全確保を図る。	都市整備課
275,511	○令和3年度予定事業の一部は今年度に繰越して実施予定 ○住戸内手すりの設置等、男女別にかかわらず、高齢者や障害者など誰もが使いやすい、安全・安心な公営住宅整備を計画・実施している。	引き続き、既設公営住宅についてEV設置や住戸内手すりの設置を進め、高齢者や障害者などの利用に配慮した公営住宅整備を実施していく。	建築住宅課
100,301	○住生活マスタープランの改定に向けた調査及び改定業務 ○民間住宅への耐震改修への支援(耐震診断:190件、耐震改修:17件) ○克雪すまいづくり支援事業補助戸数181戸、命綱固定アンカー普及促進事業補助戸数110戸、県補助額32,358千円(うち国費16,179千円)	実績が伸び悩んでいる事業もあることから、今後も事業が計画及び目的に沿って進められるよう、各市町と意見交換をしながら制度を最大限に活用し進めていく。	建築住宅課
0	○市町村からの申請がなかったため実績なし	次年度補助を行う事業の予定はないが、駅施設のバリアフリー化を推進し、誰もが利用しやすい環境を整備するため、引き続き補助を実施していく。	交通政策課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(2) 高齢者が安心して暮らせる介護体制の整備を促進します			
271 介護サービス情報の公表	介護サービス情報の公表(情報開示の標準化)を推進することにより、介護サービスの質を向上させ、サービス利用の満足度の向上及び介護保険制度の適切な運営に資する。	5,789	○「介護サービス情報の公表」実施計画の策定 ○介護サービス情報の確認及び公表 ○調査指針による確認調査の実施
272 介護保険事業費補助金	介護保険の導入に伴う負担の激変緩和等の観点から、低所得者の利用者負担(通常10%)について、特別の措置を講じるもの。 1 障害者ホームヘルプサービス利用者に対する支援措置 (障害者総合支援法により自己負担0%とされている者に対して、1割負担分全額を補助する。) 2 社会福祉法人による利用者負担の軽減措置 (利用者負担を軽減した社会福祉法人等を市町村が財政支援した場合に補助) 3 離島等地域特別加算に係る利用者負担の軽減措置 4 中山間地域等の地域における加算に係る利用者負担の軽減措置	26,617	○障害者ホームヘルプサービス利用者に対する支援措置 ○社会福祉法人による利用者負担の軽減措置 ○離島等地域特別加算に係る利用者負担の軽減措置 ○中山間地域等の地域における加算に係る利用者負担の軽減措置 ※いずれも制度の周知を図り、市町村からの申請に基づいて補助
273 介護保険制度の理解と利用促進	介護保険制度の理解と利用促進を図る。	0	介護保険事務保険者支援に際し、制度の趣旨、内容について被保険者、その他関係者の理解を深めるための広報等が適切に行われているかどうかについて、支援を行う。
274 高齢者介護サービス体制整備支援事業	介護保険制度の円滑な運営のため、介護支援専門員の養成・支援を行うとともに、要介護認定に携わる人員の養成を図るため、以下の事業を実施する。 ・高齢者介護サービス体制整備支援事業	1,956	介護認定調査従事者、認定審査会委員及び主治医研修実施

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
6,016	○「介護サービス情報の公表」実施計画の策定 ○介護サービス情報の確認及び公表 ・公表事業所数 R2:2,101→R3:2,095 ○高齢者が安心して暮らせる介護体制に資する情報提供となるよう配慮した。	・介護サービス情報について、事業者からの報告を確認精査し公表している。 ・今後も利用者のニーズに合った介護サービスや事業所・施設の選択が可能となるよう、適正な情報提供に努めていく。	国保・福祉指導課
27,198	○社会福祉法人による利用者負担の軽減措置…26市町村で実施 ○離島等地域特別加算に係る利用者負担の軽減措置…1市で実施 ○男女共同参画を促進し、介護の負担が家族、とりわけ女性に集中することのないよう、介護保険制度の充実と利用促進に努めた。	市町村及び事業者に対し、引き続き制度の周知と利用の促進を図る。	高齢福祉保健課
0	○介護保険事務保険者支援に際し、制度の趣旨、内容について被保険者、その他関係者の理解を深めるための広報等が適切に行われているかどうかについて、支援を行った。 ○男女共同参画を促進し、介護の負担が家族、とりわけ女性に集中することのないよう、介護保険制度の充実と利用促進に努めた。	引き続き、介護保険事務保険者支援に際し、制度の趣旨・内容について、被保険者、その他関係者の理解を深めるための広報等が適切に行われているかどうかについて、支援を行う。	高齢福祉保健課
2,060	○認定調査従事者研修 ①新規研修 212人 ②現任研修 465人 ○介護認定審査会委員研修 ①新規研修 23人 ②現任研修 194人 ○主治医研修 72人 ○男女共同参画を促進し、介護の負担が家族、とりわけ女性に集中することのないよう、介護保険制度の円滑な運用支援に努めた。	認定調査従事者及び介護認定審査会委員が、公平・公正かつ適切な認定調査・審査が行えるために必要な知識、技術の向上を図る。	高齢福祉保健課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
275 認知症高齢者介護支援事業	1 認知症介護の技術向上のための研修を実施し、人材の育成を図る (1) 認知症介護基礎研修 (2) 認知症介護実践者研修 (3) 認知症介護実践リーダー研修 (4) 認知症介護指導者養成研修 (5) 認知症対応型サービス事業管理者研修 (6) 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 (7) 認知症対応型サービス事業開設者研修 (8) 認知症介護指導者フォローアップ研修 (9) かかりつけ医等認知症対応力向上研修 (10) 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 2 認知症ケアの普及及び課題検討による支援体制の整備 (1) 認知症ケア普及施策推進研修事業 (2) 認知症ネットワーク運営推進事業 (3) 認知症知識普及講座	22,045	1 (1) 認知症介護基礎研修: 随時 (2) 認知症介護実践者研修: 5回(合計180名程度) (3) 認知症介護実践リーダー研修: 1回(24名程度) (4) 認知症介護指導者養成研修: 0名 (5) 認知症対応型サービス事業管理者研修: 2回(合計80名程度) (6) 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修: 2回(合計50名程度) (7) 認知症対応型サービス事業開設者研修: 1回(30名程度) 新潟市との隔年で、R4は新潟県が実施 (8) 認知症介護指導者フォローアップ研修: 2名分 (9) かかりつけ医等認知症対応力向上研修 ・医師: 5回(合計30名) ・歯科医師: 1回(合計50名) ・薬剤師: 1回(合計50名) ・看護職員: 1回(合計60名) (10) 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修: 3回(合計50名) (2)、(3)、(5)～(7)の人数は予定 2 (1) 認知症ケア普及施策推進研修事業 (2) 認知症ネットワーク運営推進事業 (3) 認知症知識普及講座
276 (再) ワーク・ライフ・バランス推進事業	労働者に対し、ワーク・ライフ・バランス意識や、育児・介護休業制度等の周知啓発を行い、両立支援制度の利用促進を図る。	393	○育児・介護休業制度啓発資料作成 ・国及び関係機関と連携を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進及び育児・介護休業法の周知を図る。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標4 高齢者・障害者の社会参画と介護体制の充実

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
21,926	1(1)認知症介護基礎研修:随時(592名) (2)認知症介護実践者研修:5回(合計173名) (3)認知症介護実践リーダー研修:1回(合計20名) (4)認知症介護指導者養成研修:0回 (5)認知症対応型サービス事業管理者研修:2回 (合計48名) (6)小規模多機能型サービス等計画作成担当者研 修:2回(合計28名) (7)認知症対応型サービス事業開設者研修 R3年度は新潟市実施のため県では実施実績なし (8)認知症介護指導者フォローアップ研修:0名 (9)かかりつけ医等認知症対応力向上研修 ・医師:7回(合計35名) ・歯科医師:1回(合計21名) ・薬剤師:2回(合計102名) ・看護職員:1回(合計61名) (10)病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向 上研修:0回(合計0名) ※(10)は新型コロナウイルス対応のため中止 (2)、(3)、(5)～(7)の人数は予定 2(1)認知症ケア普及施策推進研修事業 (2)認知症ネットワーク運営推進事業 (3)認知症知識普及講座 ※2(1)～(3)については地域振興局で実施	○認知症介護の技術向上のための 研修を計画どおり実施できた。 ○今後も増加する認知症高齢者の 介護に対応するため、継続的に人 材の育成を図る。	高齢福祉保健課
712	○「仕事と育児・介護の両立のために」の作成・配布 24,000部(母子手帳添付、市町村介護関係機関等) ○「これから新潟で/パパになる方へ」の作成・配布 18,000部(母子手帳添付、関連イベント配布等) ○イクメン応援プラス認定企業 218社(R4.3.31時点) ○事業実施において、男女共同参画の視点を取り入 れた。	引き続き、国及び関係機関と連携 を図り、育児・介護休業制度等の周 知啓発を行い、両立支援制度の利 用促進及びワーク・ライフ・バランス の推進を図る。	しごと定住促進課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり			
重点目標5 貧困等により困難を抱えた男女が安心して暮らせる環境の整備			
(1) 生活困窮者の自立の促進を支援します			
277 生活困窮者自立支援事業	生活困窮者自立支援法に基づき、包括的かつ伴走型の支援を実施する自立相談支援機関等を設置し、多様なニーズにあわせて制度横断的、継続的に各種支援のコーディネートや就労支援、家計相談支援等を行う。	23,320	自立相談支援機関において、自立に関する相談支援、就労支援、家計改善支援や子どもの学習・生活支援等を行う。 ○実施主体 県(事業実施は民間団体に委託) ○実施地域 町村(市部は各市が実施)
(2) ひとり親家庭への支援を充実します			
278 児童扶養手当の支給	父又は母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立促進に寄与するため、当該児童を監護する母親等に対して、児童扶養手当を支給する。 対象児童 ①父母が婚姻を解消した児童 ②父又は母が死亡した児童 ③父又は母が政令で定める程度の障害のある児童 ④父又は母の生死が明らかでない児童 ⑤父又は母から引き続き1年以上遺棄されている児童 ⑥父又は母が裁判所からのDV保護命令を受けた児童 ⑦父又は母が引き続き1年以上拘禁されている児童 ⑧母が婚姻によらないで懐胎した児童 ⑨その他棄児などの児童	188,685	○手当月額 全部支給 43,070円 一部支給 43,060円～10,160円 (第2子加算額) 全部支給 10,170円 一部支給 10,170円～5,090円 (第3子以降加算額) 全部支給 6,100円 一部支給6,100円～3,050円 ○所得制限額度額 ・児童1人の場合 全部支給 870,000円 一部支給 2,300,000円 ○対象児童 18歳に達した日以後の最初の3月31日まで(心身に障害のある児童の場合は20歳未満) ○①、②のいずれか早い方を経過した人について、経過月の翌月から手当額が1/2になる。(①支給開始月の初日から起算して5年②手当の支給要件に該当するに至った日の属する月の初日から起算して7年)なお、就業や求職活動をしている等の適用除外理由に該当する方については、手当の減額はない。
279 ひとり親家庭生活向上事業	ひとり親家庭が定期的に集い、お互いの悩みを打ち明けたり相談し合う場を設け、ひとり親家庭の交流や情報交換を行うとともに、共助の精神を養い、早期自立のための意欲形成と家庭生活の安定を図る。	600	「ひとり親家庭くらし・子育て応援セミナー」を県内数か所で開催予定

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり
重点目標5 貧困等により困難を抱えた男女が安心して暮らせる環境の整備

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
23,318	○包括的かつ伴走型の支援を実施する自立相談支援機関を設置し、男女の区別なく、多様なニーズにあわせて自立に関する相談支援、就労支援、家計改善支援や子どもの学習・生活支援等を実施した。 (R3) 新規相談受付件数 5,189件 (速報値)	制度の始まった平成27年度から令和3年度までの合計で新規相談受付は26,632件(速報値)、そのうちプラン作成により継続して支援したのは8,676件(速報値)、支援により就労・増収した者は、平成28年度から令和3年度までで1,442人(速報値)となっているなど、着実に本制度が実施されてきている。	福祉保健総務課
198,594	○制度改正等広報やパンフレット等の活用により、制度の周知を図った。 ○ひとり親家庭の父または母等に対して、生活の安定と自立の促進に寄与した。	適切な手当の支給が行われるよう制度の周知を図る。	子ども家庭課
600	○開催地及び開催日 ・燕市 10月31日(21人参加) ・長岡市 11月7日(48人参加) ・見附市 12月5日(33人参加) ・柏崎市 12月12日(34人参加) ○主な内容 講演会、ひとり親家庭が抱える悩み相談、参加者交流と仲間づくり等 ○ひとり親家庭の交流会は、新型コロナウイルス感染防止対策をしたうえで男女別なく楽しめるような内容で事業実施した。 ○希望者が参加しやすいよう託児コーナーを設置し、就業相談や法律相談を受けられる環境で事業実施した。	イベント終了後も参加者が相互に交流を続けていけるよう、参加者の交流の輪につながるようなテーマ設定、運営に努めるとともに、多くのひとり親家庭から参加してもらえるよう、対象者のニーズにあったテーマ設定を工夫し、積極的な広報により事業の周知を図る。	子ども家庭課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
280	ひとり親家庭等医療費助成事業	ひとり親家庭の生活の安定と自立の促進に寄与するため、その医療費の一部を助成して、ひとり親家庭の保健の向上と福祉の増進を図る。 1 対象者 ア ひとり親家庭の父若しくは母、又は父母のいない児童を養育している養育者で、18歳到達後最初の3月31日までの児童を扶養している者 イ アの者に扶養されている18歳到達後最初の3月31日(障害児は20歳未満)までの児童 2 所得制限 児童扶養手当の一部支給制限の所得限度額未満 3 実施主体 市町村 4 負担割合 県1/2 市町村1/2 (政令市:補助なし)	289,670	○事業の実施が母子家庭や父子家庭の母・父の経済的自立の支援にあたるため、引き続き事業を継続する。 ○市町村との連携を密にし、広報などで制度の周知を図る。 実施方法 (1) 市町村が実施する医療費助成事業に県が1/2を補助(政令市:補助なし) (2) 現物給付(国保・社保) (3) 一部負担 外来: 530円/回 (月4回) 入院: 1,200円/日
281	母子家庭等自立支援事業	近年の母子家庭等をめぐる諸状況の変化に対応し、母子家庭等に対し、総合的な母子家庭等対策を推進する。 ①ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業 ・就業支援員による就業相談の実施 ・養育費相談員による養育費相談の実施 ②母子父子自立支援プログラム策定事業(町村分)【平成20年度追加】 ③母子家庭等自立支援給付金事業(町村分) ・自立支援教育訓練給付金 ・高等職業訓練訓練促進給付金【平成19年度追加】 ④ひとり親就業支援事業【平成27年度追加】 ⑤ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業【平成28年度追加】 ⑥ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業【平成28年度追加】	15,776	○ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業は(一社)新潟県母子寡婦福祉連合会に委託して実施 ○町村在住の児童扶養手当受給者を対象に母子父子自立支援プログラム策定事業を実施 ○町村在住の母子家庭の母の申請に基づき自立支援教育訓練給付金、高等職業訓練促進給付金の支給を実施 ○県内在住のひとり親家庭の親及び子の申請に基づき、高等学校卒業程度認定試験対策講座の入学料及び受講料の助成を実施 ○ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業は(社福)新潟県社会福祉協議会に補助して実施
282	ひとり親家庭等日常生活支援事業	母子家庭、父子家庭及び寡婦が、修学等の自立を促進するために必要な事由や疾病などの事由により、一時的に生活援助、保育サービスが必要な場合又は生活環境等の激変により、日常生活を営むのに支障が生じている場合に、家庭生活支援員を派遣し、生活の安定を図る。	0	令和3年8月で事業廃止

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり
重点目標 5 貧困等により困難を抱えた男女が安心して暮らせる環境の整備

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
303,574	○新聞広報により制度の周知を図るとともに、実施市町村に対し、補助金を交付した。 ※補助実績額 308,553千円 ○統計資料を作成する際に、母子家庭・父子家庭別の実施状況を作成し、それぞれの状況の把握に努めた。	引き続き制度の周知を図り、多くのひとり親家庭の人達が利用できるようにする。	子ども家庭課
15,048	○母子父子自立支援プログラム策定事業 新潟県(町村分)外 3市実施 ○自立支援教育訓練給付金事業 新潟県(町村分)外 20市実施 ○高等職業訓練促進費事業 新潟県(町村分)外 19市実施 ○ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業 新潟県(町村分)外 3市実施 ○相談受付時間については、相談者の希望に沿うよう柔軟に対応した。 ○相談者の相談内容に応じ、適切に対応することができた。	今後も母子家庭等の多くが利用できるよう制度の周知を図るとともに、相談に対し柔軟に対応する。	子ども家庭課
71	○派遣対象世帯 1世帯(母子1) ○派遣実績 1件 8.5時間 16,185円(派遣費用) ○母子家庭、父子家庭等のニーズに応じた子育て支援、生活支援を行った。	市町村が行うファミリー・サポート・センター事業について、事業の実施やひとり親家庭の利用料減免の導入等の働きかけを行い、必要な支援の充実を図る。	子ども家庭課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
283	母子・父子・寡婦福祉資金の貸付	○母子父子福祉資金貸付金 配偶者のない女子又は男子で現に児童(20歳未満)を扶養している者に対し、その経済的な自立の助成と生活意欲の助長を図り、その扶養している児童の福祉を増進するため資金を貸し付ける。 ○寡婦福祉資金貸付金 配偶者のない女子であって、かつて配偶者のない女子として児童(20歳未満)を扶養していた者に対し、その経済的な自立と生活意欲の助長を図り、もって寡婦の福祉を増進するため資金を貸し付ける。 ※H26.10.26から父子家庭も貸付対象となった。	485,762	○貸付金の種類 修学資金、事業開始資金、生活資金等12種類 ○貸付方法 (1)連帯保証人 連帯保証人を立てずに申請することも可能。 ただし、連帯保証人を立てない場合、資金によっては年利1.0%の利子が付く。 (2)利子 貸付金の種類や連帯保証人の有無により異なるが、無利子又は年利1.0% (3)償還方法 貸付金の種類により異なるが、一定の据え置き期間の後、3年～15年
284	母子・父子自立支援員による生活相談	本庁及び地域振興局健康福祉(環境)部等に母子・父子自立支援員を配置し、母子家庭及び父子家庭並びに寡婦の生活相談に応じ、自立に必要な指導を行う。	0	母子自立支援員の配置 ・本 庁 1名 ・地域振興局健康福祉(環境)部 8名 (計 9名)
285	ひとり親家族の親の優先枠(「離職者等の再就職訓練」の一部)	離職者向け職業訓練のコースに、ひとり親世帯の親の入校優先枠を設け、職業訓練受講機会を提供する。	0	○離職者向け職業訓練に入校優先枠を設定(短期訓練のみ) ・訓練定員:2,985名 ・訓練期間:2か月～1年 ・主な訓練コース:事務・医療事務、IT、介護分野など

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり
重点目標5 貧困等により困難を抱えた男女が安心して暮らせる環境の整備

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
345,205	○貸付状況 ・修学資金 228件 ・技能習得資金 5件 ・修業資金 8件 ・就職支度資金 1件 ・生活資金 2件 ・住宅資金 1件 ・転宅資金 3件 ・就学支度資金 50件 - 計 298件 ○母子家庭、父子家庭及び寡婦に対する経済支援として、ニーズに応じた貸付を行った結果、多くの人が利用した。	今後も母子家庭等の抱える金銭的悩みに対し、経済的支援の観点から柔軟かつ的確に貸付を行う。	子ども家庭課
0	○母子家庭や父子家庭が抱えている悩みについて、相談に応じたり、自立に向けて情報提供などの支援を行った。 ○母子家庭や父子家庭が抱えている問題や悩みについて、相談に応じたり、自立に向けての支援を行った結果、特に母子父子寡婦福祉資金貸付金について多くの人が利用した。 ○母子家庭や父子家庭が抱えている問題や悩みについて、相談に応じたり、自立に向けての支援を行った結果、特に母子父子寡婦福祉資金貸付金について多くの人が利用した。	今後も母子家庭等の抱える多様な悩みに対し、柔軟かつ的確に相談に応じる。	子ども家庭課
0	○訓練実績(R4.5月末現在) ・定員 :3,110名 ・受講者:1,772名(うち女性1,241名) ・就職者:1,063名(うち女性724名) ○広報物を作成する際、表現やイラストが男女平等の視点から望ましくなるよう配慮した。 ○託児サービス付き職業訓練を実施した。	・男女の区別なく、訓練が受講できるよう留意した。 ・引き続き制度の周知を強化して、受講者増に取り組む。	雇用能力開発課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり			
重点目標6 地域や防災・災害復興分野等における男女共同参画			
(1) 地域における男女共同参画を促進します			
286 特定地域の自立・安全を支援する事業	過疎地域等、高齢化や若年層の流出によって活力の低下や経済の停滞がみられる地域(特定地域)の活性化のため、特定地域の市町村が行う創意工夫による自立した地域づくりを支援する。(特定地域の元気応援事業(県単補助事業))	30,780	過疎地域等、高齢化や若年層の流出によって活力の低下や経済の停滞がみられる地域(特定地域)の活性化のため、特定地域の市町村が行う創意工夫による自立した地域づくりを支援
287 (再) 社会活動促進事業	ボランティア活動などの社会活動に参加しやすい環境づくりや非営利活動団体の経営力の強化、多様な主体の協働・連携の促進に取り組むことにより、県民の社会活動参加の持続的な発展を実現する。	5,107	○県民の社会活動参加への取組の推進 ・「にいがたNPO・地域づくり情報ネット」の運営による県内NPOの情報発信支援やネットワーク形成 ○社会活動に取り組む団体の経営力の強化 ・NPOの運営に関するセミナー等 ○多様な主体の協働・連携の促進 ・パートナーシップセミナー
288 安全・安心なまちづくり推進事業	1 施策の総合的な推進 条例に基づく推進計画、指針による総合的な施策の推進 2 地域における自主的な取組の活性化 地域コミュニティにおける自主的な取組を推進防犯意識の普及啓発 3 関係機関との連携 市町村、警察、学校等関係機関と連携し推進体制を整備	2,564	○安全・安心まちづくり事業 犯罪のない安全で安心なまちづくり県民大会、推進会議、推進協議会等の実施 ○地域防犯活動推進事業 防犯リーダー養成講習会(安全マップ講習会)、防犯出前講座、犯罪被害者支援等を実施 ○高齢者被害防止対策事業 高齢者被害防止啓発物の作成等

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標6 地域や防災・災害復興分野等における男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
32,400	市町村からの申請がなかったため、実績なし	採択要件として地域住民の主体的な参画を必要としており、男女の区別を設けることなく依頼を行っている。 今後も事業の計画及び実施において、男女を問わず多様な主体が参加できるよう市町村への働きかけを行う。	地域政策課
5,566	○社会活動促進事業 【情報発信支援】 ・「にいがたNPO・地域づくり情報ネット」を通じて各種の情報を提供するとともに、県内のNPOの情報発信支援やネットワーク形成を図った。 アクセス件数(推計値): 146,970件 ○Webサイトを通じ広く情報提供を行うとともに、男女共同参画に関する社会活動を行っている団体をWeb上で検索できるようにしている。	・「にいがたNPO・地域づくり情報ネット」掲載の人に焦点をあてた記事においては、性別、年齢、地域のバランスを考慮して年6回、選定している。 ・引き続き、取組を継続していく。	県民生活課
2,707	○犯罪のない安全で安心なまちづくり県民大会はコロナ感染防止から中止 ○地域防犯活動推進事業の実施 防犯出前講座(66回、2,248人)、安全マップ講習会(50人) ○防犯意識啓発活動(チラシ作成配付等) ○各種団体の集会時に講師を派遣し、女性の被害防止に役立つ内容の講義を行った。 ○女性に対する暴力を許さない社会づくりに向けた意識啓発に役立った	引き続き男女平等の視点に配慮した施策展開を進める。	県民生活課

	事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
289 (再)	男女平等・共同参画 推進室だより「ふれ愛 ほっとらいん」の発行	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知を図るとともに、男女平等に関するデータの紹介などにより、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図ることを目的として情報紙を発行する。 (発行開始 平成8年9月)	0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県民の意識啓発及び市町村の取組促進を図る。 ○配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企業、配布希望者等 ○その他 県のホームページ掲載 ○発行回数 4回/年 ○発行部数 約1,500部 ○ページ数 4~6ページ ○内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女平等社会の形成に関する情報等を紹介する。
290 (再)	女性のチャレンジ支援	女性の意欲を活かし、個性と能力を発揮できるよう、再就職、キャリアアップ、起業など様々な分野でのチャレンジを応援するため、先行事例等を紹介する「新潟県女性のチャレンジサイト」の運営・管理を行う。	0	「新潟県女性のチャレンジサイト」で紹介している機関・団体等の追加と、県内の様々な分野で活躍している女性の事例収集等を行う。
291	交流人口拡大戦略検討費	交流人口の拡大に向けた中・長期的な戦略を形成するため、今後の施策展開に向けた検討を行う。	5,227	交流人口の拡大を図るため、新潟県観光立県推進条例に基づき観光地・温泉地の満足度調査等を実施する。
292	地域安全活動への女性の参画促進	女性の地域団体役員等への積極的な参画を促進することにより、女性の視点からの地域活動を積極的に推進する。	0	地域防犯協会、組合の役員及び専門部会への女性の参画を促進し、女性ボランティア参加による地域安全活動の推進を図る(随時)。
(2) 防災・災害復興分野における男女共同参画を促進します				
293	防災計画や防災マニュアル等の作成にあたっての男女のニーズの反映	地域防災計画の見直し	1,752	地域防災計画の見直し等において、男女のニーズの違い等に配慮した検討を進め、必要に応じて地域防災計画の修正等を行う。
294	防災・災害復興に関する政策・方針決定過程への女性の参画	防災会議委員からの意見聴取を行う。 防災会議委員等への女性登用など、防災分野における女性参画を推進する。	785	○女性委員のさらなる登用に努め、防災における女性の参画の促進を図る。 ○防災会議は2回開催予定。

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標6 地域や防災・災害復興分野等における男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
0	県、国、市町村の男女平等推進施策に関する取組 や(公財)新潟県女性財団の事業について周知し、県 民の意識啓発及び市町村の取組促進を図った。 ・配布先 市町村、女性団体、マスコミ、県男女平 等社会推進審議会委員、ハッピー・パートナー登録企 業、配布希望者等 ・その他 県のホームページ掲載 ・発行部数 年4回(約1,500部/回) ・内容 県及び市町村等の事業の広報等を行うほか、男女 平等社会の形成に関する情報等の紹介。 ○掲載記事、表現やイラストが男女共同参画の視点 から望ましいものとした。 ○掲載記事選択にあたり、男女共同参画の視点を優 先した。	庁内の関係課や市町村の事業等 の情報収集を密に行い、掲載情報 の充実を図る。	政策企画課
0	県内の様々な分野で活躍している女性の事例収集等 を行い、「新潟県女性のチャレンジサイト」で紹介し た。	引き続き、女性活躍推進事業の 取組と連携して、多様な分野で活躍 する魅力的な人物の事例収集等を行 う。	政策企画課
5,054	○第10回満足度調査(冬季・春季・夏季・秋季)を実 施し、集計結果を8月に公表 ・回答者数:11,946名(うち男性5,428名、女性6,363 名、無回答155名) ・温泉地・観光地に対する総合満足度:95.6%(前回 比+2.6ポイント) ・温泉地・観光地へのリピーター割合:64.7%(前回比 +5.3ポイント) ○宿泊客にアンケート調査票を配布する宿泊施設に 対して、特定の性別に偏らない形でアンケート調査票 を配布するよう依頼している。 ○アンケート調査票策定時の満足度調査検討委員会 (H24)に女性委員を登用し、女性の意見を反映でき るよう努め、現在も当該アンケート調査票を継続して使 用している。	・調査結果について、県のHPで公 表すると共に、宿泊施設へフィード バックすることで、満足度向上に係 る各宿泊施設の主体的な取組を促 した。 ・R4年度には第11回満足度調査 (春季・夏季・秋季)第12回調査(冬 季)を実施する。	観光企画課
0	○令和3年10月11日～20日 新潟県、新潟県警察、新潟県防犯協会が関係機関 と連携し「新潟県犯罪のない安全で安心なまちづくり 旬間・全国地域安全運動」を実施した。 例年、新潟ユニゾンプラザにおいて開催している県 民大会は、令和3年度については新型コロナウイルス 感染対策のため中止した。	・地域安全活動をより活性化させる ため、幅広い世代の防犯ボランティ ア参加促進を図る。	警察本部生活安全部 生活安全企画課
2,223	地域防災計画の見直し作業において、男女のニ ーズの違い等に配慮して検討を進めた。	引き続き、男女のニーズに配慮し た地域防災計画の見直し、内容の 普及をより一層進める。	防災企画課
770	防災会議委員への女性委員の登用に努めた。	・防災会議委員への女性委員のさ らなる登用に配慮する。 ・防災会議において女性委員の意 見を積極的に聴取する。	防災企画課

事業・取組名	事業・取組概要	R4年度 当初予算 (千円)	令和4年度実施計画
(3) 環境保全の取組への男女共同参画を促進します			
295 県民参加の環境運動 推進事業	環境基本計画における柱の一つに、「県民参加で環境保全に取り組む社会づくり」を掲げている。その具体的な施策として、県民・事業者・行政がそれぞれの立場で参加し、連携して環境保全のための具体的な行動を進める。	5,609	○県民参加促進事業 県民、企業、行政が連携して環境保全活動を進めるため、「新潟県環境会議」の運営を行うとともに「新潟県環境賞」等の表彰等、普及啓発事業を行う。 ○ポスターコンクール 幼少期からの環境保全意識の高揚を図るため、ポスターコンクールを行う。 ○子どもたちの環境保全活動支援事業 小中学生対象に環境学習会を行う。 ○にいがた環境フェスティバル 環境に関する県民への普及啓発を図るため、にいがた環境フェスティバルを開催する。
296 事業活動における温室効果ガス排出削減 推進事業	温室効果ガス排出量の削減に積極的に取り組む事業者の表彰を行うことで、事業者の温暖化対策に対する意識の高揚を図り、温室効果ガス排出量の削減を促す。 また、事業所に対する省エネ対策の情報提供を行い、県内の省エネ産業の振興を図りながら、民生部門における温室効果ガス排出量の削減を促進する。	416	○温室効果ガス排出量の削減に積極的に取り組む事業所を対象とした表彰制度の運用 ○省エネ対策の情報提供
297 環境活動実践推進事業	環境基本計画の基本理念を実現するため、環境を大切に思う意識を醸成し、脱炭素型の環境に配慮したライフスタイル・事業活動への転換や環境保全の自発的な取組を促進する。	425	○家庭での省エネ取組実践 地球温暖化防止につながる実践活動に取り組んでもらい、県民の自発的な環境保全活動を促進する。 ○環境教育推進 学校や地域で温暖化防止等の実践活動の普及拡大に取り組む環境リーダーを養成するため、大学、企業、NPO、行政等からなる「環境リーダー育成協議会」を開催し、養成講座等を実施する。
298 新潟県カーボン・オフセット制度普及促進 事業	温室効果ガス排出量の増加が著しい民生(家庭・業務)部門での温暖化対策の取組実践が行われるよう、カーボン・オフセット制度など経済的手法を活用する。 また、カーボン・オフセットのクレジット販売促進のため、銀行がプロジェクト実施者と企業間との橋渡しをするコーディネーター制度を推進する。	11,361	○新潟県カーボン・オフセット制度の構築と運用 ○カーボン・オフセットの企業、県民への周知 ○新規プロジェクトの発掘及びプロジェクト実施者への支援 ○コーディネーターの活用をはじめとするクレジットの販売促進

基本目標Ⅲ 男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会づくり

重点目標6 地域や防災・災害復興分野等における男女共同参画

R3年度 当初予算 (千円)	令和3年度実績、男女共同参画の視点に 配慮した取組及び効果	現状の分析、今後の取組等	担当課
5,629	○新潟県環境賞の表彰 ○「環境保全ポスターコンクール」実施 ○環境学習会の実施 ○「にいがた環境フェスティバル」の開催 ○男女問わず参加できるような内容となるよう留意し、男女の区別を設けず事業を実施した。	今後も、男女の区別なく参加が可能な事業を企画立案、実施していく。	環境政策課
1,739	○温室効果ガス排出量の削減に積極的に取り組む事業所を対象とした表彰制度の運用 ○省エネ対策の情報提供、省エネ診断受診支援 ○男女の区別を設けず事業の企画立案を行った	今後も、男女の区別なく参加が可能な事業を企画立案、実施していく。	環境政策課
448	○家庭でできる地球温暖化対策に取り組んでもらうため「こどもエコチャレンジ」を実施 ○環境リーダー育成協議会を開催し、養成講座を実施した。 ○男女問わず参加できるようなカリキュラム内容となるよう留意するとともに、参加しやすい時期及び会場で養成講座を開催した。 ○事業実施後のアンケートから、男女とも活動意欲を高めたとの結果が得られた。	今後も男女受講者の意見・要望等を事業に反映する。	環境政策課
5,691	○新潟県カーボン・オフセット制度の構築と運用 ○カーボン・オフセットの企業、県民への周知 ○新規プロジェクトの発掘及びプロジェクト実施者への支援 ○コーディネーターの活用をはじめとするクレジットの販売促進 ○男女の区別を設けず事業の企画立案を行った。	今後も男女参加者の意見・要望等を事業に反映する。	環境政策課